

令和元年度第18回 地域連携推進機構運営会議 議事次第

日 時：令和2年1月20日（月） 10：00～12：00

場 所：本部管理棟 2階 第二会議室

【議題】

<審議事項>		資料番号
1	国立大学法人琉球大学地域連携推進機構規則の一部改正について	審議 1
2	全学自己点検・評価会議における中期目標・中期計画の進捗確認について	審議 2
3	令和2年度年度計画（案）の作成について	審議 3
4	鹿児島大学との意見交換について	審議 4
5	非常勤講師の資格審査について	審議 5
6	重点施策事業における取組について	審議 6
7	令和2年度公開授業について	審議 7
8	令和2年度公開講座について	審議 8
9	その他	
<報告事項>		
1	第3回未来共創フォーラムの開催について	報告 1
2	琉球大学地域連携 FD・SD 研修会の開催について	報告 2
3	琉大イノベーションイニシアティブ（仮称）の設置について	報告 3
4	各室・部門の当面の活動予定（主要事項）について	報告 4
5	その他	

※参考資料

- ・ 地域連携推進機構運営会議 委員名簿（令和元年11月11日時点）（参考資料1）
- ・ 国立大学法人琉球大学地域連携推進機構規則（参考資料2）
- ・ 地域連携推進機構運営会議座席表（参考資料3）

※今後の日程（予定）

- ・ 第16回 … 2月10日（月） 10：00～12：00 於：本部管理棟 2階 第二会議室
- ・ 第17回 … 3月 9日（月） 10：00～12：00 於：本部管理棟 2階 第二会議室

令和元年度第15回 地域連携推進機構運営会議

議事要旨（案）

日 時：令和元年12月9日（月） 10:00～11:40

場 所：大学本部棟2階 第二会議室

出席者：牛窪 潔（機構長）、竹村 明洋（副機構長 兼 産学官連携部門長）、背戸 博史（地域連携企画室長 兼 生涯学習推進部門長）、島袋 亮道（地域連携企画室 特命准教授）、小島 肇（地域連携企画室 特命准教授）、畑中 寛（地域連携企画室 特命准教授）、柴田 聡史（生涯学習推進部門 准教授）、眞榮平 孝裕（産学官連携部門 教授(併任)）、瀬名波 出（産学官連携部門 教授(併任)）、金城 徹（総合企画戦略部 地域連携推進課長）

欠席者：新田 早苗（総合企画戦略部長）

陪席者：嘉目 克彦（監事）、崎山 英樹（課長代理(併)企画係長）、與儀 あゆみ（産学連携推進係長）、赤嶺 雅哉（地域連携推進係長）、金城 まなみ（企画係主任）、田頭 明子（地域連携推進係主任）、宮平 知佳子（地域連携推進係員）、天願 翔太（産学連携推進係員）、照喜名 佑悟（企画係員）

※審議に先立ち、11月15日開催の令和元年度第13回運営会議議事要旨（案）および11月22日開催の令和元年度第14回運営会議（メール会議）議事要旨（案）について確認があり、了承された。

<審議事項>

議長から、次の5件の事項における機構の今後の対応について審議を行う旨提案があり、各担当から説明の上、審議を行った。

1. 地域連携推進機構体制の見直しについて

牛窪機構長から、資料（審議1）に基づき、地域連携推進機構体制の見直しについて、説明があった。また金城課長から、生涯学習推進部門と地域連携企画室の統合や産学連携推進部門の研究推進機構への移管を内容とした機構規則改正の方向性について説明があった。

主な意見は以下のとおり。

- ・ 7/58 頁の図について、地域連携推進機構には、副機構長に副理事を置く旨の記載があり、研究推進機構には副機構長に学長補佐を置く旨の記載があるが、統一する必要はないのか。（嘉目監事）
- ・ 10/58 頁の図について、地域共創企画室の6つの専門部会は今現在での例示であり、各専門部会の名称や中身における個別具体的な検討や確認は運営会議にて行っておいたほうが良いのではないか。（背戸室長）
- ・ 7/58 頁の図について、地域共創企画室に外部から新たに専任教員を置くということだが、どういった人材を想定しているのか。（眞榮平教授）

例示として並べられた6つ開発専門部会の強化を図っていくということで産業界や自治体とのマッチングが出来る専門人材を想定する、専門人材は大学教員に限らず産業界等の人材も

含める。(牛窪機構長)

審議の結果、会議資料記載(6/58頁)のスケジュールのとおり推進することが了承された。

2. 教員選考について

牛窪機構長及び金城課長から、資料(審議2)に基づき、教員選考について説明があった。

主な意見は以下のとおり。

- ・ 開発実践専門部会で採用する人材は必ず教員でなければならないのか、教員というカテゴリーにするとどうしても研究教育などの業績を見る必要が出てくるかと思うが、事務という扱いの方がもっとより広く多様な人を募集できるのではないか。(瀬名波教授)
今後、本学の規則が改正され、事務職員と教員の間ぐらいのコーディネーターという役割を担う職員を雇えるようになってくると、また違う形になるかと思う。現段階では、事務職員は概ね2、3年で人事異動するため、10年・20年も専門職員という形で同じ事務職員を置くことはできないというのが本学の実状である。(金城課長)
- ・ 教員人事の採用において、どういう人材を求め、どういう職務内容を担うという公募要領をどこか会議の場でしっかり検討し決めていく必要があるのではないか。(嘉目監事)
12/12に予定している地域連携推進会議にて牛窪理事からご説明し、検討していく。(金城課長)

審議の結果、教員選考の人事を進めること、また選考に係る申し合わせの作成等を機構長・副機構長・現専任教員2名に一任することが了承された。

3. 琉大未来共創フォーラムについて

牛窪機構長から、資料(審議3)に基づき、琉大未来共創フォーラムについて説明があった。審議の結果、第2回と第3回の案について提案のとおり了承された。

4. 国立大学法人琉球大学研究成果有体物取扱規程の一部改正について(再審議)

竹村部門長から、資料(審議4)に基づき、研究成果有体物取扱規程の一部改正について説明があった。審議の結果、規程第6条の但し書きの文面について提案のとおり了承された。

5. 公開授業の追加について

背戸部門長から、資料(審議5)に基づき、公開授業の追加について説明があった。

主な意見は以下のとおり。

- ・ 外部の機関に公開授業の受講生の募集を任せていることや日本スパマネジメント協会が設定している受講料33,000円と大学に入る授業料の差額は一体どうなるのかという問題がある。大学としてこれをどこで認めているのか、学部の教授会でしっかり議論されたかどうかを確認する必要がある。(嘉目監事)
- ・ この授業は、新しい産学の在り方として始まっている一つの良い事例であり、また受講者からすると大学の事情は分からないため、これまで継続してきた公開授業を今回から開講しないとした場合、大学側が悪いイメージ持たれるのではないか。参加費の内訳をしっかりとホームページ上で参加者に対して明示する、その上でこの授業の意味合いや続けられる可能性があるかどうかを再考するべきではないか。その中で監事のご指摘のとおり不透明な部分が

あれば非承認という結論になるかと思う。(瀬名波教授)

- ・ 科目番号がついているので、我々教員の側からすると、教員が変わっても同じ授業が提供できるというのが基本だが、例えば担当教員が変わったときに同じ授業が提供されるのか、また学部学科でどのように議論がされた上で授業提供しているのかお聞きしたい。そのような情報もあれば、今後教えて頂きたい。(眞榮平教授)
- ・ 一昨年、公開講座の規程を改正した際に、各学部の規程に基づいて学部単位で公開講座が実施できるようになった。ただ、公開講座の規程の読み方によっては、公開授業も学部単位で実施することもできなくはなく、学長名の修了証は出ないが、学部単位の公開授業として学部長名の修了証は出る。その場合は公開授業の情報は当機構やグローバル教育推進機構には入ってこない。(背戸部門長)

審議の結果、公開授業の追加可否については保留にし、関係者に事実関係の確認を行い、今後の対応について検討していくことが了承された。

<報告事項>

議長から、次の3つの事項について機構の現状の認識と情報の共有を図るため、各担当から報告を行うよう発言があった。

1. アグリビジネス創出フェア 2019 での出展について
竹村部門長から、資料（報告1）に基づき、報告があった。
2. 新技術説明会での発表について
竹村部門長から、資料（報告2）に基づき、報告があった。
3. 各室・部門の当面の活動予定（主要事項）について
各室・部門から、資料（報告3）に基づき、それぞれ報告があった。

令和元年度第16回 地域連携推進機構運営会議（メール会議）

議事要旨（案）

日 時：令和元年12月23日（月）（メール送信日）～12月24日（火）（意見等期限日）

委 員：牛窪 潔（機構長）、竹村 明洋（副機構長 兼 産学官連携部門長）、背戸 博史（地域連携企画室長 兼 生涯学習推進部門長）、小島 肇（地域連携企画室 特命准教授）、島袋 亮道（地域連携企画室 特命准教授）、畑中 寛（地域連携企画室 特命准教授）、柴田 聡史（生涯学習推進部門 准教授）、瀬名波 出（産学官連携部門 教授(併任)）、眞榮平 孝裕（産学官連携部門 教授(併任)）、新田 早苗（総合企画戦略部長）、金城 徹（総合企画戦略部 地域連携推進課長）

<審議事項>

急を要する案件であることから、議長の提案により、次の事項についてメールにより審議を行った。

1. プロジェクトシート12月確認について

審議の結果、原案どおり了承された。

令和元年度第17回 地域連携推進機構運営会議

議事要旨（案）

日 時：令和2年1月7日（火） 13：15～15：40

場 所：大学本部棟2階 第二会議室

出席者：牛窪 潔（機構長）、竹村 明洋（副機構長 兼 産学官連携部門長）、背戸 博史（地域連携企画室長 兼 生涯学習推進部門長）、島袋 亮道（地域連携企画室 特命准教授）、小島 肇（地域連携企画室 特命准教授）、柴田 聡史（生涯学習推進部門 准教授）、眞榮平 孝裕（産学官連携部門 教授(併任)）、瀬名波 出（産学官連携部門 教授(併任)）、新田 早苗（総合企画戦略部長）、金城 徹（総合企画戦略部 地域連携推進課長）

欠席者：畑中 寛（地域連携企画室 特命准教授）

陪席者：嘉目 克彦（監事）、崎山 英樹（課長代理(併)企画係長）、與儀 あゆみ（産学連携推進係長）、赤嶺 雅哉（地域連携推進係長）、金城 まなみ（企画係主任）、照喜名 佑悟（企画係員）

<審議事項>

議長から、次の1件の事項について審議を行う旨提案があり、説明の上、審議を行った。

1. 国立大学法人琉球大学地域連携推進機構規則の一部改正について

牛窪機構長から、資料（審議1）に基づき、国立大学法人琉球大学地域連携推進機構規則の一部改正（案）について説明があった。

主な意見は以下のとおり。

- ・機構の目的をどう置くかで、機構の業務や地域共創企画室の役割に関わってくる。
- ・「地域貢献」は大きな目的であって、人材育成や地域連携といった文言との並列にはそぐわないのではないか。
- ・学長の「イノベーションの先導に向けた体制の見直しに向けて」の基本的な方針では、地域連携機構は人材育成、教育が中心的な任務ではないか。
- ・地域連携推進機構運営会議と地域連携推進会議の立ち位置、何を審議するかを明確にするべき。各部局と機構をつなげる担保は推進会議しかない。
- ・規則のつくりとしては、地域共創企画室より先に、機構全体の組織や会議体に関する条文があった方がよいのではないか。

審議の結果、委員からの意見に基づく修正案を作成し、改めてメール会議にて審議することとなった。

<報告事項>

なし

第3期4年目終了時法人評価の提出資料に対する確認事項について

下記のセンターからの確認事項について、ご回答ください。

- ①業務実績報告書において、5年目（令和2年度）以降に実施予定としている取り組みが中期計画の確実な達成を見込めるものとなっているか。
- ②達成状況報告書において、中期目標の達成が意識されているか。
- ③達成状況報告書において、中期計画の確実な達成が見込まれるか。

- ①業務実績報告書において、5年目（令和2年度）以降に実施予定としている取り組みが中期計画の確実な達成が見込めるものとなっているか。

中期計画番号	中期目標	中期計画	確認内容	該当ページ	担当理事・副学長
49	人材の多様性や流動性を高めて、教育研究の活性化を図る。	適切な業績評価体制による年俸制の適用教員比率を12%以上に拡大するとともに、混合給与制度の併用によって、教育・研究・管理運営等において優れた業績を有する多様な人材を確保する。	○クロスアポイントメント制度の推進について、具体的な対応策があればご教授ください。また、同制度の適用による研究成果等についてもご教示ください。 【回答】	12	木暮理事 福治理事

第3期4年目終了時法人評価の提出資料に対する確認事項について

中期計画番号	中期目標	中期計画	確認内容	該当ページ	担当理事・副学長
50	人材の多様性や流動性を高めて、教育研究の活性化を図る。	高い専門性を必要とする業務に携わる職員（リサーチ・アドミニストレータなど）のキャリアパスを含めた研究推進機構等の組織・運営体制を平成31年度までに整備する。	○『高い専門性を必要とする業務に携わる職員』について、URA以外の職種【UEA（University Education Administrator）等】について、採用実績や具体的取組（又は成果）、今後の計画等をご教示ください。 【回答】	12	木暮理事
55	職員の能力向上を図るとともに、事務業務の効率化、省力化、組織編成の見直し等の改善を行う。	新たな機構等（大学運営推進組織）の設置に伴い、人材の有効活用を図り、効率的で合理的な事務組織の改編を行う	○早期昇任制度について、制度適用による効果の検証実績がございましたらご教示ください（検証方法案や具体的な検証計画案等でも可）。 ○効率的で合理的な事務組織の改編について、改編による効果の検証予定をご教示ください。（検証方法案や具体的な検証計画案等）。 ○RPAの導入及びその効果について検討している検証状況をご教示ください。 【回答】	16	福治理事

第3期4年目終了時法人評価の提出資料に対する確認事項について

7	地域の産学官が保有する多様な資源を活かし、地域を志向した教育研究を推進する産学官協働の仕組みを構築し、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。	○各中期計画の、どの部分が「多様な資源を活かし」、「産学官協働の仕組みを構築」、「地域社会の発展に貢献する人材を育成」と言えるのか不明瞭ですので、各計画が中期目標にどのように寄与し、現状、中期目標がどの程度達成されているかご教示ください。（資料があればそれで構いません。） 【回答】大学外からの講師を依頼することにより学内だけではなく多様な資源を生かしかつ地域社会の発展に貢献する人材育成として下記の目的別人材育成プログラムを実施した。 沖縄県、内閣府の産業人材育成事業に採択され、一般社団法人重要生活機器セキュリティ協議会と連携し人材プログラムの開発を進めてきた。 又、10月より、「初級地域公共政策士」の認証科目に認定された6科目について、公開授業として募集を開始し、21名の社会人を受け入れ、初級地域公共政策士の資格取得を目指している。 以下16件のプログラムを計402名（学生178名、社会人224名）が受講した。 ① 地域企業（自治体）お題解決プログラム（前期・後期開講） ② 政策立案能力基礎プログラム ③ IoTシステムセキュリティ実践講座 ④ ブロックチェーン行政業務コース ⑤ キャリアデザインとジェンダーⅡ ⑥ クラウドファンディング実践講座 ⑦ 星空案内人養成講座 ⑧ 地域子ども総合支援者基礎講座 ⑨ 地域子ども総合支援者養成講座 ⑩ 地域の子どもの支援するインクルーシブ教育推進人材の育成プログラム ⑪ 政策立案能力強化プログラム ⑫ 地域円卓会議マネジメントの技法と実践 ⑬ ブロックチェーンテクノロジーコース基礎編 ⑭ ファシリテーションの技法と地域振興 ⑮ ソーシャルキャピタル構築講座（島マス記念塾 in 琉大） ⑯ 社会的インパクト投資基礎概論	49 ～50	牛窪理事
---	---	--	-----------	------

第3期4年目終了時法人評価の提出資料に対する確認事項について

中期目標番号	中期目標	確認内容	該当ページ	担当理事・副学長
8	沖縄の産業活性化及び持続的な自立型経済の実現に向けて、学術的基盤に立脚して地域社会が抱える課題の解決や産業振興に資する取組を推進し、「行動するシンクタンク」として地域再生・活性化に貢献する。	○中期計画29がどのように進捗しているか不明瞭ですので、中期計画29も含んだ上で、各計画が中期目標にどのように寄与し、現状、中期目標がどの程度達成されているかご教示ください。（資料があればそれで構いません。） 【回答】・「初級地域公共政策士」のプログラムの講座を開講し人材の輩出を目指し、「地域共創人材バンク」への登録を目指している。 学長による「イノベーションの先導に向けた体制の見直しに向けて」の基本的な方針に基づき、イノベーションの先導に向け、基礎研究から産学官連携まで一貫して研究者を支援できる体制への再編を進めるため地域連携推進機構の産学官連携業務を研究推進機構へ移管するために規則、教員の配置等を検討し、「地域共創人材バンク」の令和2年度の制度設計と運用を目指している。	56 ～57	牛窪理事

第3期4年目終了時法人評価の提出資料に対する確認事項について

③達成状況報告書において、中期計画の確実な達成が見込まれるか。

中期計画番号	中期目標	中期計画	確認内容	該当ページ	担当理事・副学長
7	21世紀型市民として、幅広い知識や高度の専門知識、応用能力、課題解決能力等の獲得を通して普遍的価値を身につけ、地域社会及び国際社会で活躍し、その発展に貢献できる人材を育成する。	大学院教育の質保証を図るため、琉大版質保証システム（URGCC）に基づいて大学院版を開発して平成29年度から導入し、学部入学から大学院修了までの共通の教育目標を軸とした一貫した教育を行う。また、高い倫理観と広い視野をもった高度専門職業人を養成するため、研究倫理等に関する全学共通コア科目を新設する。	○平成29年度に受審した機関別認証評価にて「大学院課程において、作成されたシラバスについて、学士課程と同様の組織的な点検が行われていない。」との要改善指摘がございました。それに対して、今年度は「大学院カリキュラム・マップ」によるディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの点検・確認を行うとともに、大学院教育におけるシラバスの在り方や組織的な点検体制・実施方法等について全学的に検討する。」という改善計画のもと対応を進めていただいているところですが、本計画の達成にも関連するため、シラバスの改善に何年度に着手するかが決定していない場合は、今年度中に決定していただきますようお願いいたします。 【回答】	10 ～11	井上理事

第3期4年目終了時法人評価の提出資料に対する確認事項について

中期 計画 番号	中期目標	中期計画	確認内容	該当 ページ	担当理事 ・副学長
10	学生に広く知識を修得させ、基礎的教養と専門性を連結した応用能力を身につけさせる総合的な実施体制に基づいて、多様な教育資源を活用した大学教育を展開する。	教育プログラムの点検と改善を確実なものとするため、グローバル教育支援機構が中核となり、IR推進室と協働して入学から卒業・就職までの学生データに基づいて、プログラム間の相互評価と教育改善を行う。	○達成状況報告書の補足資料である「1-2-1-1_「年度計画 10 学生調査及び卒業生調査のデータ分析を行い、教育プログラム間の相互評価と教育改善を行う」の今後の進め方について_2019_11_07」によると、今年度中にグローバル教育支援機構大学教育支援部門にて教学データを分析し、全学学士教育プログラム委員会にて分析結果を報告及び改善項目検討依頼をするという事ですが、今年度中に改善事項の決定及び5・6年目までに具体的にどの程度の改善を実施するかまでをも含めて決定していただきますようお願いします。 【回答】	15 ～16	井上理事

第3期4年目終了時法人評価の提出資料に対する確認事項について

中期 計画 番号	中期目標	中期計画	確認内容	該当 ページ	担当理事 ・副学長
29	沖縄の産業活性化及び持続的な自立型経済の実現に向けて、学術的基盤に立脚して地域社会が抱える課題の解決や産業振興に資する取組を推進し、「行動するシンクタンク」として地域再生・活性化に貢献する。	「行動するシンクタンク」として地域コーディネータ機能を強化するため、地域連携推進機構に交流人材センター（仮称）を設置し、企業経営や行政運営の改善に関する専門人材を配置するとともに、企業や自治体等との連携体制を構築する。	○専門人材の登用を行っている事は見てとれるが、その成果が不明瞭ですので、具体的に下記3点について、ご記載いただきますようお願いいたします。 ・コーディネータ機能が強化されたのか。されたのであればどのような強化なのか。 ・交流人材センター（仮称）の設置の進捗はどうか。 ・企業や自治体等との連携体制の構築の進捗状況はどうか。 【回答】・地域コーディネーターの人材輩出を目指し、「初級地域公共政策士」のプログラム講座を開講し、その人財を「地域共創人材バンク」への登録を目指している。 ・学長による「イノベーションの先導に向けた体制の見直しに向けて」の基本的な方針に基づき、イノベーションの先導に向け、基礎研究から産学官連携まで一貫して研究者を支援できる体制への再編を進めるため地域連携推進機構の産学官連携業務を研究推進機構へ移管するために規則、教員の配置等を検討し、「地域共創人材バンク」の令和2年度の制度設計と運用を目指している。	57 ～58	牛窪理事

中期目標・中期計画の進捗状況についての点検事項一覧

下記のセンターからの指摘及び担当理事・副学長として把握されている事項について、ご回答ください。

- 【1. 4年目終了時までの進捗に関する懸念（達成困難、落としどころ不明確など）について】
- 【2. 4年目終了時に計画を上回っていると期待できる点について（ご提案）】→センターの認識です。指摘にご回答下さい。
- 【3. その他（確実に準備する必要のあるエビデンス）】→担当理事・副学長としての認識をご教示下さい。

【1. 4年目終了時までの達成が難しいまたは落とし所が不明確と想定されるもの】

計画 番号	中期目標	中期計画	年度計画	確認内容	担当理事 ・副学長
2	21世紀型市民として、幅広い知識や高度の専門知識、応用能力、課題解決能力等の獲得を通して普遍的価値を身につけ、地域社会及び国際社会で活躍し、その発展に貢献できる人材を育成する。	学士課程では、学生の学修成果の向上のため、学士教育プログラムにおける成績評価システムを検証し、学生の学問的な興味・関心や成績状況に適した科目履修選択が行えるよう、年次指導教員による履修指導を徹底するとともに、履修科目取り消し（ウィズドロウ）制度を平成29年度から導入する。	教学マネジメントを強化するため、グローバル教育支援機構に大学教育支援部門を新設するとともに、シラバスのピアレビューや学生調査により学士教育プログラムにおける成績評価システムの検証・改善を行う。	年度計画「学生調査により学士教育プログラムにおける成績評価システムの検証・改善」について対応する年度取組がプロジェクトシートにおいては設定されていないように見受けられますが、実際には対応する取組は行われているのでしょうか。 【回答】	井上理事

中期目標・中期計画の進捗状況についての点検事項一覧

計画番号	中期目標	中期計画	年度計画	確認内容	担当理事・副学長
3	21 世紀型市民として、幅広い知識や高度の専門知識、応用能力、課題解決能力等の獲得を通して普遍的価値を身に付け、地域社会及び国際社会で活躍し、その発展に貢献できる人材を育成する。	学士課程では、大学での主体的かつ協働的な学びへの転換とその定着を図るため、アクティブ・ラーニングによる初年次教育科目を必修化する。また、e ラーニング及び遠隔授業システム等を活用して、学部間連携、産学官連携及び国内外の大学間連携に基づく協働教育を拡充する。	アクティブ・ラーニングによる初年次教育及び協働教育の効果について、学生の主体性及び協働性を中心とした学生調査により検証し、必要に応じて教育内容等の見直しを行う。	12 月確認の具体的事項「2018 学生調査データを用いて学習成果に対する主体的・協働的学びの効果を検証した」について、教育内容の見直しを行うこととなった事項があればご教示ください（2018 学生調査報告書にはいくつか改善を検討する必要があると記述されている項目がありました）。 【回答】	井上理事
5	21 世紀型市民として、幅広い知識や高度の専門知識、応用能力、課題解決能力等の獲得を通して普遍的価値を身に付け、地域社会及び国際社会で活躍し、その発展に貢献できる人材を育成する。	地域における教員養成拠点となるため、附属学校や地域の学校等との関係をより緊密にし、教科及び教職に関する科目を有機的に結びつけた体系的な教職課程を編成して、学生の自律的・実践的な能力を育成し、沖縄県における小学校教員採用者の占有率を 40% とする。また、質の高い学校教員の養成に資するよう、本学における教員養成のための全学的な仕組みを構築する。	学生の自律的・実践的な能力を育成し、沖縄県における小学校教員採用者の占有率 40%以上を目指す。また、改正教育職員免許法に則した教員養成カリキュラムを実施する。	中期計画「学生の自律的・実践的な能力を育成した。」や「学生の自律的・実践的な能力を育成し」をどのようにして客観的に示すのかについてのお考えをご教示ください。 【回答】	井上理事

中期目標・中期計画の進捗状況についての点検事項一覧

計画 番号	中期目標	中期計画	年度計画	確認内容	担当理事 ・副学長
8	21 世紀型市民として、幅広い知識や高度の専門知識、応用能力、課題解決能力等の獲得を通して普遍的価値を身につけ、地域社会及び国際社会で活躍し、その発展に貢献できる人材を育成する。	専門職学位課程（法曹）では、法曹養成のための高等専門教育の継続的な質的改善を行うとともに、地域特性に根ざしつつ国際的視野を有するグローバルな法曹を輩出する。	人文社会学部との教育連携の下で実質 6 年一貫の法曹教育を行う。夜間開講の導入により多様な学生を受け入れる。新カリキュラムにより教育内容の改善を図るとともに、「グローバルかつ性の多様性を尊重する法曹」の育成のための新たな科目を開講する準備を行う。	平成 30 年度の認証評価の受審に向けた自己評価作業から評価結果を受けるまでの過程で、自ら改善が必要と思われた事項や評価が低かった事項について洗い出しをしているか、またその改善に向けたアクションを策定されているかについてご教示ください。もし未策定であれば、今後行っていただけとよいと思われます（達成状況報告書にて計画を上回っているとする材料になるため）。 【回答】	井上理事
18	学長のリーダーシップのもと、大学卒業後のキャリア形成を視野に入れた高大接続システム改革の実現に資する、多面的・総合的な入学者選抜方法に転換する。	本学の理念・目的を踏まえ、学力の 3 要素を適切に評価するためのアドミッション・ポリシーをディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと連動させて明確化し、そのアドミッション・ポリシーに基づく多面的・総合的評価による入学者選抜方法を開発し、平成 33 年度入試から全学部での導入を目指す。導入当初は募集人員の 20% を目標とする。	2021 年度入学者選抜のアドミッション・ポリシーを決定・公表し、それに基づく多面的・総合的評価による入学者選抜方法の決定・公表を行う。	学士教育プログラム委員会が毎年行っている DP・CP との整合性チェックと、当該計画のもとアドミッションセンターが実施する 3 ポリシーのチェックの役割の違いについてご教示ください。（重層的 or 多面的な 3 ポリシーの検証体制を有しているとして PR できるかもしれないため） 【回答】	井上理事

中期目標・中期計画の進捗状況についての点検事項一覧

計画 番号	中期目標	中期計画	年度計画	確認内容	担当理事 ・副学長
30	沖縄の産業活性化及び持続的な自立型経済の実現に向けて、学術的基盤に立脚して地域社会が抱える課題の解決や産業振興に資する取組を推進し、「行動するシンクタンク」として地域再生・活性化に貢献する。	地域の産業振興を推進するため、沖縄産学官連携推進協議会等と連携し、企業ニーズを掘り起こし、本学の研究成果とのマッチングを行い、沖縄の産業振興に寄与する共同研究等を推進する。	地域連携推進機構において、地域や企業のニーズと本学の研究成果とマッチングを行い、沖縄の産業振興に寄与する共同研究等を推進する。また、ベンチャー創出に向けた取組を行う。	○教員向けベンチャー創出支援について、支援の成果を測定するためにはモニタリングが必要かと思いますが、そのような体制が整っているのでしょうか。モニタリング体制がある場合はどのような体制となっているかを具体的にご教授ください。また、モニタリング以外の方法で効果測定を行っているのであれば、その方法を具体的にご教授ください。 ○学生向けの企業教育について、教員向けベンチャー創出支援と同様、モニタリング等の効果測定体制が必要かと思いますが、どのようになっているのでしょうか。具体的にご教授ください。 【回答】 教員向けベンチャー創出支援については、平成29年3月に本学における大学発ベンチャーの認定制度をスタートし、これまでに7社のベンチャー企業を認定し、「琉球大学発ベンチャー」の称号を授与している。称号を授与したベンチャー企業については、年1回程度、活動状況を確認している。また、九州・大学発ベンチャー振興会議と連携し、平成30年度より、ベンチャー創出に向けたギャップ資金を支援している。これについては年2回程度、活動状況を確認している。 学生向けの起業教育については、沖縄県からの受託事業「イノベーション創出人材育成事業」において、学生等の起業支援を実施している。本事業の中で、ビジネストライアルラボを設置し、ラボに登録している起業・創業を目指す学生等の支援を行っている。また、これまで実施してきた起業家人材育成に関する事業に参加した学生等のその後の動向を調査し、必要に応じて本事業で実施する各種プログラムでフォローアップを行っている。	牛窪理事

中期目標・中期計画の進捗状況についての点検事項一覧

計画 番号	中期目標	中期計画	年度計画	確認内容	担当理事 ・副学長
56-2	大型競争的資金及びその他外部資金を戦略的に獲得する。	URA（リサーチ・アドミニストレーター）による外部資金の情報収集や応募企画の立案など、外部資金獲得支援機能を強化し、大型競争的資金を獲得する。また、基金創設の一環として、ステークホルダーに対応した広報活動を行い、寄附金等の外部資金を獲得する	平成32年度（2020年）に向けた開学70周年事業募金及び琉球大学基金の広報活動をそれぞれのステークホルダーに行い、新たな寄附者を獲得する。	さまざまなステークホルダーに対して、個別の企画ごとにさまざまな取組をされているようですが、基金室内部でその整理がついているか不明に感じる点があります。 ステークホルダーと企画のマトリクス表を作り、それぞれのステークホルダーに各企画においてどのような対応をしているか整理していただき当センターまでご提出いただきたいです。提出が難しい場合は理由をお教えてください。 【回答】	牛窪理事

中期目標・中期計画の進捗状況についての点検事項一覧

【2. 4年目終了時に計画を上回っていると期待できる点について（ご提案）】

計画番号	中期目標	中期計画	年度計画	確認内容	担当理事・副学長
24	基盤的分野並びに本学の強み・特色となる分野において、組織的な研究支援事業を推進するとともに、多様な人材が活躍できる機動的かつ柔軟な研究環境の整備を行う。これを踏まえて、研究者の国際交流・国際共同研究を促進し、アジア・太平洋地域をリードする教育研究拠点大学への歩みを加速する。	人材のダイバーシティ向上を念頭に、若手・女性・外国人等の研究者が能力を最大限に発揮できる柔軟な研究環境を整備する。特に女性研究者の研究活動を支援する支援員制度などや出産・育児・介護などのライフイベントと研究との両立のための支援制度を拡充する。また、指導的地位にある女性研究者数の増加に向けた女性研究者を代表者とする共同研究の促進制度などのキャリア支援の取組を強化する。	女性研究者の採用、定着、上位職への登用を進めるため、研究環境の整備や研究力向上、リーダーとしての能力向上、ワーク・ライフ・バランスの実現を目的とした各種支援策等を実施する。また、若手研究者等への研究支援を引き続き実施するほか、女性研究者上位職登用のための具体的な方策について検討し、実施する。	○中期計画にある「若手・女性・外国人等の研究者が能力を最大限に発揮できる柔軟な研究環境を整備する。」について、例えば、施設面での改善があればそれを含めて記載してはいかがでしょうか。 ○女性研究者支援に係る取り組みの数や幅の広さが顕著で、力を入れていることが見て取れるため、その点について記載してはいかがでしょうか。その場合、女性研究者の採用率・在職率・昇任率等、これまでの取組に対する成果が客観的に確認できるエビデンスを提示いただきたいと考えております。 【回答】	牛窪理事

中期目標・中期計画の進捗状況についての点検事項一覧

計画 番号	中期目標	中期計画	年度計画	確認内容	担当理事 ・副学長
51	人材の多様性や流動性を高めて、教育研究の活性化を図る。	ダイバーシティを推進し、多様な人材が活躍できる環境を整備するとともに、支援体制の充実・強化に向けて取り組む。また、女性管理職の割合を20%以上に高める。	教職員のワーク・ライフ・バランスを確保するための育児・介護支援制度や、女性・外国人・障がい者等に配慮した職場環境、就学環境の改善に向けた取組を継続、充実させる。また、女性管理職を育成するための研修等を実施し、女性管理職の割合 20% 以上に向けた取組を行う。	事務系職員の外国人限定公募の実施について記載してはいかがでしょうか。 【回答】	牛窪理事 福治理事

中期目標・中期計画の進捗状況についての点検事項一覧

【3. その他（確実に準備する必要のあるエビデンス）】→担当理事・副学長としての認識をご教示下さい。

計画 番号	中期目標	中期計画	年度計画	計画を上回る、あるいは達成上課題となっている理由	担当理事 ・副学長
55	職員の能力向上を図るとともに、事務業務の効率化、省力化、組織編成の見直し等の改善を行う。	新たな機構等（大学運営推進組織）の設置に伴い、人材の有効活用を図り、効率的で合理的な事務組織の改編を行う。	人材の有効活用を図り、効率的で合理的な事務組織の改編を行う。	中期目標にある「事務業務の効率化、省力化」について、客観的に成果を確認できるデータ（定量的なデータ、定性的なデータのいずれも）について、検証方法案や具体的な検証計画案等をご教示ください。（時間外労働時間数、体制変更で対応した業務など）	福治理事
57	効率的な組織運営に資するため人件費を適正に管理するとともに、管理的経費を抑制する。	総人件費を抑制するため、平成28年度に策定する人件費の長期的な管理計画（人件費管理計画）に沿って人件費を適正に管理するとともに、随時、人件費管理計画の見直しを行う。	平成28年度に策定した人件費管理計画に沿って適正に人件費を管理し、総人件費の抑制に努める。また、平成30年度に策定した人件費管理計画に基づき取組を実施する。	○総合的教職員ポスト運用戦略による人件費削減額の見込額及び実際の教員人件費の推移が確認できる資料がございましたらご教示ください。 ○人件費管理計画により抑制（削減）された人件費（管理的経費）の推移が確認できる資料がございましたらご教示ください。 ○人事企画課と財務企画課の連携について、具体的にどのような部局横断の取り組みを実施されたのかご教示ください。	福治理事

7-26

平成31年度プロジェクトシート【計画】（様式1）

中期目標	区分	I	大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	大項目	3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標
	中項目		
	小項目	7	地域の産学官が保有する多様な資源を活かし、地域を志向した教育研究を推進する産学官協働の仕組みを構築し、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。
	小項目の具体的内容		地域を志向した教育研究プログラム及び多様な学習機会の拡充及び地域産業の振興を担うグローバルな人材育成により、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。

中期計画	区分	I	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
	大項目	3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するた		
	中項目				
	■小項目	26	地域の企業や自治体等のニーズに応えた人材を育成するため、地域志向のプログラムや地域創生科目の拡充を進める。また、COC事業やトビタテ留学JAPAN等の地域協働事業の展開を通して、本学が育成する人材の地元定着化に取り組む。		
	実施する内容		沖縄県、内閣府沖縄総合事務局、企業・NPO等との連携により以下を実施 ①地域志向教育推進プロジェクトによる、地域志向プログラムの拡充。②地域志向プロジェクトによる地域志向プログラムの拡充。③地域創生科目の拡充。④地域協働事業。⑤地域協働事業に学生を参画させる。		
	確認項目	①、②	地域志向プログラムがどのくらい増えたか。	対応部局	地域連携推進機構／各学部
		③	地域創生科目がどのくらい増えたか。		地域連携推進機構／各学部／グローバル教育支援機構
		④	地域協働事業数がどれくらい増えたか		地域連携推進機構／各学部
		⑤	地域協働事業に参画する学生がどれくらい増えたか		地域連携推進機構／各学部／グローバル教育支援機構
		⑤	地域協働事業に参画した学生のうち地元就職した学生の数		地域連携推進機構／各学部／グローバル教育支援機構

第3期中期目標・中期計画の達成推進用（共通）

中期計画の具体的取組として、第3期中期目標期間の各年度において実施する事項（年度計画及び実施項目）及び評価

年度	年度計画案	中期計画との関連 (中期計画をどのように具体化した取組であるのか)	当該年度に実施する取組概要	該当する確認項目番号
平成28年度	COC及びCOC+事業を通して開発した地域志向プログラム及び取組を推進しつつ、学部や学部間連携等による地域創生科目の拡充に着手するとともに、沖縄の地域振興やサービス経営人材の育成に資する科目を新設する。また、地域の求めるグローバル人材の輩出に資するようトビタテ留学JAPANプログラム等により学生を海外に派遣する。	①プロジェクトの実施による地域志向プログラムの拡充。②プロジェクトの実施による地域志向プログラムの拡充。③地域創生科目の拡充。④地域協働事業の展開	・地域志向教育プロジェクトの実施	①
			・地域志向プロジェクトの実施	②
			・地域創生科目の設定	③
			・トビタテ留学JAPANの実施	④
平成29年度	COC及びCOC+事業を通して開発した地域志向プログラム及び取組を引き続き推進しつつ、各学部等における地域創生科目を拡充する。さらに、地域創生科目の全学履修体制の構築に向けた整備を行うとともに、沖縄の地域振興やサービス経営人材の育成に資する科目を新設する。また、引き続き地域の求めるグローバル人材の輩出に資するようトビタテ！留学JAPANプログラム等により学生を海外に派遣する。	①プロジェクトの実施による地域志向プログラムの拡充。②プロジェクトの実施による地域志向プログラムの拡充。③地域創生科目の拡充。④地域協働事業の展開	・地域志向教育推進プロジェクトの実施	①
			・地域志向プロジェクトの実施	②
			・地域創生科目の開設	③
			・トビタテ留学JAPANの実施	④
平成30年度	地域のニーズに応える人材を育成するため、知のふるさと納税事業など地域人材育成プログラムを実施するとともに、地域創生科目を拡充する。また、地域振興・地域定着プロジェクト（COC+）やトビタテ留学JAPANなどの地域協働事業を産学官連携によって推進する。	①サテライト・イベント・カルッジや知のふるさと納税事業などの地域志向プロジェクトを引き続き実施すると共に、②地域志向教育推進プロジェクトにより、地域志向プログラムを推進する。③地域創生科目の拡充。④平成27年度から3年間実施していた地域人材コースを継続し、日本人留学生の拡充を図る（地域協働事業の展開）④学生の県内就職率の向上のため、COC+事業において、石垣市におけるインターンシップやうま市での業界研究バスツアー等を実施する。④平成30年度から新たに予算措置される戦略的推進経費を活用した公募によるアクションをとおして学生を活用した地域協働事業を実施する。	・地域志向教育推進プロジェクトの実施	①
			・地域志向プロジェクトの実施	②
			・地域創生科目の拡充	③
			地域協働事業の拡充	④
			地域協働事業に参加する学生の拡充	⑤
			地域協働事業に参加する学生のうち地元就職した学生数	⑤

第3期中期目標・中期計画の達成推進用（共通）

平成31年度	地域のニーズに応える人材を育成するため、知のふるさと納税事業など地域人材育成プログラムを実施するとともに、全学的な地域創生科目を拡充する。また、地域振興・地域定着プロジェクト（COC+）及びトビタテ留学JAPAN地域人材コースに取り組む。	・「地域創生副専攻」やサテライト・イベント・レゾ、知のふるさと納税事業などの地域志向プロジェクトを引き続き実施する。 ・地域志向教育推進プロジェクトにより、地域志向プログラムを推進する。 ・③地域志向科目の拡充、深化。（「地域創生副専攻」の科目として開講している共通教育の「琉大特色・地域創生科目」を改善を図りながら継続開講するのに加え、他部局が主担当として開講される「キャリア関係科目」や新設される副専攻「グローバル津梁プログラム」への参加協力を通して、地域と連携して地域を学ぶ「地域志向科目」を拡充・深化させる） ・④地域協働事業の拡充、深化。（④-1. COC+事業において開発した自治体や企業団体等と連携して実施する「地域協働事業」を改善を図りながら継続実施する。④-2. グローバル教育支援機構や各学部等、他部局が主担当として実施する実習・演習等への参加協力支援を通して、地域と連携して地域を学ぶ「地域協働事業」を拡充・深化させる。④-3. 学生の地域や地元企業への理解促進のための、インターンシップや地元企業視察を学部等及び地元自治体・企業団体等と連携して継続的に実施する。④-4. 「ちゅらプロ」等、学生が主体的に地域課題に取り組む活動を継続的に実施する。）④-5. 平成27年度から実施している地域人材コースを継続し、日本人留学生の拡充を図る（地域協働事業の展開）	・地域志向教育推進プロジェクトの実施	①
			・地域志向プロジェクトの実施	②
			・地域創生科目の拡充、深化	③
			・地域協働事業の拡充、深化	④
			・トビタテ留学JAPANの実施	④
			・地域協働事業に参加する学生の拡充	⑤
			・地域協働事業に参加する学生のうち地元就職した学生数	⑤

第3期中期目標・中期計画の達成推進用（共通）

平成32年度	地域の振興や発展を担う人材の育成に向け、知のふるさと納税事業や、COC+事業で開始した地域人材育成プログラムの継続等により地域創生科目を全学的に実施する。また、トビタテ留学JAPAN地域人材コースに取り組む。	・①サテライト・イベント・カレッジや知のふるさと納税事業などの地域志向プロジェクトを引き続き実施する ・③④⑤大学COC事業やCOC+事業で開講した地域志向科目を補助事業終了後も継続し、「地域創生副専攻」の運営を行う ・④⑤戦略的推進経費を活用して学生の主体的な活動や学部等における地域人材育成プログラムを支援する ・④トビタテ留学JAPAN地域人材コースを継続する ・①COC+事業終了後の補助事業獲得も視野に、自治体や企業団体との共創による新たな地域人材育成プログラムの検討を行う	地域志向教育推進プロジェクトの実施	①
			地域創生副専攻の運営	③④⑤
			地域人材育成プログラムの支援	④⑤
			トビタテ留学JAPANの実施	④
			地域との共創による新たな地域人材育成プログラムの検討	①
平成33年度	5年間の取組を検証し、第3期中期計画の着実な実施に必要な見直しと、第4期中期目標期間の地域社会の発展に貢献する人材育成に関する目標と計画を策定する。	年度計画内容確定次第記入	年度計画内容確定次第記入	

実施組織	推進責任者	理事・副学長（地域国際連携担当）（総合企画戦略部地域連携推進課）
	実施部局等	地域連携推進機構、グローバル教育支援機構、各学部、総合企画戦略部

全体プロジェクトとの関連	プロジェクト名称	ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）事業、新たな地域社会を創造する「未来叶い（ミライカナイ）」プロジェクト、沖縄21世紀ビジョンを担うグローバルサービス経営人材の育成事業、沖縄からアジアへトビタテ！留学JAPANプロジェクト
	関連する中期計画番号	

第2期を踏まえた状況整理	第2期末状況	平成25年度から、文部科学省大学COC事業、平成27年度には、文部科学省地（知）の拠点大学による地方創生推進事業及び経済産業省産学連携サービス経営人材育成事業がスタートし、地域志向のプログラムの開発が進められている。また今後、地方創生に関する科目を増やしていく環境が整いつつある。
	課題	大学COC事業及び産学連携サービス経営人材育成事業の補助金が平成29年度まで、地（知）の拠点大学による地方創生事業の補助金が平成31年度までのため、地域志向プロジェクト及び地域志向教育推進経費の財源等がなくなるため、その後の予算措置が課題。

7-27

平成31年度プロジェクトシート【計画】（様式1）

中期目標	区分	I	大学の教育研究等の質の向上に関する目標	
	大項目	3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	
	中項目			
	小項目	7	地域の産学官が保有する多様な資源を活かし、地域を志向した教育研究を推進する産学官協働の仕組みを構築し、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。	
	小項目の具体的内容		地域を志向した教育研究プログラム及び多様な学習機会の拡充及び地域産業の振興を担うグローバルな人材育成により、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。	

中期計画	区分	I	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
	大項目	3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するた		
	中項目				
	■小項目	27	教育研究の成果を踏まえ、サテライトキャンパスを活用した学習コミュニティづくりを強化し、多様な学習ニーズに基づく学習機会や学び直しの充実を図り、地域社会を支える人材の質の向上に繋がる取組を行う。		
	実施する内容		①公開講座及び公開授業を拡充する。②地域の学習ニーズ等を把握し、公開講座や公開授業等、大学が提供する教育プログラムを充実する。③サテライトキャンパスへ配信する公開講座及び公開授業を拡充する。④サテライトキャンパスでの出前による公開講座等を拡充する。⑤サテライトキャンパス活用方策の実施		
	確認項目	①	公開講座や公開授業の数や受講者数がどのくらい増えたか。	対応部局	地域連携推進機構、各学部
		②	ニーズに合った教育プログラムがいくつ提供できたか。		地域連携推進機構
		③	サテライトキャンパスへ配信する公開講座や公開授業の数や受講者がどのくらい増えたか。		地域連携推進機構
		④	サテライトキャンパスにおける出前による公開講座等の数がどのくらい増えたか。		地域連携推進機構
		⑤	サテライトキャンパス活用方策の実施		地域連携推進機構

第3期中期目標・中期計画の達成推進用（共通）

中期計画の具体的取組として、第3期中期目標期間の各年度において実施する事項（年度計画及び実施項目）及び評価

年度	年度計画案	中期計画との関連 (中期計画をどのように具体化した取組であるのか)	当該年度に実施する取組概要	該当する確認項目番号
平成28年度	公開講座及び公開授業の質的・量的な拡充を図るとともに、これまでの公開講座の実施体制の改善や地域の学習ニーズ等の把握により、公開講座や公開授業等、大学が提供する教育プログラムを充実させる。	多様な学習ニーズや学び直しの学習機会の充実を図る	・ 公開講座及び公開授業の実施	①
			・ ニーズ調査の実施	②
			・ 配信による公開講座及び公開授業の実施	③
			・ 出前講座の実施	④
平成29年度	公開講座及び公開授業の質的・量的な拡充を行うとともに、サテライトキャンパスにおける出前講座の実施及び地域の学習ニーズと大学のシーズのマッチングによる教育プログラムの開発に取り組む。	多様な学習ニーズや学び直しの学習機会の充実を図る	・ 公開講座及び公開授業の実施	①
			・ ニーズとシーズのマッチング	②
			・ 配信による公開講座及び公開授業の実施	③
			・ サテライトキャンパスにおける出前講座の実施	④
平成30年度	公開講座、公開授業及び平成29年度に開発したオーダーメイド型自治体職員向け講座を実施し、検証による改善を行う。また、サテライトキャンパスを活用した学び直しの機会を拡充する。	平成29年度に制定された琉球大学公開講座規定を踏まえ、全学的な公開講座の実施方針を見直し、公開講座・公開授業の充実を図る。また、平成29年度に開発した自治体職員向けの講座（セミナー・研修）を拡充するとともに、検証し、PDCAサイクルを回しながら、改善を図る。 平成30年度から新たに予算措置される戦略的推進経費を活用した公募によるアクションからのサテライトキャンパスを活用した事業や、70周年記念事業として予定されている琉球大学地域貢献フォーラム（仮称）をサテライトキャンパスを活用することにより、学習コミュニティづくりの強化を図る。	・ 公開講座及び公開授業の実施	①
			・ 教育プログラムの提供	②
			・ 配信による公開講座及び公開授業の実施	③
			・ 出前講座の実施	④
			・ サテライトキャンパスの活用方策の検討	⑤

第3期中期目標・中期計画の達成推進用（共通）

平成31年度	サテライト配信する公開講座と公開授業を充実させ、出前講座や教育プログラムを提供する。	公開講座及び公開授業の実施、教育プログラムの提供により、多様な学習ニーズや学び直しの学習機会の充実を図る。また、公開講座や公開授業の配信、出前講座等により離島や北部地域の学習機会の充実を図る。	・公開講座及び公開授業の実施	①
			・教育プログラムの提供	②
			・配信による公開講座及び公開授業の実施	③
			・出前講座の実施	④
平成32年度	サテライト配信する公開講座と公開授業を充実させ、出前講座や教育プログラムを提供する。	公開講座及び公開授業の実施、教育プログラムの提供により、多様な学習ニーズや学び直しの学習機会の充実を図る。また、公開講座や公開授業の配信、出前講座等により離島や北部地域の学習機会の充実を図る。	・公開講座及び公開授業等の教育プログラムの提供・実施	①②
			・配信による公開講座及び公開授業の実施	③
			・出前講座の実施	④
平成33年度	5年間の取組を検証し、第3期中期計画の着実な実施に必要な見直しと、第4期中期目標期間の自己点検・評価活動に関する目標と計画を策定する。	年度計画内容確定次第記入	年度計画内容確定次第記入	

実施組織	推進責任者	理事・副学長（地域国際連携担当）（総合企画戦略部地域連携推進課）
	実施部局等	RCC事業本部、総合企画戦略部

全体プロジェクトとの関連	プロジェクト名称	ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）事業、新たな地域社会を創造する「未来叶い（ミライカナイ）」プロジェクト
	関連する中期計画番号	

第2期を踏まえた状況整理	第2期末状況	これまで生涯学習教育研究センター主催による公開講座及び公開授業を実施してきた。また、各部局において様々な公開講座等が実施されてきた。また、平成25年度から、文部科学省大学COC事業、平成27年度には、文部科学省地（知）の拠点大学による地方創生推進事業がスタートし、サテライトキャンパスを活用した公開講座等の配信や出前での公開講座等が実施されており、更なるプログラムの充実が必要となっている。
	課題	生涯学習教育研究センターの運営費（大学開放事業）が年々縮減されている状況及び大学COC事業の補助金が平成29年度まで、地（知）の拠点大学による地方創生事業の補助金が平成31年度までの配分のため、公開講座等の実施及びサテライトキャンパスの運営に必要な経費のその後の予算措置が課題。

平成31年度プロジェクトシート【計画】（様式1）

中期目標	区分	I	大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	大項目	3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標
	中項目		
	小項目	7	地域の産学官が保有する多様な資源を活かし、地域を志向した教育研究を推進する産学官協働の仕組みを構築し、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。
	小項目の具体的内容		地域の多様な知の資源を活用し、産学官連携による、地域を志向した教育研究を推進する仕組みを構築し地域発展・貢献、地域産業振興に資する人材育成を行う。

中期計画	区分	I	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
	大項目	3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するため		
	中項目				
	■小項目	28	地域産業の振興を担うグローバルな人材を育成するため、地域の他機関が連携する沖縄産学官協働人材育成円卓会議（県内企業、経済団体、高等教育機関、沖縄県、内閣府沖縄総合事務局等）と連携して、地域づくりのための人材養成プログラム、産学官コーディネータ等の産業振興を担う高度専門職養成プログラムや地域行政を担う自治体職員能力強化プログラム等の目的別プログラムを開発して実施する。また、沖縄産学官協働人材育成円卓会議を活用し、受講者のキャリアアップに繋がる客観的な地域認証システムを構築する。		
	実施する内容		①地域等ニーズ調査・分析を踏まえ、円卓会議のもとに目的別プログラム開発に助言を受けるためのワーキンググループを設置 ②目的別プログラムの検討・開発 ③目的別プログラムの開発・実施 ④目的別プログラムを平成31年度には、年間3件以上実施 ⑤円卓会議等を活用した地域認証システム導入の検討 ⑥円卓会議等を活用した地域認証システムの構築、地域社会の発展に貢献する人材の育成 ⑦目的別プログラムの受講者の満足度の向上 ⑧地域と協働した人材育成会議の開催、年6回以上		
	確認項目	①	地域等ニーズ調査・分析を踏まえ、円卓会議のもとに、目的別プログラム開発に助言を受けるためのワーキンググループを設置する。	対応部局	地域連携推進機構／各部局
		②	目的別プログラムを検討・開発する。		地域連携推進機構／各部局
		③	目的別プログラムを開発・実施する。		地域連携推進機構／各部局
		④	目的別プログラムを平成31年度には、年間3件以上実施しているか。		地域連携推進機構／各部局
		⑤	円卓会議等を活用した地域認証システムの検討をしたか		地域連携推進機構／各部局
		⑥	円卓会議等を活用し、受講者のキャリアアップに繋がる客観的な地域認証システムを構築し、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。		地域連携推進機構／各部局
		⑦	目的別プログラムの受講者の満足度が向上したか。		地域連携推進機構
		⑧	地域と協働した人材育成会議を年6回以上開催したか。		地域連携推進機構

中期計画の具体的取組として、第3期中期目標期間の各年度において実施する事項（年度計画及び実施項目）及び評価

年度	年度計画案	中期計画との関連 (中期計画をどのように具体化した取組であるのか)	当該年度に実施する取組概要	該当する確認項目番号
平成28年度	地域連携推進機構を中心に学部・研究科等とも協働しつつ、地域づくりのための人材養成プログラム、産学官コーディネータ等の産業振興を担う高度専門職養成プログラムや地域行政を担う自治体職員能力強化プログラム等の目的別プログラムを開発する。	地域産業の振興を担うグローバルな人材を育成するため、円卓会議等と連携して、目的別プログラムの検討・開発を行う。	・ 地域等ニーズ調査・分析	①-1
			・ 円卓会議との連携	①-2
			・ 目的別プログラムの検討・開発	②
平成29年度	地域連携推進機構を中心に、開発された目的別プログラム（地域づくりのための人材養成プログラム、高度専門職養成プログラム、地域行政を担う自治体職員能力強化プログラム等）を運用して成果を検証し、本格実施に向けたプログラム改善を行う。	・ 円卓会議等と連携して、目的別プログラムの開発、実施を行う。 ・ 円卓会議等を活用した地域認証システムの導入を検討する。	・ 目的別プログラムの開発・実施	③
			・ 目的別プログラムの受講者の満足度の調査・分析	⑦
			・ 地域認証システム導入の検討	⑤
			・ 地域と協働した人材育成会議の開催	⑧
平成30年度	沖縄産学官協働人材育成円卓会議と地域連携推進機構及び各部局等が連携し、目的別プログラムを実施する。また、開発した地域人材育成プログラムについて認証評価機関の認証を受ける。	・ 円卓会議等と連携して、目的別プログラムの開発、実施を行う。キャリア教育センターやジェンダー推進室と連携し地域づくり人材養成分野5プログラム、教育学部と連携し政策形成能力強化分野3プログラム、医学部や工学部と連携し高度専門職養成分野2プログラムを実施する。 ・ 認証評価を担う組織を選定し、認証を受ける。	・ 目的別プログラムの開発・実施	③
			・ 円卓会議等を活用した地域認証システムの検討	⑤
平成31年度	沖縄産学官協働人材育成円卓会議と地域連携推進機構及び各部局等が連携し、目的別プログラム（認証プログラムも含む）を実施する。	・ 円卓会議等と連携して、目的別プログラムの開発、実施を行う。 ・ 認証を受けた政策得意分野づくりの「社会的インパクト投資基礎概論」「クラウドファンディング実践講座」、政策基礎としての社会人基礎力「地域企業（自治体）お題解決プログラム」「島嶼地域交流ファシリテーター養成講座」、政策研究の基礎知識「地域円卓会議マネジメント講座」「政策立案能力強化プログラム」を実施する。 ・ 認証を受けた地域人材育成プログラムが有効利用されるよう検討する。	・ 目的別プログラムの開発・実施	③
			・ 目的別プログラムを、年間3件以上実施する。	④
			・ 円卓会議等を活用した地域認証システムの構築	⑥
			・ 地域社会の発展に貢献する人材の育成	⑥

平成32年度	沖縄産学官協働人材育成円卓会議と地域連携推進機構及び各部局等が連携し、目的別プログラム（認証プログラムも含む）を実施する。また、昨年度に引き続き初級地域公共政策士取得のためのプログラムを実施し、受講者のキャリアアップに資する仕組み作りに向けた検討を開始する。	・円卓会議等と連携して、目的別プログラムの開発、実施を行う。 ・昨年同様に目的別プログラムを実施する。 ・認証を受けた地域人材育成プログラムが有効利用されるよう検討する。	・目的別プログラムの開発・実施	③
			・円卓会議等を活用した地域認証システムの構築	⑥
			・地域社会の発展に貢献する人材の育成	⑥
平成33年度	5年間の取組を検証し、第3期中期計画の着実な実施に必要な見直しを実施する。並行して、第4期中期目標期間の地域社会の発展に貢献する人材育成に関する目標と計画を策定する。	年度計画内容確定次第記入	年度計画内容確定次第記入	

実施組織	推進責任者	地域国際連携担当理事（地域連携推進機構長）
	実施部局等	地域連携推進機構（仮称）、総合企画戦略部、各部局等

全体プロジェクトとの関連	プロジェクト名称	COC事業、COCプラス事業、サービス経営人材育成事業
	関連する中期計画番号	26、27、29、53

第2期を踏まえた状況整理	第2期末状況	第2期では、一部の学部等において、専門人材育成プログラムを実施しているが、数が少ない。また、受講者のキャリアアップに繋がる地域認証システムの構築はこれからである。
	課題	円卓会議をどのように活用して、目的別プログラムを数多く開発したり、受講者のキャリアアップに繋がる地域認証システムの構築をするか。

平成31年度プロジェクトシート【計画】（様式1）

中期目標	区分	I	大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	大項目	3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標
	中項目		
	小項目	8	沖縄の産業活性化及び持続的な自立型経済の実現に向って、学術的基盤に立脚して地域社会が抱える課題の解決や産業振興に資する取組を推進し、「行動するシンクタンク」として地域再生・活性化に貢献する。
	小項目の具体的内容		地域課題解決、企業ニーズを掘り起こし、地域振興・地域産業活性化に寄与するためのシンクタンク機能を強化し、地域再生・活性化に貢献する。

中期計画	区分	I	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
	大項目	3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置		
	中項目				
	■小項目	29	「行動するシンクタンク」として地域コーディネータ機能を強化するため、地域連携推進機構に交流人材センター（仮称）を設置し、企業経営や行政運営の改善に関する専門人材を配置するとともに、企業や自治体等との連携体制を構築する。		
	実施する内容		①交流人材プラットフォームの稼働に向け、問題点の整理・調整を行う。 ②交流人材プラットフォームの稼働に向け、規則等の制定を行う。 ③企業や行政機関等と交流の実施についての調整を行う。 ④交流人材プラットフォームに試行的に交流者を登用する。 ⑤交流人材プラットフォームを設置（交流人材バンクを運用）し、企業、自治体等から企業経営や行政運営の改善に関する交流・登録者（専門人材）を配置する。 ⑥交流・登録者を活用し、学内と企業・自治体等との連携体制を構築し、シンクタンク機能の強化を図る。 ⑦地域連携拠点を設置する ⑧地方公共団体との連携協定を締結する		
	確認項目	①	交流人材プラットフォームの稼働に向け問題点の整理・調整を行ったか。	対応部局	地域連携推進機構／総務部
		②	交流人材プラットフォームの稼働に向け、規則等を制定したか。		地域連携推進機構／総務部
		③	企業や行政機関等と、交流の実施についての調整を行ったか。		地域連携推進機構／総務部
		④	交流人材プラットフォームに試行的に交流者を登用したか。		地域連携推進機構／総務部
		⑤	交流人材プラットフォーム（交流人材バンクを運用）に交流・登録者（専門人材）を登用・登録したか。		地域連携推進機構／総務部
		⑥	交流・登録者を活用し、学内と企業・自治体等との連携体制を構築し、シンクタンク機能の強化を図ったか。		地域連携推進機構／各局
		⑦	地域連携拠点を設置したか。		地域連携推進機構
		⑧	地方公共団体との連携協定を締結したか。		地域連携推進機構／各局

中期計画の具体的取組として、第3期中期目標期間の各年度において実施する事項（年度計画及び実施項目）及び評価

年度	年度計画案	中期計画との関連 (中期計画をどのように具体化した取組であるのか)	当該年度に実施する取組概要	該当する確認項目番号
平成28年度	本学の地域コーディネータ機能を強化するため、地域連携推進機構内の交流人材センターにおける専門人材の登用に関する規則等を整備する。	行動する「シンクタンク」として、コーディネータ機能を強化するため、交流人材センターの稼働に向けて取り組む。	・交流人材センター稼働に向けての問題点の整理・調整	①
			・交流人材センター稼働に向けての規則制定	②
			・企業や行政機関等と交流の実施についての調整	③
平成29年度	地域コーディネータ機能を強化するため、地域連携推進機構内に企業や自治体等から専門人材を受け入れる。	行動する「シンクタンク」として、コーディネータ機能を強化するため、交流人材センターに交流者を試行的に登用する。	・交流者の試行的登用	④
			・企業や行政機関等からの交流者（専門人材）の登用	⑤
			・地域連携拠点を設置する	⑦
			・地方公共団体との連携協定を締結する	⑧
平成30年度	シンクタンク機能強化のため、地域連携推進機構の交流人材プラットフォームに配置した企業・自治体・高等教育機関等からの専門人材を活用し、学内と企業・自治体等との連携体制を構築する。	・専門人材（出向・登録者）を活用し、企業や行政機関等との連携体制を構築する。 ・企業や行政機関等との連携を活用して、地域が抱える課題の解決や産業振興に資する専門人材育成・地域若手コーディネーター育成に取り組む。 ・企業や行政機関等との連携を図り、専門人材を活用して地域が抱える課題の解決や産業振興に資する事業等を検討し、提案等を行う。	・交流人材プラットフォーム（交流人材バンクを運用）への交流・登録者（専門人材）の配置	⑤
			・交流・登録者を活用し、学内と企業、行政機関等との連携体制の構築	⑥
平成31年度	専門人材を活用し、地域コーディネータ機能を強化し、学内と企業・自治体等との連携体制を構築し、シンクタンク機能の強化を図る。	・専門人材（出向・登録者）を活用し、企業や行政機関等との連携体制を構築する。 ・企業や行政機関等との連携を活用して、地域が抱える課題の解決や産業振興に資する専門人材育成・地域若手コーディネーター育成に取り組む。 ・戦略的地域連携推進経費を活用した地域協働プロジェクトを展開し、学内と企業・自治体等との連携体制を構築し、シンクタンク機能を強化する。 ・本学の教育・研究・診療の成果を広く情報発信するとともに地域とのコミュニケーションの場を通じて、企業や行政機関等との連携体制の構築を促進してシンクタンク機能の強化を図る。	・交流人材プラットフォーム（交流人材バンクを運用）への交流・登録者（専門人材）の配置の継続	⑤
			・交流・登録者を活用し、学内と企業、行政機関等との連携体制の構築	⑥

平成32年度	専門人材を活用し、地域コーディネート機能を強化し、学内と企業・自治体等との連携体制を構築し、シンクタンク機能の強化を図る。	・専門人材（出向・登録者）を活用し、企業や行政機関等との連携体制を構築する。 ・企業や行政機関等との連携を活用して、地域が抱える課題の解決や産業振興に資する専門人材育成・地域若手コーディネーター育成に取り組む。 ・本学の教育・研究・診療の成果を広く情報発信するとともに地域とのコミュニケーションの場を通じて、企業や行政機関等との連携体制の構築を促進してシンクタンク機能の強化を図る。	・交流人材プラットフォーム（交流人材バンクを運用）への交流・登録者（専門人材）の配置の継続	⑤
			・交流・登録者を活用し、学内と企業、行政機関等との連携体制の構築	⑥
平成33年度	5年間の取組を検証し、第3期中期計画の着実な実施に必要な見直しを実施する。並行して、第4期中期目標期間の交流人材センターの機能や企業・自治体等との連携体制に関する目標と計画を策定する。	年度計画内容確定次第記入	年度計画内容確定次第記入	

実施組織	推進責任者	地域国際連携担当理事（地域連携推進機構長）
	実施部局等	地域連携推進機構、総務部、各部局

全体プロジェクトとの関連	プロジェクト名称	該当無し
	関連する中期計画番号	該当無し

第2期を踏まえた状況整理	第2期末状況	学内からは、企業や行政機関等から本学へ短期の交流者を配置して欲しい要望がある。
	課題	大学への交流者の人事的（給与、身分）な調整が必要

平成31年度プロジェクトシート【計画】（様式1）

中期目標	区分	1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	大項目	3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標
	中項目		
	小項目	8	沖縄の産業活性化及び持続的な自立型経済の実現に向って、学術的基盤に立脚して地域社会が抱える課題の解決や産業振興に資する取組を推進し、「行動するシンクタンク」として地域再生・活性化に貢献する。
	小項目の具体的内容		地域課題解決、企業ニーズを掘り起こし、地域振興・地域産業活性化に寄与するためのシンクタンク機能を強化し、地域再生・活性化に貢献する。

中期計画	区分	1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
	大項目	3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するた		
	中項目				
	■小項目	30	地域の産業振興を推進するため、沖縄産学官連携推進協議会等と連携し、企業ニーズを掘り起こし、本学の研究成果とのマッチングを行い、沖縄の産業振興に寄与する共同研究等を推進する。		
	実施する内容		①地域ニーズ、企業ニーズの掘り起こし ②研究シーズの学内外への発信 ③地域ニーズ、企業ニーズと研究シーズとのマッチング ④沖縄の産業振興に寄与する共同研究等の推進		
	確認項目	①	地域ニーズ、企業ニーズの掘り起こしをしたか。	対応部局	地域連携推進機構／各部局／研究支援機構
		②	研究シーズを学内外へ発信したか。		地域連携推進機構／各部局／研究支援機構
		③－1	地域ニーズ、企業ニーズと研究シーズとのマッチングをし、マッチング件数は増加したか。		地域連携推進機構／各部局／研究支援機構
		③－2	マッチングの結果、契約（共同研究）件数は増加したか。		地域連携推進機構／各部局／研究支援機構
		④－1	共同研究等の推進をするための方策を検討したか。		地域連携推進機構／各部局／研究支援機構
		④－2	沖縄の産業振興に寄与する共同研究数・受託研究数は増えたか。		地域連携推進機構／各部局／研究支援機構

中期計画の具体的取組として、第3期中期目標期間の各年度において実施する事項（年度計画及び実施項目）及び評価

年度	年度計画案	中期計画との関連 (中期計画をどのように具体化した取組であるのか)	当該年度に実施する取組概要	該当する確認項目番号
平成28年度	地域連携推進機構を中心に、沖縄産学官連携推進協議会等及び研究推進機構との連携を図り、地域・企業ニーズの収集・整理を行う体制を整備する。また、金融機関や沖縄県産業振興公社等との連携協定に基づき、地域・企業ニーズと本学の研究シーズとのマッチングを行い、実用化への橋渡し共同研究等を推進する。	・沖縄産学官連携推進協議会等と連携する。 ・地域ニーズ、企業ニーズを掘り起こす。 ・本学の研究成果とマッチングを行う。	・地域ニーズ、企業ニーズの収集、整理	①
			・研究シーズの学内外への発信等	②
			・本学研究シーズと地域・企業ニーズのマッチング	③－1 ③－2
			・URAと連携したマッチング支援体制の構築	③－1 ③－2
平成29年度	地域連携推進機構を中心に、地域ニーズ、企業ニーズと本学の研究成果とのマッチングを行い、共同研究等を推進する。また、地域、企業課題解決のための産学官連携の共同研究を支援するための取組を行う。	・地域ニーズ、企業ニーズと本学の研究成果とマッチングを行う。 ・沖縄の産業振興に寄与する共同研究等を推進する。	・研究シーズの学内外への発信等	②
			・本学研究シーズと地域・企業ニーズのマッチング	③－1 ③－2
			・ニーズプル型研究への支援	④－1 ④－2
			・沖縄の産業振興に寄与する共同研究等の推進	④－2

平成30年度	地域連携推進機構において、地域ニーズや企業ニーズと本学の研究成果のマッチングを行い、沖縄の産業振興に寄与する共同研究等を推進する。	・技術説明会等での研究シーズ発表を実施する。 ・ホームページ等を活用しての研究シーズ等の情報発信を行う。 ・地域ニーズ、企業ニーズと本学の研究成果とマッチングを行う。 ・沖縄の産業振興に寄与する共同研究等を推進する。	・研究シーズの学内外への発信等	②
			・本学研究シーズと地域・企業ニーズのマッチング	③－ 1 ③－ 2
			・沖縄の産業振興に寄与する共同研究等の推進	④－ 2
平成31年度	地域連携推進機構において、地域や企業のニーズと本学の研究成果とマッチングを行い、沖縄の産業振興に寄与する共同研究等を推進する。また、ベンチャー創出に向けた取組を行う。	・技術説明会等での研究シーズ発表を実施する。 ・ホームページ等を活用しての研究シーズ等の情報発信を行う。 ・地域ニーズ、企業ニーズと本学の研究成果とマッチングを行う。 ・沖縄の産業振興に寄与する共同研究等を推進する。	・研究シーズの学内外への発信等	②
			・本学研究シーズと地域・企業ニーズのマッチング	③－ 1 ③－ 2
			・沖縄の産業振興に寄与する共同研究等の推進	④－ 2
平成32年度	地域連携推進機構において、地域や企業のニーズと本学の研究成果とマッチングを行い、沖縄の産業振興に寄与する共同研究等を推進する。また、ベンチャー創出に向けた取組を行う。	・技術説明会等での研究シーズ発表を実施する。 ・ホームページ等を活用しての研究シーズ等の情報発信を行う。 ・地域ニーズ、企業ニーズと本学の研究成果とマッチングを行う。 ・沖縄の産業振興に寄与する共同研究等を推進する。	・研究シーズの学内外への発信等	②
			・本学研究シーズと地域・企業ニーズのマッチング	③－ 1 ③－ 2
			・沖縄の産業振興に寄与する共同研究等の推進	④－ 2
平成33年度	5年間の取組を検証し、第3期中期計画の着実な実施に必要な見直しを実施する。並行して、第4期中期目標期間の共同研究等の推進に関する目標と計画を策定する。	年度計画内容確定次第記入	年度計画内容確定次第記入	

実施組織	推進責任者	地域国際連携担当理事（地域連携推進機構長）
	実施部局等	地域連携推進機構、総合企画戦略部、各部局等

全体プロジェクトとの関連	プロジェクト名称	該当なし
	関連する中期計画番号	該当なし

第2期を踏まえた状況整理	第2期末状況	第2期では、地域ニーズ、企業ニーズの調査・分析が余り実施されていない。また、調査結果が共同研究等推進に活用されていない。
	課題	大学全体での地域ニーズ、企業ニーズの調査・分析及び情報共有体制構築が必要となる。

令和 2 年 1 月 10 日
産学官連携部門会議 承認

鹿児島大学南九州・南西諸島域共創機構との意見交換会について

日時：令和 2 年 2 月 10 日（月）14：00～

場所：琉球大学地域創生総合研究棟 2F ミーティングルーム

○メンバー

・鹿児島大学メンバー

産学・地域共創センター長 前田先生
特任准教授 古里先生

・琉球大学メンバー

理学部 竹村先生（地域連携推進機構産学官連携部門長）
理学部 眞榮平先生（地域連携推進機構産学官連携部門研究開発支援系）
農学部 宮城先生（地域連携推進機構産学官連携部門併任教員）
国際地域創造学部 石田先生（地域連携推進機構産学官連携部門併任教員）
農学部 平良先生

○意見交換内容

- ・鹿児島大学から取組概要の説明 20 分
- ・琉大メンバーの研究紹介 15 分～20 分（質疑応答含め）×5 名
- ・研究紹介後、鹿児島大学との連携について意見交換 30 分

産学連携の協力推進に関する協定書

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構(以下「甲」という。)と鹿児島大学南九州・南西諸島域共創機構(以下「乙」という。)とは、甲と乙との連携を通し、沖縄県及び鹿児島県の地域発展推進等のため、次のとおり協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、甲及び乙が相互に協力して、甲及び乙の研究シーズ等を共有することで、互いの地域社会に深く還元すること及び緊密な情報交換等を行うことにより地域社会の発展及び地域産業の振興に貢献することを目的とする。

(連携事項)

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次の事項について実施するものとする。

- (1) 相互の有する研究シーズの情報発信に関すること
- (2) 相互の地域企業ニーズと相互の研究シーズとのマッチングに関すること
- (3) 産学連携に係る教育に関すること
- (4) その他、相互の有する資源及びネットワークを活用し、地域社会の発展・地域産業振興のための取組みに関すること

(連携活動の実施)

第3条 前条に掲げる事項の具体的な実施については、この協定に基づき、双方で協議して行う。

(秘密等の保持)

第4条 甲及び乙は、連携活動の実施により知り得た相手方の情報及び関係者の個人情報等を、相手方の事前の承諾なく第三者に提供若しくは漏洩し、又は第1条に規定する目的以外の目的に利用してはならない。

- 2 甲及び乙は、この協定が次条の有効期間の満了又は第6条による解除により効力を失った後も、前項の規程による秘密保持等の義務を負う。

(協定の有効期間)

第5条 この協定の有効期間は、締結の日から1年間とする。ただし、本協定により有効期間満了日の日の1カ月前までに甲、乙いずれから協定を更新しない旨の書面による通知があった場合を除き、この協定は1年間更新され、その後も同様とする。

(協定の解除)

第6条 甲又は乙がこの協定を解除しようとする場合は、解除しようとする日の1カ月前までに、書面により通知しなければならない。

- 2 甲及び乙は、前項の規定による解除にいかなる責任も負わない。

(その他)

第7条 本協定の内容は、甲及び乙の協議により変更することができる。

- 2 本協定に定めのない事項又は本協定に定める事項に関し、疑義が生じた場合は、甲乙協議して定めるものとする。

本協定書の証として、本協定書を2通作成し、甲と乙が署名押印の上、各1通を保有する。

平成30年8月31日

甲 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
国立大学法人琉球大学
地域連携推進機構長

須加原一博

乙 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号
鹿児島大学
南九州・南西諸島域共創機構長

高松英夫

琉大地連第 95 号
令和元年 11 月 1 日

鹿児島大学
南九州・南西諸島域共創機構長 殿

国立大学法人琉球大学
地域連携推進機構長



大学と地域との共同連携による研究成果を活かした地方創生に資する
取組への参画について（回答）

令和元年 9 月 12 日付け鹿大社第 217 号で依頼のありました標記のことについて、別添のとおり教員を推薦いたします。

【本件担当】

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地
国立大学法人琉球大学
総合企画戦略部
地域連携推進課 産学連携推進係 （與儀・天願）
電話：098-895-8031
E-mail：sangaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

「社会共創イニシアティブ」部会構成員 推薦名簿

【国立大学法人琉球大学】

部会名	所属(学科等)	職名	氏名	電話番号	Email
食品加工	農学部 亜熱帯生物資源科学科	准教授	宮城 一菜	098-895-8031	sangaku@acs.u-ryukyu.ac.jp
観光産業・国際	国際地域創造学部 国際地域創造学科	准教授	石田 三成	098-895-8031	sangaku@acs.u-ryukyu.ac.jp
エネルギー	理学部 物質地球科学科物理系	教授	眞榮平 孝裕	098-895-8031	sangaku@acs.u-ryukyu.ac.jp
農林畜産	農学部 亜熱帯生物資源科学科	教授	平良 東紀	098-895-8031	sangaku@acs.u-ryukyu.ac.jp
水産業	理学部 海洋自然科学科生物系	教授	竹村 明洋	098-895-8031	sangaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

※連絡先は地域連携推進課産学連携推進係にしております。

※1部会に複数教員の推薦可能です。(適宜行挿入ください)

※すべての部会に推薦頂く必要はありません。

※地域防災・医療は別紙資料のとおり、推薦対象外となります。

令和2年1月20日

非常勤講師の採用について（資格審査等）

1. 非常勤講師採用予定者

- ・日本トランスオーシャン航空株式会社 価値創造部付 伊礼 恭^{いれい たかし}

2. 担当科目

琉大特色・地域創生科目

- ・沖縄の航空事業と地域振興
- ・琉大特色・地域創生特別講義Ⅷ（沖縄の航空事業と地域振興2）

3. 採用理由

日本トランスオーシャン航空株式会社（JTA）による寄附講義を担当している非常勤講師の仲栄真智^{なかえまさとし}氏が、3月に同社を定年退職することから、同社より後任の非常勤講師を採用するための手続きを行う。

今年度で終了するCOC+「新たな地域社会を創造する『未来叶い(ミライカナイ)』プロジェクト」において、JTAには平成29年度後学期より共通教育等科目（琉大特色・地域創生科目）において寄附講義を開講して頂いている。2年目からは演習編の追加による前期・後期の開講となっており、これまで3年間に延べ324人の学生が受講している。

また、COC+での取り組みを契機とし、平成30年にはJTAを含むJALグループ3社と本学との間で包括連携協定を締結し、取り組みは全学的な広がりを見せている。

当該科目のテーマとなっている航空事業は島嶼県の生活や産業を支える重要な分野であることから、地域貢献型大学である本学にとってCOC+終了後も地域の振興や発展を担う人材の育成や、出口一体型の人材育成プログラムとして継続することは有益である。

JTAの賛同も得られていることから、令和2年度以降においても当該科目をJTAによる寄附講義として継続するため、仲栄真氏の後任として伊礼氏を非常勤講師として採用することと致したい。

なお、伊礼氏の主な経歴は別添のとおりであり、琉球エアコミューターの代表取締役社長を務めたほか、本学での講義を参考に実施されている沖縄工業高等専門学校（沖縄高専）での寄附講座の講師や本学での寄附講義における講義経験もあり、当該科目の講義に必要な専門的な能力を十分有するものと判断される。

科目番号			
琉100			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	前学期	木3	共通教育等科目琉大特色・地域創生科目
講義コード	科目名[英文名]		単位数
101443001	沖縄の航空事業と地域振興		2
担当教員[ローマ字表記]			
小島 肇 [kojima hajime], 仲栄真 智 [Satoshi Nakaema]			

授業の形態

講義、実務経験講師

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する

授業内容と方法

※本授業は「地域創生副専攻」の＜地域創生理解＞科目となっています。

島しょ県である沖縄においては主に航空が本土や海外との交流を担っている。年間957万人の観光客も約9割が空路での入域である。また、沖縄県内の9空港より県内外への路線が運航されており、船舶と共に離島の生活を支えているのも航空である。近年では那覇空港において、国際航空貨物基地として国際物流の拠点づくりや、航空機整備事業の立ち上げなど、航空産業を中心とした地域振興策が進捗しており、航空事業は沖縄県にとって非常に重要な位置づけになっている。特に、2020年3月の那覇空港第2滑走路の整備や下地島空港への定期便就航など、沖縄の航空を取り巻く動きは大きく変化をしている。

本授業では、沖縄における航空事業と地域振興について、「うちのーの翼」日本トランスオーシャン航空（JTA）の取組み事例を中心に講義するとともに、沖縄県の空の玄関である那覇空港の視察を通し、沖縄における航空事業の役割について理解を深める。

※なお、本授業は本学が文部科学省「地（知）の拠点大学における地方創生推進事業（COC+）」として採択された「新たな地域社会を創造する未来叶い（ミライカナイ）プロジェクト」の一環として、地域創生・地域の活性化を担う人材の育成をめざして実施するもので、地域政策についての実務経験のある教員が担当するほか、日本トランスオーシャン航空（JTA）による寄附講座として、航空会社の実務者による講義として実施します。

URGCC学習教育目標

地域・国際性、問題解決力、専門性

達成目標

- ・航空産業の基礎的な知識を習得し理解できる。[専門性]
- ・航空産業による地域振興をグローバル・地域の視点から捉えることができる。[地域・国際性]
- ・沖縄における航空による地域振興策や必要な課題を発見し、振興や課題解決に向けて提案をすることができる。[問題解決力]

評価基準と評価方法

第2回から第15回の各授業で以下の配点の受講レポートを課すほか、期末テストを実施する。

受講レポートと期末テストの合計100点満点で評価する。

第2回～第11回、第14回及び第15回の授業における受講レポートの配点は各回5点×12回の60点とする。

第12回及び第13回の2回分の授業として7月に那覇空港見学を実施する。那覇空港見学の受講レポートの配点は5点とする。

期末テストの配点は35点とする。

※5回以上の欠席で不可となる。

※重大な理由によりやむをえず欠席する場合は、必ず欠席届を提出し、教員の指示を受けること。

履修条件

全学部の学生、学年が履修可能な内容とする。

本講義は2018年度まで「琉97 琉大特色・地域創生特別講義Ⅶ（沖縄の航空事業と地域振興）」として開講していた科目であるため、過去に履修した学生は受講することができない。

■ ■ 授業計画

<4/5修正 那覇空港見学の日にちが7/6(土)に決まりました。>

第1回(4/11):オリエンテーション、イントロダクション

第2回(4/18):航空事業の現状

第3回(4/25):那覇空港の現状と課題

第4回(5/9):沖縄の航空事情

第5回(5/16):離島交通政策

第6回(5/23):沖縄の観光戦略

第7回(5/30):沖縄の観光インフラ

第8回(6/6):沖縄の航空物流

第9回(6/13):運航のしくみ

第10回(6/20):航空の安全、保安、サービス

第11回(6/27):航空整備とは

第12回、第13回(7/6土):那覇空港見学

第12回及び第13回の2回分の授業(90分×2)として実施する

受講学生を2グループに分け、午前と午後の2回で実施する

(学生は指定された午前か午後のいずれかに参加すること)

7/4には授業は行わない

第14回(7/11):うちなーの翼・JTAの経営戦略

第15回(7/18):まとめ

期末テスト(8/1)

台風等による日程の変更がない限り、授業は7/18で終了することとし、7/25は授業を行わない。

■ ■ 事前学習

航空に関する専門用語等について各自確認しておくこと。

また、予めWebClassに関係資料や関連URL等をアップするので、事前に学習しておくこと。

■ ■ 事後学習

各回のテーマについて、講義資料等を参考に各自で復習をすること。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

参考文献等を適宜紹介する。

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

- ・講義で使用した資料等はWebClassで共有するので、確認できるようにしておくこと。
- ・後学期に本授業の演習編として「琉大特色・地域創生特別講義Ⅷ(沖縄の航空事業と地域振興2)」の開講を予定しているので、演習編の受講を希望する学生は、本授業を受講しておくことが望ましい。
- ・本授業は、学内の教職員に対しても公開する形で実施する。

科目番号			
琉98			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	後学期	木3～4	共通教育等科目琉大特色・地域創生科目
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
101289002	琉大特色・地域創生特別講義Ⅷ（沖縄の航空事業と地域振興2）	2	
担当教員[ローマ字表記]			
小島 肇 [kojima hajime], 仲栄真 智 [Satoshi Nakaema]			

授業の形態

講義、演習又は実験、実務経験講師

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

※本授業は「地域創生副専攻」の＜地域創生理解＞科目となっています。

島しょ県である沖縄においては主に航空が本土や海外との交流を担っている。年間957万人の観光客も約9割が空路での入域である。また、沖縄県内の9空港より県内外への路線が運航されており、船舶と共に離島の生活を支えているのも航空である。近年では那覇空港において、国際航空貨物基地として国際物流の拠点づくりや、航空機整備事業の立ち上げなど、航空産業を中心とした地域振興策が進捗しており、航空事業は沖縄県にとって非常に重要な位置づけになっている。特に、2020年3月の那覇空港第2滑走路の整備や下地島空港への定期便就航など、沖縄の航空を取り巻く動きは大きく変化をしている。

本授業では、沖縄における航空事業と地域振興に関するテーマを設定し、グループワークを行う。3つのテーマについてそれぞれ4コマ（2コマ連続の講義を2週連続で実施）の講義時間をつかって学修する。テーマ毎に授業の1コマ目でテーマに関する概況を講義し、2コマ目にグループによる討論を行う。翌週の3コマ目でグループワークの発表を行い、4コマ目で講評、テーマのまとめを行う。変則的な開講となるため、開講日に注意すること。

初回講義で授業の進め方等を説明した上で受講登録を受け付ける。グループワークの運営上の制限から、受講定員は30名とする。グループワークに主体的に参加する学生の受講を希望する。

※なお、本授業は本学が文部科学省「地（知）の拠点大学における地方創生推進事業（COC+）」として採択された「新たな地域社会を創造する未来叶い（ミライカナイ）プロジェクト」の一環として、地域創生・地域の活性化を担う人材の育成をめざして実施するもので、地域政策についての実務経験のある教員が担当するほか、日本トランスオーシャン航空（JTA）による寄附講座として、航空会社の実務者による講義として実施します。

URGCC学習教育目標

地域・国際性、問題解決力、専門性

達成目標

- ・航空産業の基礎的な知識を習得し理解できる。[専門性]
- ・航空産業による地域振興をグローバル・地域の視点から捉えることができる。[地域・国際性]
- ・沖縄における航空による地域振興策や必要な課題を発見し、振興や課題解決に向けて提案をすることができる。[問題解決力]

評価基準と評価方法

3つのテーマで実施するグループワークにおいて、グループ毎に発表レポートを作成する。グループ発表は原則としてパワーポイントを用いて行うこととし、発表レポートとしてデータを提出すること。グループワークのグループはテーマ毎に組み替えを行う。

開講日毎に作成する受講レポート（個人）（5点×8回）と、テーマ毎に作成するグループ発表の発表レポート（グループ）（20点×3回）の合計で評価する。

※5回以上の欠席で不可となる。

※重大な理由によりやむをえず欠席する場合は、必ず欠席届を提出し、教員の指示を受けること。

履修条件

全学部の学生、学年が履修可能な内容とする。

■ ■ 授業計画

<2019年9月11日修正 2019年度の授業計画が決定しました>

1 : オリエンテーション、イントロダクション (10/3第3時限)

2-5 : テーマ1 (航空関連) (10/10第3時限,10/10第4時限,10/17第3時限,10/17第4時限)

6-9 : テーマ2 (空港関連) (10/31第3時限,10/31第4時限,11/7第3時限,11/7第4時限)

10 : 中間まとめ(ジンベエジェットを考案した佐々木キャプテンによる「発案～実現～その後の展開」についての特別講義) (11/21第3時限)

11-14 : テーマ3 (航空と地域振興) (11/28第3時限,11/28第4時限,12/5第3時限,12/5第4時限)

15 : まとめ (12/19第3時限)

10/24,11/14,12/12,1/9,1/23,1/30は講義を行わない。期末テストは実施しない。

【受講登録は第1回講義時間中に受付けるため、受講希望者は必ず出席すること】

■ ■ 事前学習

航空に関する専門用語等について各自確認しておくこと。

また、予めWebClassに関係資料や関連URL等をアップするので、必ず事前に学習しておくこと。

■ ■ 事後学習

各回のテーマについて、講義資料等を参考に各自で復習をすること。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

参考文献等を適宜紹介する。

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

- ・講義で使用した資料等はWebClassで共有するので、確認できるようにしておくこと。
- ・前学期に開講している「沖縄の航空事業と地域振興」を受講しておくことが望ましい。(必須ではない)

■ ■ オフィスアワー

小島：水曜及び木曜の第5時限（訪問前にメールで事前連絡すること。場所は地域国際学習センター（放送大学沖縄学習センターの入っている建物）305室です。）

■ ■ メールアドレス

地域連携推進機構 小島 kojima@lab.u-ryukyu.ac.jp

日本トランスオーシャン航空 仲栄真 nakaema.mpe6@i-love-jta.co.jp

国立大学法人琉球大学教員選考基準（千原事業場）

〔平成16年4月1日〕
制 定

第1条 国立大学法人琉球大学教員就業規程（以下「規程」という。）第4条第1項の規定に基づき、琉球大学の教授、准教授、講師、助教及び助手の選考は、研究及び教育に関する業績、社会貢献、国際連携及び大学等の管理運営に関する実績等を総合的に評価して、この基準により行う。

第2条 教授の選考は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者について行う。

- (1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、研究上の業績を有する者
- (2) 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者
- (3) 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する実務上の業績を有する者
- (4) 大学において教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者
- (5) 芸術、体育等については、特殊の技能に秀でていると認められる者
- (6) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

第3条 准教授の選考は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者について行う。

- (1) 前条各号のいずれかに該当する者
- (2) 大学において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者
- (3) 修士の学位又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- (4) 研究所、試験所、調査所等に在職し、研究上の業績を有する者
- (5) 専攻分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者

第4条 講師の選考は、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

- (1) 第2条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者
- (2) その他特殊な専攻分野について、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

第4条の2 助教の選考は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者について行う。

- (1) 第2条各号又は第3条各号のいずれかに該当する者
- (2) 修士の学位（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了し

- た者については、学士の学位)又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。)を有する者
- (3) 専攻分野について、知識及び経験を有すると認められる者

第5条 助手の選考は、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

- (1) 学士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
- (2) 前号の者に準ずる能力があると認められる者

第6条 教員の選考にあたっては、原則として公募により行うものとする。

附 則

この基準は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月27日)

- 1 この基準は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この基準の改正後の規定の適用については、この基準施行前における助教授としての経歴は、准教授としての経歴とみなす。
- 3 琉球大学教員選考内規(昭和55年7月2日制定)は、廃止する。

附 則(平成27年3月4日)

この基準は、平成27年4月1日から施行する。

国立大学法人琉球大学非常勤講師人事規程（千原事業場）

〔平成28年3月28日〕
制 定

（目的）

第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学非常勤職員就業規則（以下「規則」という。）第7条第2項の規定に基づき琉球大学（以下「本学」という。）の教育の充実を図るため雇用する者（以下「非常勤講師」という。）の人事に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（定義）

第2条 この規程において「部局等」とは、学部（附属施設及び附属学校を含む。）、大学院研究科、グローバル教育支援機構、地域連携推進機構、熱帯生物圏研究センター及び学内共同教育研究施設をいう。

2 この規程において「部局等の長」とは、前項に規定する部局等の長をいう。

（身分等）

第3条 非常勤講師の身分は、規則第2条第2号に規定するパートタイム職員とし、名称は、講師、講師（カウンセラー）又は講師（コーディネーター）とする。

（職務内容）

第4条 講師は、専攻分野に係る教授又は研究に従事する。

2 講師（カウンセラー）は、本学学生、生徒又は児童のもつ悩みや不安などの心理的問題について話し合い、解決のための援助・助言を行う。

3 講師（コーディネーター）は、本学教員が行っている研究と産業界・行政の研究ニーズを結びつけるための活動を行う。

（選考等）

第5条 講師は、部局等の長が、次条に定める事項により選考する。

2 講師（カウンセラー）は、臨床心理士などの資格を有する者のうちから保健管理センター所長が選考する。

3 講師（コーディネーター）は、産業界や公的な研究施設の研究ニーズを熟知している者のうちから地域連携推進機構長が選考する。

第6条 講師の選考に当たっては、国立大学法人琉球大学教員選考基準第4条を準用するものとする。

2 本学において講師となる者については、原則として資格審査を行うものとするが、以下に掲げる者については、資格審査を省略することができる。

- (1) 本学において非常勤講師（講師（カウンセラー）及び講師（コーディネーター）を除く。）として雇用された経歴のある者
- (2) 大学で専任講師以上の職にある者又はその職にあった者

（採用手続等）

第7条 医学部以外の学部，大学院法務研究科，大学院教育学研究科（専門職学位課程に限る。）及びグローバル教育支援機構（共通教育運営部門に限る。）の非常勤講師の採用計画書の作成及びその手続きについては，年度ごとに定める「非常勤講師採用手続きについて」によるものとする。

2 学長は，医学部以外の学部，大学院法務研究科，大学院教育学研究科（専門職学位課程に限る。）及びグローバル教育支援機構（共通教育運営部門に限る。）から提出された非常勤講師採用申請書に基づき次に掲げる書類の提出を依頼し，当該書類の提出を受けて，採用する。

- (1) 略歴書
- (2) 承諾書
- (3) 在留カードの写し（外国籍の場合に限る。）

3 医学部，大学院医学研究科，医学部附属病院，熱帯生物圏研究センター，学内共同教育研究施設，グローバル教育支援機構（国際教育支援部門及び保健管理部門に限る。）及び地域連携推進機構の非常勤講師の採用にあつては，人事異動上申書に，次の書類を添付して発令予定日の2週間前までに学長へ上申するものとし，学長は，この上申を受けて当該非常勤講師を採用する。

- (1) 略歴書
- (2) 承諾書
- (3) 国立大学法人琉球大学非常勤講師給与算定調書（医学部，医学部附属病院に限る。）
- (4) 在留カードの写し（外国籍の場合に限る。）

4 学長は，雇用の通算期間が，学内の異なる職種等から継続した雇用期間を含め，継続して5年（労働契約法第18条第2項による通算契約期間に算入しないこととされている期間は，当該講師の雇用期間に算入しない。以下同じ。）を超えることとなる講師（以下「雇用継続期間5年超過講師」という。）へ依頼を行う際は，翌年度の担当授業科目の依頼に併せて，無期労働契約への転換希望の有無及び無期転換後に担当できる授業科目について確認するものとする。

第8条 教育学部附属小・中学校の非常勤講師（以下「附属学校の非常勤講師」という。）の選考は，校長が行うものとする。

2 学長は，校長の推薦に基づき，採用するものとする。

3 前2項に定めるもののほか，附属学校の非常勤講師については，前条の規定に準じて取り扱うものとする。

（労働時間）

第9条 非常勤講師の労働時間は，その所属する部局等の長が定めるものとする。

(雇用期間)

第10条 非常勤講師の雇用期間は、4月1日から1年間とする。ただし、年度の途中で雇用する者のその終期は、当該年度末までとする。

2 次年度以降も雇用する場合は、年度毎に改めて雇用するものとする。

(雇用更新の上限)

第11条 非常勤講師の雇用契約期間は、原則として当該非常勤講師が満70歳に達した日以後における最初の3月31日までとする。

(無期労働契約への転換)

第12条 雇用継続期間5年超過講師は、次に定める手続きにより、無期労働契約への転換を申し込むことができるものとする。

(1) 雇用継続期間5年超過講師は、第7条第4項の手続きにおいて、無期労働契約への転換希望の有無及び無期労働契約転換後の担当授業科目への意見の有無について回答するものとする。

(2) 前号により無期労働契約への転換を希望する講師で、無期労働契約転換後に担当できる授業科目についての意見があった場合、学長は当該意見を参考に当該講師の無期労働契約転換後に担当できる授業科目を6年目以降の当該有期労働契約が終了する3月前までに決定し、明示するものとする。

(3) 第1号により無期労働契約への転換の希望を申し出た講師については、6年目以降の当該有期労働契約が終了する2月前までに無期労働契約転換申込書(別紙様式1)(以下「申込書」という。)を学長へ提出しなければならない。

(4) 学長は、前号により申込書の提出があった場合は、速やかに無期労働契約転換申込受理通知書(別紙様式2)を当該講師に送付するものとする。

2 前項第1号により無期労働契約への転換の希望を申し出なかった講師は、6年目以降の当該有期労働契約が終了する4月前までに無期転換希望変更申込書(別紙様式3)により、無期労働契約への転換希望を学長へ申出ることができる。この場合、当該無期転換希望変更申込書において、無期労働契約転換後に担当できる授業科目について意見があった場合の取扱い、前項第2号に準ずるものとする。

3 学長は、前2項に基づく手続きを踏まえ当該講師と無期労働契約を交わすこととし、当該講師は、当該有期労働契約が終了した翌日から無期労働契約へと転換するものとする。この場合、学長は労働条件通知書も併せて交付するものとする。

(無期労働契約後の手続等)

第13条 学長は、前条の規定に基づき無期労働契約へ転換した講師(以下「無期労働契約講師」という。)に対しての年度ごとの担当授業科目について、前条第3項の無期労働契約において合意した授業科目のうちから担当させるものとする。

2 学長は、前項の規定にかかわらず、前条第3項の無期労働契約において合意した担当でき

る授業科目以外の授業科目を担当させる必要がある場合は、当該無期労働契約講師と合意のうえ担当できる授業科目を変更又は追加することができるものとする。この場合、改めて労働条件通知書を交付するものとする。

- 3 学長は、規則第12条の規定にかかわらず、無期労働契約講師に対して、前条第3項及び前項において合意された担当できる授業科目以外に業務を命ずることはない。

（無期労働契約講師の定年）

第14条 無期労働契約講師に係る定年は満70歳とし、定年による退職の日は、満70歳に達した日以後における最初の3月31日とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、70歳を超えて無期労働契約講師となった場合の退職の日は、無期労働契約講師となった日以降における最初の3月31日とする。

（準用）

第15条 第12条から前条の規定については、講師（カウンセラー）、講師（コーディネーター）及び第8条に規定する附属学校の非常勤講師について準用する。

（人事異動通知書）

第16条 非常勤講師の異動については、人事異動通知書を交付するものとし、国立大学法人琉球大学非常勤職員人事規程第7条の規定に準じて行うものとする。

（雑則）

第17条 この規程に定めるもののほか、非常勤講師に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は平成28年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人琉球大学非常勤講師実施要項（平成16年4月1日制定）及び国立大学法人琉球大学非常勤講師の雇用に関する申合せ（平成16年4月1日制定）は、廃止する。
- 3 第7条第4項に規定する雇用の通算期間は、平成25年4月1日以降における最初の有期労働契約から適用する。

附 則（平成29年5月15日）

この規程は、平成29年5月15日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

<非常勤講師>

別紙様式 1

申請日 平成 年 月 日

無期労働契約転換申込書

琉球大学長 殿

所属部署

職 名

氏 名

私は、現在有期労働契約の契約期間の末日までに通算契約期間が5年を越えますので、労働契約法第18条の規定に基づき、期間の定めのない労働契約へ転換の申込みをします。

<非常勤講師>

別紙様式 2

平成 年 月 日

無期労働契約転換申込受理通知書

〇〇 〇〇 殿

琉 球 大 学 長

貴殿から平成 年 月 日付けで提出されました無期労働契約転換申込書については、受理しましたので、通知します。

別紙様式3

平成 年 月 日

琉球大学長 殿

所属部署 _____
職 名 _____
氏 名 _____

無期転換希望変更申込書

私は、現在の有期労働契約時に無期労働契約への転換を希望しませんでした。が、再度検討した結果、無期労働契約への転換を希望しますので申し出ます。

なお、平成〇〇年〇〇月〇〇日付け琉大人第〇〇号にて提示された無期労働契約となった場合に担当できる授業科目への意見については、次のとおり回答します。

- ・無期労働契約となった場合に担当できる授業科目について

※担当できる授業科目について、ご意見のある場合には具体的にお書きください。

※担当できる授業科目について、ご意見がない場合には「特になし」とお書きください。

<留意事項>

担当できる授業科目とは、開設する授業科目や専任教員の担当状況等を考慮し、毎年度相互の合意により担当する授業科目の範囲を示すものです。

琉球大学大学教育運営規則

平成 8 年 3 月 1 1 日
制 定

(趣旨)

第 1 条 琉球大学学則第 20 条の規定に基づく琉球大学（以下「本学」という。）における大学教育（共通教育及び専門基礎教育（以下「共通教育等」という。）並びに専門教育をいう。以下同じ。）の運営等については、この規則の定めるところによる。

(基本方針)

第 2 条 本学における大学教育は、琉球大学学則第 12 条に規定する教育課程の編成方針に基づき、学士課程教育における共通教育等と専門教育との有機的連携及び 4 年（医学部医学科にあっては 6 年。以下同じ。）一貫教育の推進並びに専門教育に係る学部間協力の推進を図るため、琉球大学グローバル教育支援機構（以下「機構」という。）の下で実施する。

- 2 共通教育等は、機構が教育課程を編成し、各学部及び学内共同教育研究施設等の教員が授業を行う。
- 3 専門教育は、各学部が教育課程を編成し、当該学部の教員又は必要に応じ他学部若しくは学内共同教育研究施設等の教員が授業を行う。

(学部教育委員会等)

第 3 条 学部における教育課程の編成、教育の自己点検・評価及び改善等について審議するとともに、機構と連携し共通教育等の円滑な運営を図るため、各学部に教育委員会等（以下「学部教育委員会等」という。）を置く。

- 2 前項及び次の各号に掲げるもののほか、学部教育委員会等の審議事項、組織及び運営については、各学部が定めるものとする。
 - (1) 学部教育委員会等の委員は教授をもって充てる。ただし、これによることのできないやむを得ない事情がある場合に限り、当該委員数の半数までは准教授をもって充てることができる。
 - (2) 学部教育委員会等の委員長は、原則として当該学部選出の評議員をもって充てる。

(学士教育プログラム)

第 4 条 学位の授与を目的とした 4 年一貫教育を実施し、学士課程教育の質保証を推進する基本の単位として、各学部に学士教育プログラムを置く。

- 2 学士教育プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(科目提供責任学部等及び総括学部等)

第 5 条 共通教育等を円滑に行うため、琉球大学共通教育等履修規程第 2 条に定める授業科目区分ごとに、別表のとおり科目提供責任学部等及び総括学部等を置く。

- 2 科目提供責任学部等は、共通教育等の基本方針、開設授業科目等に基づき、開設授業科目の実施方法等についてまとめ、担当教員の手配など授業の実施について責任を負う。
- 3 総括学部等は、科目提供責任学部等としての任務を行うほか、当該授業科目区分に係

る他の科目提供責任学部等を総括する。

- 4 科目提供責任学部等以外の学部等は、科目提供責任学部等からの授業科目開設等の協力依頼に対して、積極的に対応するとともに、共通教育等の在り方、希望開設授業科目とその内容等について意見を提出する。

(改廃)

第6条 この規則の改廃は、教育研究評議会の議を経て学長が行う。

附 則

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月25日）

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成16年5月1日）

この規則は、平成16年5月1日から施行する。

附 則（平成18年3月28日）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年3月27日）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年2月1日）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成23年3月22日）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月27日）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年9月25日）

この規則は、平成24年10月1日から施行する。ただし、第2条及び第4条の改正規定は、平成24年7月1日から適用する。

附 則（平成25年7月23日）

この規則は、平成25年7月23日から施行し、平成25年4月1日からする。

附 則（平成28年3月22日）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年11月2日）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月27日）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

授業科目区分	科目提供責任学部等	総括学部等
人 文 系 科 目	人文社会学部，国際地域創造学部	人文社会学部
社 会 系 科 目	人文社会学部，国際地域創造学部	機構（共通教育運営部門）
自 然 系 科 目	理学部	
健 康 運 動 系 科 目	教育学部	
総 合 科 目	全学部	機構（共通教育運営部門）
琉大特色・地域創生科目	全学部 地域連携推進機構	機構（共通教育運営部門）
キャリア関係科目	機構（キャリア教育支援部門）	
情 報 関 係 科 目	情報科学演習にあつては全学部	工学部 機構（共通教育運営部門）
	日本語表現法入門にあつては 人文社会学部	
外 国 語 科 目	アジア系言語にあつては人文社会学部	
	欧米系言語にあつては国際地域創造学部，教育学部	国際地域創造学部
専 門 基 礎 科 目	教育学部，理学部，医学部，工学部，農学部	理学部
日本語・日本事情科目	機構（国際教育支援部門）	

重点施策推進経費事業

「沖縄の亜熱帯・島嶼型の資源を基に更なる共同研究を誘致する活動の機能強化事業」

- ① 共同研究強化に関するセミナー開催
- ② 平成30年度共同研究実績一覧（案）による「見える化」

域連携推進機構
地域連携企画室

1. 本日の運営会議においてご審議頂きたい内容

① 共同研究強化に関するセミナー開催・・・資料参照

② 平成30年度共同研究実績一覧（案）による「見える化」・・・資料参照

上記の実施に向け協議頂きたい。

①について

本事業採択時の提案内容に盛り込まれており、実施に向け早急に調整を進めている状況。
（特に問題がなければ本会議にて承認を頂き、実施に向け調整を進めたい。）

②について

- ・本事業の「教員WG」の助言等を取りまとめた施策案（8つ）のうちの1つである。

- ・本運営会議での協議により、開示内容などの助言等を頂き、2月の運営会議にて承認頂き、年度内には情報開示を行いたい。

令和2年1月16日

(企画案)

重点施策事業における共同研究強化に関するセミナー開催について

(目的)

共同研究を強化するための課題として考えられる「企業とのマッチングに積極的な教員が少ない」ことについて、その解決策として、共同研究に関する勉強会を実施することで、教員の共同研究に対するモチベーションアップを図る。

(内容)

今年度産学連携に関する契約を締結した株式会社キャンパスクリエイトから講師を招き、企業とのマッチングや共同研究の好事例を紹介してもらう。また、本学で共同研究を積極的に実施している教員にも共同研究の効果などについて紹介してもらう。

(講師予定)

株式会社キャンパスクリエイト 常務取締役 高橋 めぐみ 氏

(対象者)

全学部教員（他大学と比較して共同研究数の少ない、特に工学部の教員を対象とする）

(開催日)

令和2年3月4日

※工学部教授会に合わせて開催を計画中

(会場)

工学部内教室もしくは地域創生総合研究棟1F 産学官交流フロア

(資料1)

平成30年度共同研究実績一覧(案)

番号	部局等	研究代表者		共同研究件数 (総数)	当該年度受入金額 (総額) 単位: 円
		職	氏 名		
1	〇〇学部	教授	× × × ×		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

2. 参考資料

1. 事業概要

事業名

「沖縄の亜熱帯・島嶼型の資源を基に更なる共同研究を誘致する活動の機能強化事業」

概要

「地域連携推進機構と研究推進機構に所属する教職員を中心に学内横断的な戦略的チームを編成し、国内外の民間企業等からの共同研究受入額及び数を向上させるためのグローバルな産学連携機能の強化事業を実施する。また、本提案は、本学の広報戦略とも密に関連する内容であるため、広報戦略担当部署とも連携して進め、本学のブランド力創造にも貢献できるよう実施する。」

2. 参考資料

1. 事業概要（続）

1) 実施体勢

（1）本事業会議

地域連携推進機構（副機構長）産学連携部門長
地域連携推進機構 地域連携企画室
研究推進機構 研究企画室
地域連携推進課 産学連携推進係

竹村明洋（統括）
島袋亮道
羽賀史浩
與儀あゆみ

（2）「共同研究強化ワーキング会議」

（リーダー）
（パイロット）
（ファシリテーター）

竹村明洋
島袋亮道
羽賀史浩

産学連携部門長
地域連携企画室
研究企画室 上席URA

（メンバー）

瀬名波 出 先生
平良東紀 先生
眞榮平 孝裕 先生
石田三成 先生
松下 正之 先生

工学部
農学部
理学部
国際地域創造学部
医学部

外部資金・共同研究受入額の改善のための課題・要因分析・改善方策の立案を行うため、各学部の教員から構成される「共同研究機能強化WG」を設置。

2. 参考資料

1. 事業概要（続）

2) 実施業務の提案内容

（1）世界を視野に入れた共同研究の誘致活動の機能強化を図るため、効率的かつ効果的な共同研究誘致の活動を行うための学内横断的な戦略チーム体勢の構築

（2）国内外の研究マッチング機関等とのネットワーク構築及びそれらとの連携による共同研究の誘致活動

（3）共同研究受入の向上を前提とする学外人材とのネットワーク形成のための招聘研修会の開催

（4）産学連携関連ウェブサイトの再構築

2. 参考資料

1. 事業概要

3) 本事業の実施内容とスケジュール（実施済のみ）

7月11日の採択通知を受け、以下のスケジュールで事業推進

第1回ミーティング	8月1日	(木)	…PJ全体の進め方・実施内容
第2回ミーティング	8月6日	(火)	…PJ実施内容
第3回ミーティング	9月9日	(月)	…PJ実施内容・役割分担
第4回ミーティング	10月1日	(火)	…PJ実施内容・進捗報告
共同研究機能強化WG会議 # 1			10月8日 (火) …課題確認・要因分析
第5回ミーティング	10月9日	(月)	…PJ実施内容・進捗報告
共同研究機能強化WG会議 # 2			10月17日 (木) …要因分析・方策案
共同研究機能強化WG会議 # 3			10月21日 (月) …方策案・評価
第6回ミーティング	10月24日	(木)	…PJ実施内容・進捗報告
共同研究機能強化WG会議 # 4 報告会			10月29日 (火) …方策・実施計画報告
第7回ミーティング	11月6日	(水)	…PJ実施内容・進捗報告 教員WGの方策提案を受けた今後の進め方の検討
第8回ミーティング	11月29日	(金)	…PJ実施内容・進捗報告 教員WG方策の実行・進捗
第9回ミーティング	1月 9日	(金)	…PJ実施内容・進捗報告 教員WG方策の実行・進捗

重点施策推進経費事業に関する「共同研究機能強化WG」#4 (10/29)

課題定義書案（課題解決プログラム）

課題名		上位課題
外部資金・共同研究受入額の改善（教員版）		大学間連携や産学連携の推進による、外部資金獲得実績の改善
目標（第一指標の項目及び定義）		現状値
共同研究受入額の+1億円向上（暫定）		144,915千円
課題定義書の確認（役割：氏名、役職）		確認日
リーダー： 竹村 明洋 産学官連携部門長		2019.9.9
パイロット： 島袋 亮道 地域連携推進機構・特命准教授		2019.9.9
ファシリテーター： 羽賀 史浩 上席URA		2019.9.9
チームメンバー：氏名	部局名	論議での役割
瀬名波 出 先生	工学部	工学の情報提供
平良 東紀 先生	農学部	農学の情報提供
眞榮平 孝裕 先生	理学部	理学の情報提供
石田 三成 先生	国際地域創造学部	国創の情報提供
松下 正之 先生	医学部	医学の情報提供

課題解決の方策リスト

方策	Who(提案)	課題	リーダー判断
	Who(実行)		
1) 産学連携に貢献した教職員、学生への表彰制度	平良先生 與儀係長	共同研究をしても評価されない	GO 共研の間接経費の活用、 共研の見える化等 も検討する
2) 業界団体への組織トップによる研究PR活動	松下先生 竹村先生	マッチングのための仕組やネットワークがない	GO 魅力的なシーズを出せるかがポイント
3) 大型研究費を持つ先生が退官後も研究継続できる仕組み	松下先生 竹村先生	共同研究をする能力が弱い	GO 他大学の制度を参考に、クローポからの引込も検討
4) 業績評価・人事制度の改革	竹村先生 眞栄平先生 竹村先生	共同研究をしても評価されない	GO まずは意見聴収で部局からの意見として入れる
5) 産学官金連携を見据えた研究第2志望制度の導入	眞栄平先生 眞栄平先生 島袋先生	教員間連携のまとめ役がない	5,6 組合せてGO 学内SNS等を使って既存の産学支援制度への組み込みを検討
6) 産学スタートアップ支援制度の拡大、見直し	島袋先生 島袋先生 眞栄平先生	共同研究をするメリットがない	5.6 組合わせてGO 上記提案との組み合わせ検討
7) 共同研究獲得インセンティブの導入（間接経費の活用）	石田先生 竹村先生 與儀係長	共同研究をするメリットがない	GO 間接経費の積算根拠を明確にするところから開始
8) 有力教授、URAが主導する大型プロジェクト推進	羽賀URA 羽賀URA	教員間連携のまとめ役がない	GO ターゲットとするプロジェクト検討から開始する

課題解決企画提案書

作成担当：平良東紀

方策：産学連携に貢献した教職員、学生への表彰制度

課題：共同研究をしても評価されない

判断：GO

共研の間接経費の活用、共研の見える化等も検討する
職階ごとに表彰する。職員には共研先の紹介で表彰する。

What/How	Who	When	効果予測	リーダー判断
産学連携による外部資金獲得の件数と金額の統計を集める	事務	11月中旬		
評価項目・重さを決定する（内容・件数・金額）	平良, WG	11月中		
表彰する対象, 表彰方式（報奨金含む）を決定	平良, WG	12月中		
対象者を表彰する（報奨金は重点施策推進経費または共研の間接経費より）		1月初旬		

※報奨金は内容（順位？）に応じて、5～20万円程度。賞状だけでは意識付け出来ないのので、報奨金は必須と考える。学生や職員はどのように評価出来るのか？評価したとして、報奨金は支払えるのか？

リスク対策

想定される問題	発生確率	影響度	発生要因	予防対策	発生時対策	トリガーポイント
評価方法が教員に理解されない	中	高	評価方法および選考過程の周知不足	評価方法・選考過程をオープンにし、平均点や上位の点数を公開する。		アンケートでの反対意見数
重点施策推進経費が使えない	高	高	理事の理解が得られない	先に説明を十分に行う。	賞状のみで表彰する。	
報奨金を支払うことに対する理解が得られない。	中	中	外部資金を取っている上に、報奨金まで貰えると思われる。	大学として共同研究を推進するための施策である旨の説明を十分に行う。		アンケートでの反対意見数

課題解決企画提案書

作成担当：松下正之

方策：業界団体への組織トップによる研究PR活動

課題：マッチングのための仕組やネットワークが少ない

判断：GO

間接魅力的なシーズを出せるかがポイント。

既存の円卓会議から始めるのもあり。学部から全学に広げる。

What/How	Who	When	効果予測	リーダー判断
業界団体の情報収集し候補団体の絞り込み (例：医学系なら日本製薬協会)	各部局長 地域連携部門	4月中 (次年度から実施 するとして)	20団体 程度	
各部局でシーズや参加者募集	各部局長	5月～6月	部局により 温度差があ る	
各団体への声かけ	地域連携部門	7月～8月	2～3団 体は興味を 示す	
実施	地域連携部門 (実施にあたり部 門長が参加)	10月～	10件ほ どの共同研究	

リスク対策

想定される問題	発生 確率	影 響 度	発生要因	予防対策	発生時対策	トリガー ポイント
シーズがない、参加者が少ない	中	大	研究開発への関心の低 さ、研究力の低さ	研究開発力の 重要性をFDなど でアピール、イン センティブ制度	各部局長が積極 的に声かけをする	参加者数
各団体が興味を持たない	中	大	シーズの魅力の低さ	地道な研究力 強化	事前に各団体の 事務局長に直接 交渉する。	参加企業 数

課題解決企画提案書

2. 参考資料

作成担当：松下正之

方策：大型研究費を持つ学内外先生が退官後も研究継続できる仕組み

課題：共同研究をする能力が弱い

判断：GO

他大学の既にある制度を参考に制度設計を行う。
クローポからの引き込みも検討する。

What/How	Who	When	効果予測	リーダー判断
人事制度の見直し（65歳以上の特命教授制度）	大学執行部	4月～8月 （次年度から制度設計開始として）	より長期になる	
研究スペースの確保	担当理事以下	4月～8月	可能	
学内外有力退官予定者のピックアップ（62歳～64歳）	担当理事以下	9月～12月	50名	
研究者への声かけ	担当理事以下	令和2年1月～3月	10名	
交渉と絞り込み	担当理事以下	令和2年4月～8月	5名	
実施		令和3年4月開始	初年度2名	

リスク対策

想定される問題	発生確率	影響度	発生要因	予防対策	発生時対策	トリガーポイント
人事制度	大	大	組合の反対	地道な説明	長期的に交渉	交渉時期
研究スペースの確保	中	大	大学空きスペースがない	各部局で確保する	今後、教員の削減が進むの事前確保	2名程度のスペース
参加者がいない（交渉がうまくいかない）	中	大	他大学へ流れる	早期に交渉する	参加者がいない場合は、あえて実施する必要はない。	参加者数

課題解決企画提案書

作成担当：竹村、眞榮平

方策：業績評価・人事制度の改革

課題：共同研究をしても評価されない

判断：GO

まずは意見聴収で部局からの意見として入れる。

人事制度はハードルが高いので、まずは表彰制度から開始する。

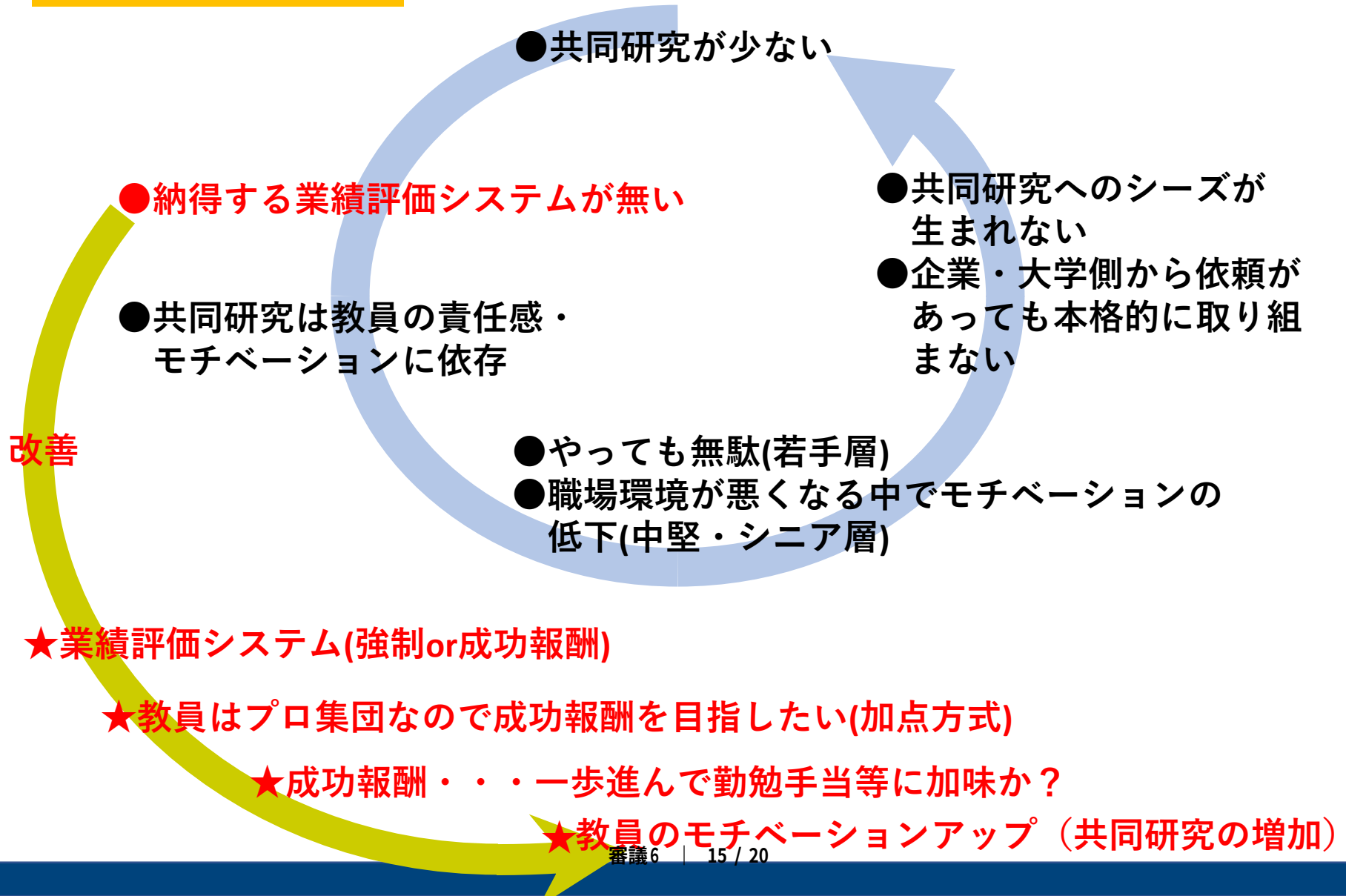
What/How	Who	When	効果予測	リーダー判断
社会貢献も教育・研究と並ぶ業務義務であることを全教員にFDを実施し意識改革	学長より特別任命された教職員(人事課含)	令和2年1月		
社会貢献・共同研究に関して評価してほしい項目の整理(教員からの意見聴収、他大学の調査)			教員からの意見聴収数	
評価項目の整理(取り組みしやすいように敷居は低く設定)		3月		
ブレ業績・人事評価スタート		4月～12月		
評価項目の再整理(共同研究が増加したかどうか)		令和3年1月～3月		
業績・人事評価、本格スタート		4月～		

リスク対策

想定される問題	発生確率	影響度	発生要因	予防対策	発生時対策	トリガーポイント
教員からの意見聴収数の低さ	中	中	社会貢献・共同研究の経験が少なく意見の出し方がない	社会貢献・共同研究のFDと理解促進	社会貢献・共同研究のFDと理解促進(繰り返し)	

課題解決企画提案書

方策：業績評価・人事制度改革



課題解決企画提案書

作成担当：眞榮平

方策：産学官金連携を見据えた研究第2志望制度の導入

課題：教員間連携のまとめ役がない

判断：組合せてGO
 学内SNS、コミュニティーサイト等を使ってのマッチングを検討
 既存の産学スタートアップ支援制度への組み込みを検討

What/How	Who	When	効果予測	リーダー判断
学内教職員・企業へのプロジェクトの説明	地域連携推進機構(眞榮平?)	令和2年1月		
統括代表者の募集と選出を行い、主旨の説明				
学内webにて共同研究者を募集(依頼型・自発型)				
プロジェクトスタート。依頼型は課題解決を、自発型は企業マッチングや外部資金獲得も目指す		3月	30件・150人(配分費10件・400万円支出)	
終了、課題解決の結果とまとめ(さらなる発展or終了)		12月	依頼型では確実な成果	

リスク対策

想定される問題	発生確率	影響度	発生要因	予防対策	発生時対策	トリガーポイント
共同研究者募集にあまり集まらない	高	高	異分野・異業種募集なので教員の遠慮	エフォート付与と教員の異分野研究の興味促進	統括代表者からの身近な教員への声かけ	応募件数
自発型で企業マッチングが少ない	中	中	課題テーマの高すぎや、興味を示す企業が少ない	企業からの課題や要望の紹介	マッチング可能性のある企業の要望を確認、課題見直し	
大学からの配分費が膨大になる	低	低	配分費ほしさで人数集めの可能性もある	正しい主旨説明	統括代表者への確認	配分費の上限設定

課題解決企画提案書

方策：産学官金連携を見据えた研究第2志望制度の導入

研究第2志望制度プロジェクト

産学官金連携を意識した、異分野・異業種チームで取り組む課題解決プロジェクトである。

依頼型と自立型からなり、統括代表者(教員または職員、必ずしも課題分野の専門家でなくてよい)が、学内webを利用して教員を募集しチームを編成する。募集に際しては、必ずしも当該課題の専門知識は問わず、教員の興味度・やる気を尊重する。チーム寿命は1年以内を基本とする。

依頼型(外部資金有り)：企業からの課題解決依頼または大学からの依頼に応じて、教員自身または地域連携機構より統括代表者(教員・職員)を選出する。統括代表者が学内webを通して、共同研究者を募集しチームで課題解決に臨む。参加教員には業績評価シートにエフォート0.02が加算される。

自発型(外部資金無し)：問題・課題意識を持った教員が統括代表者となり、学内webにて共同研究者を募集しチームで課題解決に臨む。参画教員にはエフォート0.01が加算される。地域連携推進機構がチームの進捗状況を確認しながら、企業とのマッチングや外部資金獲得(沖縄県・内閣府等)への提案・サポートを行う。

依頼型、自発型とも参加教員のエフォートを合算してチームエフォートが0.1を超えたら20万円～40万円のチームサポート費が大学から配分される。
(課題内容の重要度ではなく、チームの構成人数によって予算配分されるところが、従来の予算申請型と違うところである。教員の個を尊重。)

40万円の根拠(科研費基盤(C) 500万円を基準に、0.7掛け、間接経費差し引き分0.5、科研費エフォートを0.4としてエフォート0.01の単価を算出)
(エフォート0.01あたりの単価 = 科研費基盤C 500万円 $\times$ 0.7 $\times$ 0.5 $\times$ 0.025 = 約4万円、自発型は10名でチームエフォート0.1となるので4万円 $\times$ 10名 = 40万円)

※共同研究や産学官金連携の学内の状況：産業界に近い研究分野の教員は連携しやすい。また、地域貢献の意識の高い教員も連携しやすく、学内としては産学官金連携を行っている教員に偏りが大きいように思います。連携で忙しい教員はさらに連携依頼があり忙しくなる傾向があるように思います。そこで共同研究や産学官金連携に縁遠いが、興味を持っている教員に活躍の場を提供するのが本案の目的です。

また、異分野・異業種チームで取り組むことにより、さらなる創造性や独創性に発展する期待もあります。教員が自信の専門分野とは異なる課題について、自由な発想で主体的に研究出来る場を提供する制度でもあります。

学内webの募集イメージは、求人情報のイメージ(案)

①
タイトル：琉球大学ゼロエネルギーハウス(ZEH)実証実験棟を用いた、住まいの快適度の数値化策定プロジェクト

概要：一般的な住まいの快適指数は温度・湿度を基準とするが、高緯度地域のデーターを基に策定されたもので亜熱帯地域に必ずしも合致するものではありません。そこで、今までに例が無い高温多湿の亜熱帯地域における快適指数の策定を目指すプロジェクトです。住まいは衣食住の1つをなし、皆さんが興味・恩恵のある課題です。ぜひ、未来の沖縄の住まいのあり方を一緒に研究してみませんか！

プロジェクト形態：依頼型(予算500千円/年)、エフォート0.02

募集分野：問わず

募集人数：問わず

募集期間：**月末日まで

研究期間：1年

統括代表者：理学部 眞榮平孝裕 (問い合わせ連絡先：maehira@sci.u-ryukyu.ac.jp)

作成担当：島袋

課題解決企画提案書

方策：産学スタートアップ支援制度の拡大、見直し

課題：共同研究をするメリットがない

判断：組合わせてGO

「産学官金連携を見据えた研究第2志望制度」との組み合わせ検討

What/How	Who	When	効果予測	リーダー判断
（拡大-資金）支援施策に参加頂く機関の追加・拡大	産学連携部門長、島袋	11月から適宜	沖縄銀行 300万円に近い追加資金確保目標	
（拡大-研究者）学内周知、スタートアップ支援事例の紹介等（本年度はポスター作成。次年度は説明会も開催検討する）	産学連携部門長、島袋	本年度内（3月まで）	説明会は数回開催を図り、応募者増に繋げる	

リスク対策

想定される問題	発生確率	影響度	発生要因	予防対策	発生時対策	トリガーポイント
応募する研究者が増えない	中	高い	教員の外部資金に関する認識不足	外部資金FDを実施し理解促す	協力してくれそうな教員に直接打診	応募件数

課題解決企画提案書

作成担当：石田三成

方策：共同研究獲得インセンティブの導入（間接経費の活用）

課題：共同研究をするメリットがない

判断：GO

間接経費の積算根拠を明確にするところから開始
まずは産学連携係と財務部で検討する。

What/How	Who	When	効果予測	リーダー判断
共同研究において直接経費以外に生じる費用の特定（研究担当教員へのインセンティブ経費（給与または公費の割増を想定）、URA等の人件費、さらなる共同研究推進のための経費など）	WG（総合企画戦略部、財務部、総務部、各学部）	11月 (3か月)	インセンティブ経費を積み増すほど、教員の共同研究への意欲が高まる	
間接経費割合・金額の設定（必ずしも定率にする必要はなく、受け入れ金額が多くなるほど間接経費割合が逓減する、あるいは個別に設定することとし、そのガイドライン策定でもOK）	WG	2月 (2か月)	共同研究を受け入れたのに赤字になってしまうことを防ぐ	
実施	総合企画戦略部（窓口）、各学部	4月		

リスク対策

想定される問題	発生確率	影響度	発生要因	予防対策	発生時対策	トリガーポイント
間接経費割合・金額が高すぎる	中	中	積算の甘さ、高コスト体質	費用の「見える化」を行い、共同研究にとって真に必要な経費が明確にしたうえで費用計上する	重複する業務の洗い出し・集約化を通じたコスト削減	制度設計
資金提供者が間接経費の支払いを拒否（直接経費の支払い意欲はある場合）	低	中	資金提供者の間接経費に対する認識不足	共同研究受け入れルールの明確化し、告知する（HP掲載、事前説明など）	間接経費の積算根拠・必要性を説明する。規模が大きければ法人化を提案。	契約交渉
共同研究の数が減少する	高	中	資金提供者の資金余力がない	研究開発税制や、補助・交付金制度の紹介（資金提供者が利用していなさそうであれば）	間接経費の積算根拠の見直し or 何もしない（赤字になる共同研究を推進すべきか？）	共同研究数

作成担当：羽賀

課題解決企画提案書

方策：有力教授、URAが主導する大型プロジェクト推進

課題：教員間連携のまとめ役がない

判断：GO

ターゲットとするプロジェクト検討から開始する。

SOLVE for SDGsを成功事例にプレアワード活動を推進

What/How	Who	When	効果予測	リーダー 判断
これから公募される大型プロジェクト情報を収集しターゲットとするプロジェクト候補を決める（SATREPS、未来社会創造事業、DESIGN-i、ムーンショット事業など）	研究企画室URA	11月		
プロジェクト代表となる候補者の選出、支援体制の構築	研究推進機構 地域連携機構	1月		
公募に向けた座組コーディネーター、共同での申請書作成準備	コーディネーター、 URA	2月		
大型プロジェクトへの申請	プロジェクト代表、 URA	申請まで	1件数千万～ 数億円	
採択後のポストアワード体制の構築と実施	同上	採択後		

リスク対策

想定される問題	発生 確率	影 響 度	発生要因	予防対策	発生時対策	トリガー ポイント
プロジェクト代表が決まらない	中	高	代表候補の先生に断られる	URAによる支援体制強化	上位マネージメントより調整	申請書作成時
座組のマッチングが上手くいかない	中	高	関係する研究者を発掘できない	シーズ、研究者データベース活用	学外マッチングネットワークの活用	同上
ポストアワード体制が整備できない	中	中	URAリソース不足	業務マネージメントの実施	採択予算を使ったリソース強化	実施計画策定時

令和2年度公開授業一覧表.xlsx

No	科目種別	学部	学科	教員名	職名	科目番号	科目名	単位数	学期	初回講義 (学年を参照のこと)	曜日	時限	教室	募集人数
1	共通教育科目	人文社会学部	国際法政学科	世話人 阿部小涼	教授	環01	平和論	2	前期学	(学年を参照のこと)	火	4	共2-205	10
2	共通教育科目	人文社会学部	国際法政学科	世話人 阿部小涼	教授	環01	平和論	2	後学期	(学年を参照のこと)	火	4	共1-217	10
3	共通教育科目	人文社会学部	人間社会科	寺石悦章	教授	人09	環境の哲学	2	前期学	4月13日	月	3	共通教育棟2号館 305教室	5
4	共通教育科目	人文社会学部	人間社会科	寺石悦章	教授	人19	人間観と宗教	2	後学期	10月1日	木	3	共通教育棟2号館 305教室	5
5	共通教育科目	人文社会学部	人間社会科	寺石悦章	教授	人47	宗教と世界	2	後学期	10月5日	月	3	共通教育棟2号館 305教室	5
6	共通教育科目	人文社会学部	人間社会学科	田中寛二	准教授	人12	人間関係論	2	前期学	4月13日	月	1	共通教育棟2-205教室	5
7	共通教育科目	人文社会学部	人間社会学科	田中寛二	准教授	人11	心の科学	2	後学期	10月5日	月	1	共通教育棟1-118教室	5
8	共通教育科目	人文社会学部	琉球アジア文化学科	高橋そよ	准教授	社15	人類文化の比較	2	前期学	4月9日	木	2	文講201	5
9	共通教育科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	西森 和広	教授	人23	文学の楽しみ	2	前期学	4月9日	木	4	共通教育等3号館104教室	5
10	共通教育科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	西森 和広	教授	人24	小説の社会学	2	後学期	10月1日	木	4	共通教育等3号館104教室(予定)	5
11	共通教育科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	テルバール・フランク	准教授	外305	フランス語会話入門 I	2	前期学	4月14日	火	4	共通教育棟 3号館301教室	5
12	共通教育科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	テルバール・フランク	准教授	外306	フランス語会話入門 II	2	後学期	10月6日	火	4	共通教育棟 3号館302教室	5
13	共通教育科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	テルバール・フランク、宮里厚子	准教授、准教授	外307	インテンシブフランス語 I	4	前期学	4月10日	火、金	2	共3-405(火)、共3-301(金)	5
14	共通教育科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	テルバール・フランク、宮里厚子	准教授、准教授	外308	インテンシブフランス語 II	4	後学期	10月2日	火、金	2	共3-403(火)、共3-205(金)	5
15	共通教育科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	鈴木正士	教授	外401	スペイン語入門 I	2	前期学	4月15日	水	2	共通教育等3号館204教室	5
16	共通教育科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	鈴木正士	教授	外402	スペイン語入門 II	2	後学期	10月7日	水	2	共通教育等3号館205教室	5
17	共通教育科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	稲地恭子、酒井アルベルト	講師、准教授	外407	インテンシブスペイン語 I	2	前期学	4月10日	火、金	2	共通教育棟3号館305教室	5
18	共通教育科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	稲地恭子	講師	外408	インテンシブスペイン語 II	4	後学期	10月2日	火、金	2	共通教育棟3号館305教室	5
19	共通教育科目	理学部	物質地球科学科	與儀 護	准教授	自22	人間と物理学	2	後学期	10月7日	水	2	共通教育棟 2-201教室	10
20	共通教育科目	理学部	物質地球科学科	安田 千寿	准教授	転11	物理学入門I	2	前期学	4月14日	火	2	共通教育棟 2-101教室	5
21	共通教育科目	理学部	物質地球科学科	安田 千寿	准教授	転12	物理学入門 II	2	後学期	10月1日	火	2	共通教育棟 2-101教室	5
22	共通教育科目	理学部	物質地球科学科	稲岡 毅	教授	先31	物理学I	2	前期学	4月10日	金	2	共通教育棟1号館118教室	5
23	共通教育科目	理学部	物質地球科学科	稲岡 毅	教授	先32	物理学II	2	後学期	10月2日	金	2	共通教育棟1号館118教室	5
24	共通教育科目	理学部	物質地球科学科	松本 剛、畑中 寛	教授、特命准教授	環99	琉大特色・地域創生特別講義Ⅹ	2	前期学	4月11日	土		共通教育棟1号館118教室	20
25	共通教育科目	理学部	物質地球科学科	松本 剛、畑中 寛	教授、特命准教授	環99	琉大特色・地域創生特別講義Ⅹ	2	後学期	10月3日	土		共通教育棟1号館118教室	20
26	共通教育科目	理学部	物質地球科学科	松本 剛	教授	自62	天体観測を通して学ぶ宇宙	2	前期学	調整中			共通教育棟1号館118教室	10
27	共通教育科目	理学部	物質地球科学科	松本 剛	教授	自03	海洋の科学	2	前期学	4月14日	火	1	共通教育棟1号館118教室	10
28	共通教育科目	理学部	海洋自然科学科	蓮那 洋子	准教授	先41	化学 I	2	前期学	4月13日	月	5	共通教育棟2-301教室	10
29	共通教育科目	グローバル教育支援機構	キャリア教育支援部門	本村 真 他	教授	C22	海外キャリア形成入門	2	前期学	調整中			共通2-205	10
30	共通教育科目	地域連携推進機構	生涯学習推進部門	柴田 聡史	准教授	社31	教育政策史	2	後学期	10月6日	火	2	共通教育棟2-100教室	5
31	共通教育科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	島袋 綾、畑中 寛、宮里 大八	教授、特命准教授、非常勤講師	環95	琉大特色・地域創生特別講義Ⅴ「政策立案能力強化プログラム」	2	後学期	11月21日	土・日・祝	1～5	地域国際学習センター301講義室	10
32	共通教育科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	松本 剛、畑中 寛	教授、特命准教授	C31	地域企業(自治体)お題解決プログラム	2	前期学	4月14日	火	5	地域国際学習センター301講義室	10
33	共通教育科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	松本 剛、畑中 寛	教授、特命准教授	C31	地域企業(自治体)お題解決プログラム 01組	2	後学期	10月6日	火	5	地域国際学習センター301講義室	10
34	共通教育科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	喜納 育江、畑中 寛	教授、特命准教授	C14	キャリアデザインとジェンダーⅡ	2	後学期	10月1日	木	5	地域国際学習センター301講義室	10
35	共通教育科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	畑中 寛、宮里 大八	特命准教授、非常勤講師	総96	総合特別講義Ⅶ「クラウドファンディング実践講座」	2	前期学	未定	土	3～5	地域国際学習センター301講義室	10
36	共通教育科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	畑中 寛、宮里 大八	特命准教授、非常勤講師	総95	総合特別講義Ⅶ「ソーシャルキャピタル構築講座(島マス記念堂 in 琉大)」	3	～5	未定	土	3～5	地域国際学習センター301講義室	10
37	共通教育科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	畑中 寛、平井 雅	特命准教授、非常勤講師	総98	総合特別講義Ⅷ「ファシリテーションの技法と地域振興」	2	前期学	未定	土	3～5	地域国際学習センター301講義室	10
38	共通教育科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	畑中 寛、平良 斗星	特命准教授、非常勤講師	総99	総合特別講義Ⅸ「地域円卓会議マネジメントの技法と実践」	2	前期学	未定	土	3～5	地域国際学習センター301講義室	10
39	共通教育科目	国際教育センター	留学生ユニット	赤嶺 ゆかり	非常勤講師		国際共修で学ぶ日本史Ⅰ	2	後学期	10月5日	月	3	国際教育センター 203	若干名
40	共通教育科目	国際教育センター	留学生ユニット	赤嶺 ゆかり	非常勤講師		国際共修で学ぶ日本史Ⅱ	2	前期学	4月13日	月	3	国際教育センター 203	若干名
41	共通教育科目	国際教育センター	留学生ユニット	Christopher Mellev	非常勤講師		国際共修で学ぶ日本文化Ⅰ	2	後学期	10月7日	金	3	国際教育センター 203	若干名
42	共通教育科目	国際教育センター	留学生ユニット	Christopher Mellev	非常勤講師		国際共修で学ぶ日本文化Ⅱ	2	前期学	4月15日	金	3	国際教育センター 203	若干名
43	共通教育科目	共通教育	日本語教育副専攻	名嶋義直	教授	総109	日本語教材研究Ⅰ	2	後学期	4月7日	火	1	国際教育センター 203	5
44	共通教育科目	共通教育	日本語教育副専攻	名嶋義直	教授	総110	日本語教材研究Ⅱ	2	後学期	10月6日	火	1	国際教育センター 203	5
45	共通教育科目	共通教育	日本語教育副専攻	名嶋義直	教授	総107	日本語教育各論Ⅰ	2	後学期	4月9日	木	1	図書館内 グローバルコモンズ・津梁	5
46	共通教育科目	共通教育	日本語教育副専攻	名嶋義直	教授	総108	日本語教育各論Ⅱ	2	後学期	10月8日	木	1	図書館内 グローバルコモンズ・津梁	5
47	専門科目	人文社会学部	国際法政学科	戸谷義治	准教授	LAW281	基礎労働法	2	前期学	4月14日	火	4	未定	10
48	専門科目	人文社会学部	国際法政学科	戸谷義治	准教授	LAW282	展開労働法	2	後学期	10月6日	火	4	未定	10
49	専門科目	人文社会学部	人間社会学科	寺石悦章	教授	P&P111	共生哲学	2	前期学	4月9日	木	3	文系学部棟215	10
50	専門科目	人文社会学部	人間社会学科	寺石悦章	教授	P&P112	人間の探究	2	後学期	10月6日	火	4	文系学部棟215	10
51	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	王 怡人	教授	経営304	広告論	2	前期学	4月13日	月	2	文講111教室、文講211教室(予定)	5
52	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	王 怡人	教授	B学共112	マーケティング入門	2	後学期	10月5日	月	6	文講112教室(予定)	5
53	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	王 怡人	教授	B学共218	マーケティング実践研究	2	前期学	10月1日	月	6	文講102教室(予定)	5
54	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	越野 泰成	教授	学共105	経済学概論	2	前期学	4月9日	木	2	文講215教室	10
55	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	堀口 浩一	教授	学共122	日本経済入門	2	前期学	4月9日	木	4	文講114教室	5
56	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	堀口 浩一	教授	経済304	財政学	2	前期学	4月14日	火	3	文講114教室	5
57	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	堀口 浩一	教授	学共205	地域経済入門	2	後学期	10月8日	火	5	文講201教室	10
58	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	宮平勝行	教授	英言321	英語スピーチ	2	前期学	4月13日	月	5	共通教育棟3号館305教室(予定)	3
59	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	宮平勝行	教授	英言322	英語ディベート	2	後学期	10月1日	木	5	共通教育棟3号館102教室(予定)	3
60	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	テルバール・フランク	准教授	欧言304	フランス語ライティングⅠ	2	前期学	4月	未定	未定	未定	5
61	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	テルバール・フランク	准教授	欧言306	フランス文化研究Ⅰ	2	前期学	4月	未定	未定	未定	5
62	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	テルバール・フランク	准教授	仏文216	フランス文化研究Ⅳ	2	前期学	4月	未定	未定	未定	5
63	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	テルバール・フランク	准教授	欧言322	フランス語学研究	2	後学期	10月	未定	未定	未定	5
64	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	テルバール・フランク	准教授	欧言329	フランス文化研究Ⅱ	2	後学期	10月	未定	未定	未定	5
65	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	テルバール・フランク	准教授	仏文401	フランス語表現法Ⅰ	2	後学期	10月	未定	未定	未定	5
66	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	加藤保子	准教授	学共113	英米文学概論	2	後学期	10月1日	木	3	共通教育棟2号館100教室	5
67	専門科目	国際地域創造学部	国際地域創造学科	堀 勝彦	准教授	B学共104	社会科学のためのゲーム論入門	2	後学期	未定	未定	未定	未定	5
68	専門科目	教育学部		吉田 安規良	教授	理391	理科教育法A(1組)	2	前期学	4月9日	木	6	教106(予定)	5
69	専門科目	教育学部		吉田 安規良	教授	教職134	授業技術	2	前期学	4月13日	月	5	教105(予定)	5
70	専門科目	教育学部		服部 洋一	教授	音121	ギターⅠ	1	前期学	4月10日	金	3	音楽棟201	5
71	専門科目	教育学部		服部 洋一	教授	音111	合唱ⅠA	1	前期学	4月10日	金	4	音楽棟201	5
72	専門科目	教育学部		服部 洋一	教授	音600	総合舞台芸術演習	2	前期学	4月9日	木	5	音楽棟201	10
73	専門科目	理学部	物質地球科学科	稲岡 毅	教授	物理322	物理数学Ⅳ	2	後学期	10月7日	水	2	理学部114教室	5
74	専門科目	理学部	物質地球科学科	稲岡 毅	教授	物理203	物理数学Ⅰ	2	前期学	4月9日	木	2	理学部114教室	5
75	専門科目	理学部	物質地球科学科	古川雅英	教授	物地373	海洋地質学	2	前期学	4月13日	月	3	理学部114教室	10
76	専門科目	理学部	海洋自然科学科	渡那 洋子	准教授	海化213	物理化学Ⅱ	2	前期学	4月14日	火	3	理系複合棟202教室	10
77	専門科目	理学部	海洋自然科学科	渡那 洋子	准教授	海化219	物理化学Ⅳ	2	後学期	10月6日	火	1	理系複合棟202教室	10
78	専門科目	理学部	海洋自然科学科	世話人 伊藤 竜一	准教授	理共205	熱帯生物科学概論	2	前期学	4月14日	火	5	理系複合棟102室	5
79	専門科目	理学部	海洋自然科学科	世話人 傳田 哲郎	教授	理共206	熱帯生物生産学概論	2	後学期	10月6日	火	5	理系複合棟102室	5
80	専門科目	工学部	工学科	小野 昂子	准教授	工共213	確率及び統計	2	後学期	10月7日	水	1	共通教育棟4-505	5
81	専門科目	工学部	工学科	長山 裕	准教授	知能351	数理計画とアルゴリズム	2	前期学	4月15日	水	2	工学部1号館321教室	5
82	専門科目	医学部	保健学科	照屋 典子	教授		緩和ケア特論	2	後学期	11月19日	木	5	医学部保健学科棟 3F313室	5
83	専門科目	医学部	保健学科	照屋 典子	教授		緩和ケア特別演習	2	後学期	11月19日	木	6	医学部保健学科棟 3F313室	5
84	専門科目	農学部	亜熱帯農林環境科学科	関根 健太郎	准教授	環213	植物ウイルス病学	2	後学期	10月5日	月	1	共通教育棟 2-100教室	10
85	専門科目	農学部	亜熱帯農林環境科学科	亀山 統一	助教	環353	森林微生物学	2	前期学	4月15日	水	2	未定	5
86	専門科目	農学部	亜熱帯農林環境科学科	亀山 統一	助教	環258	森林保護学	2	後学期	10月1日	木	3	共3-201	7
87	専門科目	農学部	亜熱帯農林環境科学科	金城 和俊	准教授	環378	土壌環境科学	2	前期学	4月10日	金	3	未定	10
88	専門科目	農学部	亜熱帯農林環境科学科	金城 和俊	准教授	環274	環境土壌学	2	後学期	10月2日	金	1	共3-103	10
89	専門科目	農学部	亜熱帯農林環境科学科	諏訪 竜一	准教授	環212	作物学	2	前期学	4月15日	水	2	未定	10
90	専門科目	農学部	亜熱帯農林環境科学科	諏訪 竜一	准教授	環317	熱帯エネルギー作物学	2	後学期	10月1日	木	2	共1-217	10
91	専門科目	農学部	亜熱帯農林環境科学科	辻 瑞樹	教授	環271	生態学・環境学	2	前期学	4月9日	木	1	未定	5
92	専門科目	農学部	亜熱帯農林環境科学科	辻 瑞樹	教授	環272	進化生態学	2	後学期	10月7日	水	1	共3-103	5
93	専門科目	地域連携推進機構		背戸 博史	教授	教社211	教育の社会史	2	後学期	10月6日	火	4	法文学部202教室	5
94	専門科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	高畑 明尚、畑中 寛	教授、特命准教授	経済424	実証経済学Ⅴ「社会的インパクト投資基礎概論」	3	～5	未定	土・日集中講義	3～5	地域国際学習センター301	10
95	専門科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	高畑 明尚、畑中 寛	教授、特命准教授	未定	経済学プログラム専門科目(応用科目)「コミュニティ・プロデューサー養成講座」	2	前期学	未定	土	3～5	地域国際学習センター301	10
96	専門科目	地域連携推進機構	地域連携企画室	高畑 明尚、畑中 寛	教授、特命准教授	未定	経済学プログラム専門科目(応用科目)「ICTの活用による地域課題解決」	2						

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	人間関係論 (人 12)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	田中寛二 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 13日 (月曜日・1時限目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟2-205教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 人間の発達, パーソナリティ論, 社会行動, 心の病とその対処などの概説を通して, 自己と他者, 対人関係, 社会生活についての理解を心理学的に深めることを目的とする。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	心の科学 (人11)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	田中寛二 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 5日 (月曜日・ 1時限目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1－118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 心理学の歴史と研究方法, 感覚と知覚, 記憶, 学習, 思考と言語, 情動と動機づけ, 生理心理学の各領域について, 研究例を概観することを通して心理学について理解を深める。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	人間の探究(P&P112)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	寺石悦章(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月6日 (火曜日・4時限目)
授 業 時 間	14:40～16:10
開 催 会 場 (教 室)	文系学部棟215
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) シュタイナー教育等で有名なルドルフ・シュタイナーの思想を手がかりに、ユニークな視点から、人間と世界について哲学的に考察します。	
受講者への連絡方法	休講時の連絡等はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	共生哲学(P&P111)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	寺石悦章(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 (木曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50～14:20
開 催 会 場 (教 室)	文系学部棟215
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 「あらゆる存在は互いに関連し合い、また影響を与え合っている」ということを、さまざまな思想を手がかりに解説します。「助け合って生きる」といった意味での「共生」がテーマではありませんのでご注意ください。	
受講者への連絡方法	休講時の連絡等はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	人間と宗教(人19)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	寺石悦章(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月1日 (木曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50～14:20
開 催 会 場 (教 室)	共通2-305
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) ヒンドゥー教・仏教・儒教・神道な、代表的な東洋の宗教の概説を行います。言葉だけでは伝わりにくいことも多いので、映像で学ぶ回を何度か設ける予定です。	
受講者への連絡方法	休講時の連絡等はEメールにて行う。
備 考	受講者が発表・発言する授業ではありません。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	宗教と世界(人47)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	寺石悦章(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月5日 (月曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50～14:20
開 催 会 場 (教 室)	共通2-305
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 世界の代表的な宗教(主に西洋の宗教)の入門的概説と、政治・経済・生活など多様な視点からの諸宗教の横断的解説からなる授業です。言葉だけでは伝わりにくいことも多いので、映像で学ぶ回を何度か設ける予定です。	
受講者への連絡方法	休講時の連絡等はEメールにて行う。
備 考	受講者が発表・発言する授業ではありません。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・人間社会学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	環境の哲学(人09)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	寺石悦章(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月13日 (月曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50～14:20
開 催 会 場 (教 室)	共通2-305
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 社会が経済(特にお金)によって支配されている限り環境を守ることは困難です。授業では環境を守るために必要な社会のあり方を考察します。個々の環境問題について解説する授業ではありませんのでご注意ください。	
受講者への連絡方法	休講時の連絡等はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部国際法制学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	展開労働法(LAW282)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	戸谷義治(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月6日 (火曜日・ 4時限目)(予定・現在授業編成中)
授 業 時 間	14:40～16:10
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 現在定着している労働判例法理について、その基礎となった判決や理論が提示された時代背景を確認し、労働関係(職場の常識)の変遷を講義する。(変更の可能性あり)	
受講者への連絡方法	必要なことは基本的に授業中に通知する。希望があればメールでの連絡等、相談に応じる。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部国際法制学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	基礎労働法(LAW281)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	戸谷義治(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月14日 (火曜日・ 4時限目)(予定・現在授業編成中)
授 業 時 間	14:40～16:10
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 労働法の基本的な構造を確認した上で、会社と労働者との雇用契約関係及び、賃金・労働時間等の労働条件最低基準に関する個別的労働関係法を講義する。	
受講者への連絡方法	必要なことは基本的に授業中に通知する。希望があればメールでの連絡等、相談に応じる。
備 考	

2020年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部・国際法政学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	平和論 (琉01)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	世話人 阿部小涼 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	(学年歴を参照のこと) (前後期とも 火 曜日・ 4 時限目)
授 業 時 間	14:40 ～ 16:10
開 催 会 場 (教 室)	前期:共2-205/ 後期:共1-217
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10 人
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り <u>100文字以内</u> で お 願 い し ま す) 平和とはなにか、基礎的な理論を通じて理解を深めます。同時に平和学の対象となる具体的な事例、直接的暴力と構造的暴力を平和学の視点で考察します。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	電子メール、掲示板、WebClass
備 考	複数学部の教員によるオムニバスの授業です。WebClassを使用します。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	人文社会学部
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	人類文化の比較 2組(社15)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	高橋そよ(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 9日 (木曜日・ 2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	文講201
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本授業は、自然と人間との関わりをグローバルとローカルな視点から総合的に理解し、持続可能な社会や地域のあり方を多角的に考えることを目的とする。参考 高橋そよ2018『沖縄・素潜り漁師の社会誌』コモンズ。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	学務係を通してを希望します。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	文学の楽しみ(共通:人23)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	西森 和広(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 9日 (木曜日・ 4時限目)
授 業 時 間	14:40~16:10
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 3号館104教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 主に大衆的な文学作品を対象に、その内容や読み方を解説しながら、文学への関心を高めることを目的とする。学期ごとに、小説、演劇、詩、映画などのジャンルから一つ、ないし二つのジャンルを取り挙げる。	
受講者への連絡方法	Eメール・Webclassを使用する。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	フランス語会話入門 I (共通: 外305)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月14日 火曜日 4時限
授 業 時 間	14:40~16:10
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 3号館301教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) この授業はフランス語会話と文法の基本を身につけることを目的とします。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	インテンシブフランス語 I (共通: 外307)
単 位 数	4単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授) 宮里厚子(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月10日 火2限と金2限 (10時20～11時50)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	火曜→ 共通教育棟 3号館405教室 金曜→ 共通教育棟 3号館301教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) この授業は初級レベルのフランス語会話と文法を身につけることを目的とします。フランス語を学んだことのないか改めて最初から学びたい人向けの授業です。	
受講者への連絡方法	
備 考	教科書の購入不要

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	スペイン語入門Ⅰ(共通: 外401)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	鈴木正士(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 15日 (水 曜日・ 2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 3号館204教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) スペイン語の初歩から学びます。文法を中心にしながら、簡単な会話も学んでいきます。	
受講者への連絡方法	メールで連絡します。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	インテンシブスペイン語 I (共通: 外407)
単 位 数	4単位
担 当 教 員 名 (職 名)	福地恭子(講師) 酒井アルベルト(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 10日 (火曜日・金曜日 2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 3号館305教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) スペイン語の初級レベルの「読み・書き・聞き・話す」能力を身につけることを目的とします。週2回のクラスで、火曜日は文法、金曜日は会話や発音が中心となります。	
受講者への連絡方法	Eメールにて行う。
備 考	週2回の講義です。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	小説の社会学(共通: 人24)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	西森 和広(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 1日 (木曜日・ 4時限目)
授 業 時 間	14:40~16:10
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 3号館104教室(予定)
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 小説作品を読みながら、作品の書かれた時代や社会背景を調べ、作品の意味や読み方を探る。また作品を通して背後にある社会への関心を高め、小説が社会との関りを持って成立するという認識を学ぶ。	
受講者への連絡方法	Eメール、Webclassを使用する。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	フランス語会話入門Ⅱ(共通: 外306)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月6日 火曜日 4時限
授 業 時 間	14:40～16:10
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 3号館302教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) この授業はフランス語会話入門Ⅱに続き、フランス語会話と文法の基本を身につけることを目的とします。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	インテンシブフランス語Ⅱ(共通: 外308)
単 位 数	4単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授) 宮里厚子(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月2日 火2限と金2限(10時20～11時50)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	火曜→ 共通教育棟 3号館403教室 金曜→ 共通教育棟 3号館205教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) この授業は前期のインテンシブフランス語Ⅰに続き、初級レベルのフランス語会話と文法を身につけることを目的とします。改めて基礎から学びたい人向けの授業です。	
受講者への連絡方法	
備 考	教科書の購入不要

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	スペイン語入門Ⅱ(共通: 外402)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	鈴木正士(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 7日 (水 曜日・ 2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 3号棟205教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により <u>100文字以内</u> でお願いします) 「スペイン語入門Ⅰ」の続きです。引き続き、文法を中心にしながら、簡単な会話も学んでいきます。	
受講者への連絡方法	メールで連絡します。
備 考	「スペイン語入門Ⅰ」を履修済みであること。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	インテンシブスペイン語Ⅱ(共通: 外408)
単 位 数	4単位
担 当 教 員 名 (職 名)	福地恭子(講師) 酒井アルベルト(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 2日 (火曜日・金曜日 2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 3号館305教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) スペイン語の初級レベルの「読み・書き・聞き・話す」能力を身につけることを目的とします。週2回のクラスで、火曜日は文法、金曜日は会話や発音が中心となります。	
受講者への連絡方法	Eメールにて行う。
備 考	週2回の講義です。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科(経営プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	マーケティング実践研究(国創科目:B学共218)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	王 怡人(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月13日 (月曜日・6時限目)
授 業 時 間	18:00ー19:30
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟 102教室(予定)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 教科書を使用し、一回の講義につき一つの事例を通じてマーケティングの諸概念について勉強します。講義は主に3ー4人の小グループによるディスカッションの形式で行います。	
受講者への連絡方法	講義ノート等はweb classにて配布します。学生への連絡はEメールで行います。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科(経営プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	広告論(国創科目:経営304)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	王 怡人(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月13日 (月曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20-11:50
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟 111教室 & 211教室(予定)
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 講義の前半では、広告宣伝に関する理論的側面を順次に取り上げて解説します。講義の後半では理論に対する理解をふまえて実際の提案練習(グループワーク)を行ってもらいます。	
受講者への連絡方法	講義ノート等はweb classにて配布します。学生への連絡はEメールで行います。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科(経済学プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	日本経済入門(国創科目:学共122)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	瀬口 浩一(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 (木曜日・4時限目)
授 業 時 間	14:40~16:10
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟 114教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 私たちの日常生活は、日本経済という器の中にありますが、その器は大きな環境変化に直面し、様々な課題を抱えています。本講義では、日本経済の変遷や今日的課題を理解し、今後の方向を考えます。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科(経済学プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	経済学概論(国創科目:学共105)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	越野 泰成(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 (木曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟 215教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の基礎的な内容を通して新聞やテレビでの経済ニュースや日常生活、社会現象についてケース・スタディを使いながら経済学的に理解することを授業の達成目標としています。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はWebClassにて行います。 WebClassへは、第1回目の講義終了後、登録します。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科(経済学プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	財政学(国創科目:経済304)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	瀬口 浩一(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月14日 (火曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50~14:20
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟 114教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 深刻な財政問題に直面する今日ですが、私たちは「財政とは何か」や「問題解決の選択肢」を理解することに難しさを感じてはいないでしょうか。本講義では、財政への理解を深めることを目指します。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	英語スピーチ (国創科目:英言321)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	宮平 勝行(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月13日 (月曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20~17:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 3号館305教室(予定)
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	3人
授 業 内 容	本講座では、考える力や説得力を養うパブリック・スピーキングの基本的概念と理論を学び、クラスで英語によるスピーチを発表します。講義は全て英語で行います。
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	フランス語ライティング I (国創科目: 欧言304)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 未定
授 業 時 間	90分
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) この授業はフランス語能力試験DELFのA1・A2レベルに対応する書く能力を身につけることを目指します。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	フランス文化研究 I (国創科目: 欧言306)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 未定
授 業 時 間	90分
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) フランス文化とフランス語圏文化についての教科書の一節などを講読し、中級レベルのフランス語の文法や語彙を身につける企画です。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	フランス文化研究Ⅳ(法文科目:仏文216)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 未定
授 業 時 間	90分
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) フランスの学校で使われるフランス史の教科書の一節などを講読し、中級レベルのフランス語の文法や語彙を身につける企画です。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科(経営プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	マーケティング入門(国創科目:B学共112)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	王 怡人(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月5日 (月曜日・6時限目)
授 業 時 間	18:00－19:30
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟 112教室(予定)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 企業のマーケティング活動を「製品」、「価格」、「流通ルート」、「販売促進」、「E-Commerce」及びその応用といった内容に沿って、事例を取り上げながら解説します。	
受講者への連絡方法	講義ノート等はweb classにて配布します。学生への連絡はEメールで行います。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・国際地域創造学科(経済学プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	地域経済入門(国創科目:学共205)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	瀬口 浩一(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月8日 (木曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20~17:50
開 催 会 場 (教 室)	文系講義棟 201教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 今日、その存続が危ぶまれる地域が増えています。観光需要拡大などプラス要因がある一方、地域経済を取り巻く環境は急速に悪化しています。本講義では、地域経済の見方を学び、様々な課題を考えます。	
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	英米文学概論(国創科目:学共113)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	加瀬保子(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月1日 (木 曜日・ 3 時限目)
授 業 時 間	12:50~14:20
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 2号館100教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 英米のフィクション、詩、ドラマ、自伝、グラフィックノベルなど様々なジャンルの作品を、用いられている技巧や作家の時代背景などに着目しながら味わい、文学分析方法の基礎を学ぶ。講義は英語と日本語で行う。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	Email
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	英語ディベート (国創科目:英言322)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	宮平 勝行(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月1日 (木曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20~17:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 3号館102教室(予定)
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	3人
授 業 内 容	本講座では、現代の様々な社会問題について、「賛成」と「反対」の両方の立場から問題点を分析し、論理的に自分の意見をまとめ、討論する能力を磨きます。講義は全て英語で行います。
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	フランス語学研究(国創科目: 欧言322)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 未定
授 業 時 間	90分
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により <u>100文字以内</u> でお願いします) この授業では日本語からフランス語への翻訳作業を行います。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	フランス文化研究Ⅱ(国創科目:欧言329)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 未定
授 業 時 間	90分
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人以内
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) フランスの学校で使われる教科書の一節などを講読し、中級レベルのフランス語の文法や語彙を身につける企画です。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部学部・国際地域創造学科(国際言語文化プログラム)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	フランス語表現法 I (法文科目:仏文401)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	デルバール・フランク(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 未定
授 業 時 間	90分
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) この授業はフランス人の日常場面を対象とした中級レベルのフランス語会話を勉強する授業です。聴く・読む・話す・書くの四つのコミュニケーション能力を身につけることを目的としています。	
受講者への連絡方法	frankdb@ll.u-ryukyu.ac.jp
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際地域創造学部・経済学プログラム
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	社会科学のためのゲーム論入門 (B学共104)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	堀 勝彦(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	未定 未定
授 業 時 間	未定
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) ゲーム理論は複数の人々が意思決定に関して相互作用する状況を分析する理論で、様々な分野で有用な思考ツールとして定着しつつあります。本講義はゲーム理論の基礎と現実社会で生じる状況の分析について学びます。	
受講者への連絡方法	掲示板・WebClass・電子メール
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	教育学部
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	授業技術(教職134)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	吉田 安規良(教育学研究科 教職実践講座 教授) 森 力(教職センター 准教授)ほか
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月13日 (月 曜日・ 5 時限目)
授 業 時 間	16時20分～17時50分
開 催 会 場 (教 室)	教105(予定)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5 人 程度
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 内容と方法:教師として授業を担当するときに必要な技能や知識を講述する。 達成目標:教師として子どもの前に立ったとき、最低限の技能(板書、所作、指示)について理解し、それが授業の形でできるようになる。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	講義に関連する諸連絡(課題、休講)については講義中に連絡することを原則とする。
備 考	本学の都合により、月曜日以外の平日に月曜日の授業を行うことがある(詳細は学年歴を参照のこと)。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	教育学部
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	理科教育法A[1組](理391) 【教育学部及び理学部中高理科免許同時取得者対象】
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	吉田 安規良(教育学研究科 教職実践講座 教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 (木 曜 日 ・ 6 時 限 目)
授 業 時 間	18時00分～19時30分
開 催 会 場 (教 室)	教106(予定)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5 人 程度
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り 100文字以内 で 願 い し ま す) 中学校ならびに高等学校の理科授業の目的、目標、指導法と評価法ならびにそれに関連する他の事項(例:幼稚園や小学校の理科教育、自然環境教育とのつながり、社会教育、生涯教育)について概説する。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	講義に関連する諸連絡(課題、休講)については講義中に連絡することを原則とする。
備 考	担当教員の都合により、休講にする際はその前後の週で7限まで(終了21時すぎ)連続して授業を行うことがある(振替分を連続して実施することがある)。 本学の都合により、木曜日以外の平日に木曜日の授業を行うことがある詳細は学年歴を参照)。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	教育学部・音楽教育専修
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	ギター I (音121)
単 位 数	1単位
担 当 教 員 名 (職 名)	服部洋一(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月10日 (金 曜 日 ・ 3 時 限 目)
授 業 時 間	12:50～14:20
開 催 会 場 (教 室)	音楽棟 201
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 全くのギター初心者でも可。ギターを構える姿勢や調弦法、左右の手指のポジションや弾弦パターン練習をしつつ、ハ長調、ト長調の主要なコードと進行を練習し、簡単な曲の弾き歌いを学ぶ。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	メール:fubuyangyi@hotmail.co.jp
備 考	ギター持参が望ましい。オプション品の購入に関しては初回授業にて説明する。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	教育学部・音楽教育専修
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	合唱IA(音111)
単 位 数	1単位
担 当 教 員 名 (職 名)	服部洋一(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月10日 (金 曜 日 ・ 4 時 限 目)
授 業 時 間	14:40～16:10
開 催 会 場 (教 室)	音楽棟 201
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 歌を歌うための基本的な身体の柔軟性、姿勢、呼吸法、発声法を学び、合唱アンサンブルを行う。音色の統一された、また言葉さばきの巧みな感動的な合唱を創りあげる演習を合唱団員として実体験する。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	メール:fubuyangyi@hotmail.co.jp
備 考	身体を動かしやすい格好で受講のこと。夏場は汗をかくので各自飲料水を持参すること。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	教育学部・音楽教育専修
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	総合舞台芸術演習 (音600)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	服部洋一(教授、責任教員)、他未定
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 (木 曜 日 ・ 5 時 限 目)
授 業 時 間	16:20~17:50
開 催 会 場 (教 室)	音楽棟201
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 異年齢集団活動としてのミュージカルの練習・本番をとおして人間力を身につける。ミュージカルでの役回りについては、自己申告やオーディションをもとに担当教員と主導学生との検討会議で定められる。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	メール:fubuyangyi@hotmail.co.jp
備 考	特別練習が多いので、初回授業でのガイダンスを必ず聞きに来ること

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科 物理系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	人間と物理学(自22)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	與儀 護(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 7日(予定) (水曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 2-201教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) この講義では物理学の発展の歴史と現代社会の関わり合いについて講義を行う。それに加えて、様々な電磁波(電波、可視光線、X線など)の性質とその応用例について、物理学と現代エレクトロニクスに関連などについても概説する。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科(物理系)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理学入門I(転11)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	安田 千寿(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月14日 (火曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 2-101教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授 業 内 容	物の落下など身の回りで起こっている現象を力学の法則から論理的に理解する方法を解説します。受講者が高校の物理を履修していないことを考慮に入れ、グラフや図を多用して力学の基礎的事項から解説します。
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	Eメールで行う。Eメールを使えない場合は相談に応じる。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科(物理系)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理学入門Ⅱ(転12)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	安田 千寿(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 6日 (火曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 2-101教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授 業 内 容 熱、波、電気、磁気に関する疑問を論理的に理解する方法を解説します。受講者が高校の物理を履修していないことを考慮に入れ、グラフや図を多用して、熱、波、電磁気学の基礎的事項から解説します。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	Eメールで行う。Eメールを使えない場合は相談に応じる。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科 物理系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理学I (先31)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	稲岡 毅 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月10日 (金曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) ニュートンの運動方程式に基づき、物体の運動を論ずる。また、運動量、力学的エネルギー、角運動量の保存則について学ぶ。単振動、重力場での物体の運動、万有引力による惑星、彗星の運動などを扱う。	
受講者への連絡方法	休講などの連絡はEメールで行う。
備 考	高校の数学II、数学III、物理を履修していることが望ましい。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科 物理系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理学II (先32)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	稲岡 毅 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月2日 (金曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 電磁気学の基礎として、静電場、定常電流、電流と磁場について学ぶ。具体的内容は、電場、磁場に関するガウスの法則、誘電体中の静電場、キルヒホッフの法則、アンペールの法則、ビオ・サバールの法則などである。	
受講者への連絡方法	休講などの連絡はEメールで行う。
備 考	高校の数学II、数学B、数学III、物理を履修していることが望ましい。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科 物理系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理数学IV (物物322)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	稲岡 毅 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月7日 (水曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	理学部114教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) この授業科目の内容はフーリエ解析であり、具体的にはフーリエ級数、フーリエ積分、フーリエ変換である。変化・変動する現象を、正弦波、余弦波、あるいは複素数による波に分解して解析する方法について学ぶ。	
受講者への連絡方法	休講などの連絡はEメールで行う。
備 考	高校の数学Ⅲ、とりわけ三角関数の積分を履修していることが望ましい。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 物質地球科学科 物理系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理数学I (物物203)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	稲岡 毅 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 (木曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	理学部114教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 線形代数学の基礎として、ベクトル、行列、行列式について学ぶ。とくに、行列の演算、行列式の性質、連立1次方程式の解法(クラメルの公式)、エルミート行列の固有値問題が重要な学習項目である。	
受講者への連絡方法	休講などの連絡はEメールで行う。
備 考	高校の数学Bのベクトルを履修していることが望ましい。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	海洋地質学(物地373)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	古川雅英 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月13日 (月曜日・3時限)
授 業 時 間	12:50~14:20
開 催 会 場 (教 室)	理学部114教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 地球科学や環境科学の全般を理解する上で、海域における地質の知識は不可欠である。この講義では、プレートテクトニクスの基礎を含め、海域の地質全般を理解する上で必要となる基礎的事項を解説する。	
受講者への連絡方法	授業時間内もしくは直前・当日の場合はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科／地域連携推進機構
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	琉大特色・地域創生特別講義Ⅸ(星空案内人養成講座) (琉99)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛(教授)／畑中 寛(特命准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月11日(土) 14時～
授 業 時 間	4月11日～8月1日の間 毎週土曜日午後 2～4時間 (他の行事のある日を除く、日程は調整中) 計8回
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	20人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 星空案内人(星のソムリエ®)は、地域で星空や宇宙の世界、またその楽しさを教えらる人である。本科目は「星空案内人資格制度運営機構」の定める基準に基づいて開講され、修了により資格取得が可能である。	
受講者への連絡方法	受講登録者各位の指定メールアドレス宛連絡を行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科／地域連携推進機構
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	琉大特色・地域創生特別講義Ⅸ(星空案内人養成講座) (琉99)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛(教授)／畑中 寛(特命准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月3日(土) 14時～
授 業 時 間	10月3日～12月19日の間 毎週土曜日午後 2～4時間 (他の行事のある日を除く、日程は調整中) 計8回
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	20人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 星空案内人(星のソムリエ®)は、地域で星空や宇宙の世界、またその楽しさを教えられる人である。本科目は「星空案内人資格制度運営機構」の定める基準に基づいて開講され、修了により資格取得が可能である。	
受講者への連絡方法	受講登録者各位の指定メールアドレス宛連絡を行う。
備 考	講義かもくについては、那覇・久米島・宮古・石垣・国頭・大宜味サテライトキャンパスへの配信も行う予定。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	天体観測を通して学ぶ宇宙 (自62)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	調整中 (現在のところ、8月17日(月)または24日(月)の週の実施を予定)
授 業 時 間	4日間実施する。各日2校時(2・3限または3・4限)。
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 国立天文台との連携授業であり、宇宙・銀河系・恒星・太陽系天体などの天文学の基礎や最新の研究成果をわかり易く解説し、宇宙に関して理解を深めることを目的とする。8月中旬の4日間、各回3時間実施する。	
受講者への連絡方法	受講登録者各位の指定メールアドレス宛連絡を行う。
備 考	日程・講師については現在、国立天文台と調整中であり、6月頃公表する。 那覇・久米島・宮古・石垣・国頭・大宜味サテライトキャンパスへの配信も行う。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部・物質地球科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	海洋の科学 (自03)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月14日 (火曜日・1時限目)
授 業 時 間	08:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟1号館118教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 沖縄県に住む我々「海洋民族」は海からさまざまな恩恵を受けている。反面、海は災害を引き起こすなど「怖い」存在でもある。この授業は、海のいろいろな側面について学び、海への理解を深めることを目的とする。	
受講者への連絡方法	休講通知等については、初回及び各回の授業で予告するが、希望者には電子メールで通知する。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 海洋自然科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	化学 I (先41)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	漢那 洋子 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 13日 (月曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20 ~ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟2-301教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義は、大学理系の初年次学生向けの一般化学である。化学現象の原子・分子レベルでの統一的・普遍的理解のために必要な基本的原理およびその適用等を概説する。主に原子・分子の構造や化学結合について講義する。	
受講者への連絡方法	休講等の連絡は、e-mail で行うか、講義時間中に行います。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 海洋自然科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理化学Ⅱ(海化213)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	漢那 洋子 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 14日 (火曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50 ~ 14:20
開 催 会 場 (教 室)	理系複合棟202教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義は大学の学部化学専攻学生向けの物理化学の講義である。化学平衡や相平衡、溶液など化学が対象とする系を物理学の一分野である熱力学に基づいて理解するための化学熱力学の基本事項やその適用等を概説する。	
受講者への連絡方法	休講等の連絡は、e-mailで行うか、講義時間中に行います。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部 海洋自然科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	物理化学 IV(海化219)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	漢那 洋子 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 6日 (火曜日・1時限目)
授 業 時 間	8:30 ~ 10:00
開 催 会 場 (教 室)	理系複合棟202教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義は、大学の学部化学専攻学生向けの物理化学の講義である。化学反応(化学変化)を理解するために必要な基本的な考え方や原理およびその適用等を概説する。主に化学反応速度論と化学平衡についての講義を行う。	
受講者への連絡方法	休講等の連絡は、e-mailで行うか、講義時間中に行います。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部海洋自然科学科生物系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	熱帯生物科学概論(理共205)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	世話人:伊藤 竜一(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月14日 (火曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20-17:50
開 催 会 場 (教 室)	理系複合棟102室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人以内
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り <u>100文字以内</u> で お 願 い し ま す) 学内では1、2年次を対象とした生物学の概論講義。生物系で行われている研究内容を軸に、沖縄の生物の面白さや研究の多様性を学ぶことを目的としている。複数の教員によるオムバス形式の講義を行う。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	理学部海洋自然科学科生物系
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	熱帯生物生産学概論(理共206)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	世話人:傳田 哲郎(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月6日 (火曜日・5時限目)
授 業 時 間	16:20-17:50
開 催 会 場 (教 室)	理系複合棟102室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人以内
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り <u>100文字以内</u> で お 願 い し ま す) 琉球列島の水生生物(主として海産生物)に関する最新の多様な研究を紹介し、生物学における位置づけと他の応用分野との関連等について概説する。講義は海洋自然科学科生物系教員がリレー形式で担当する。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	保健学研究科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	緩和ケア特論()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (官 職)	照屋 典子(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	11月 19日 (木曜日・5時限)
授 業 時 間	16:20～17:50(受講生の都合により17:30以降となることもある)
開 催 会 場 (教 室)	医学部保健学科棟 3F 313室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授 業 内 容	終末期医療に携わる看護師に必要な知識習得のための教育プログラム(ELNEC-J)を活用し、がん患者、家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルな苦痛症状の緩和を目的とした看護援助について教授する。
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や講義日程の変更、課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	※本講義の受講者は、九州がんプロ養成プラン「がん看護エキスパートナース養成コース」を履修するものに限る。 ※講義日程の詳細については、受講者と調整を行う。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	保健学研究科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	緩和ケア特別演習()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (官 職)	照屋 典子(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	11月 19日 (木曜日・6時限目)
授 業 時 間	18:00～19:30(受講生の都合により19:00以降となることもある)
開 催 会 場 (教 室)	医学部保健学科棟 3F 313室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授 業 内 容	「緩和ケア特論」同様、ELNEC-Jの内容を踏まえた上で、診断から在宅医療など様々な場面で切れ目なく緩和ケアが提供されるための看護援助方法について、演習や事例検討を取り入れ、実践力の強化を図る。
受講者への連絡方法	休講時や講義日程の変更、課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	※本講義の受講者は、がんプロ養成基盤推進プラン「がん看護エキスパートナース養成コース」を履修するものに限る。 ※講義日程の詳細については、受講者と調整を行う。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	工学部工学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	確率及び統計(工共213)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	小野尋子(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月7日 (水曜日・1時限目(8:00-10:00(2H)))
授 業 時 間	30分追加して、8:00-10:00の開催にし丁寧に教えます。
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟4-505
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 講義は平均や分散など、初歩的なところから始まり、終了時には統計検定2級受験レベルになります。1)ニュースなどのデータを独自に検証したい人、2)多変量解析ソフトは使うが基礎的な理論を学びなおしたい人、等	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	工学部工学科・知能情報コース
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	数理計画とアルゴリズム(知能351)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	長山 格(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 15日 (水 曜日・ 2 時限目)
授 業 時 間	90分程度
開 催 会 場 (教 室)	工学部1号館321教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5 人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義では, 数理計画と最適化における基本的手法・理論について線形計画法, 最適化理論など様々な問題を例に取りながら解説する. 適宜, 課題練習を実施し, 数値計算パッケージを用いて実践的な問題解決能力を学ぶ.	
受講者への連絡方法	掲示または電子メールによる
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部 亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	植物ウイルス病学(環213)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	関根 健太郎(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月5日 (月曜日・1時限目)
授 業 時 間	8:30~10:00
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟 2-100教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り 100文字以内 で 願 い し ま す) 植物ウイルスは農作物をはじめとした多くの有用植物に被害を及ぼすが、現在のところ有効な抗ウイルス剤がなく、その防除は予防が中心となっている。そのためウイルス病の防除はウイルスの基本を理解し、発生生態の解明、的確な診断などが重要となる。この講義では、植物ウイルスの基本性状・増殖およびウイルス病の発生状況、診断・防除法などについて基礎的・応用的に解説する。関連する地域課題として、慢性的にウイルス学とそれに関する分子生物学の専門知識を持った人材が不足している状況にある。 植物ウイルス病学は、教養としてウイルス全般に関する基本的な知識を身につけ、合わせて生物と無生物の境界にあるウイルスについて学ぶことで、生命とは何かについて受講生自らが考え、分子生物学の基礎を学ぶことを目的とする。 分子生物学的な実験を理解するための実験のデモンストレーションの時間を儲ける。本講義の関連する知識がどのような場面で活用されるかを具体的にわかるよう、沖縄県の防疫業務に実際に携わる社会人による特別講義を行う。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部・亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	森林微生物学(環353)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	亀山 統一(助教)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月15日 (水曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 森林やマングローブの樹木、都市の植栽木を対象に、病害など樹木と真菌類などの微生物との相互関係についての基礎的な知識を習得する。樹木の器官・組織の形態・構造や生理の特徴、樹木寄生微生物の分類や形態・生活史、人間活動を含む環境条件をなす因子やその特性について学ぶ。	
受講者への連絡方法	メール、農学部掲示板への掲示による
備 考	森林保護学(環258)を聴講済みであるか、または、植物病理学・樹木医学の基礎知識をお持ちであることが望ましい。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部・亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	森林保護学(環258)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	亀山 統一(助教)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月1日 (木曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50~14:20
開 催 会 場 (教 室)	共3-201
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	7人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 樹木の病害とその流行のしくみについて概論する。本科目では、宿主樹木の形態と成長のしくみ・水分通道などの生理的な特徴をまずよく学び、その上に立って、樹木全体が劇的に枯死する流行病を数種類取り上げて、カビやセンチュウなどの病原生物の特徴や、流行病が発生する自然的社会的条件について学ぶ。	
受講者への連絡方法	メール、農学部掲示板への掲示による
備 考	開講日程、教室、シラバスは9月に確定する

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部 亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	土壌環境科学(環378)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	金城 和俊(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月10日 (金曜日・3時限目)
授 業 時 間	12:50~14:20
開 催 会 場 (教 室)	
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 農業および環境分野における土壌の役割、さらに酸性土壌や赤土流出など、沖縄に分布する土壌の問題点なども紹介・解説する予定である。授業は板書や液晶プロジェクターを用いて行います。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部 亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	環境土壌学(環274)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	金城 和俊(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月2日 (金曜日・1時限目)
授 業 時 間	8:30~10:00
開 催 会 場 (教 室)	共3-103
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 基礎的な土壌学について主に解説し、農業分野および環境分野における土壌の役割についても解説する。 授業は板書や液晶プロジェクターを用いて行います。教科書などは特に指定しません。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部 亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	作物学(環212)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	諏訪 竜一(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月15日 (水曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 農学の基幹分野となる作物学の基礎概念を教授する。取り扱う作物は、人類の活動の源となる食糧として用いる「食用作物」を主とし、サトウキビやその他種々のエネルギー利用用途としての「工芸作物」等についても取り上げる。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部 亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	熱帯エネルギー作物学(環317)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	諏訪 竜一(准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月1日 (木曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	共1-217
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により 100文字以内 でお願いします) ①導入部分において、エネルギー作物の位置づけ、その利用や社会的な背景についての講義を行う。 ②植物資源のエネルギー化(バイオエタノール、セルロースのエタノール化、バイオディーゼル、直接燃焼および原料の改質、その他の技術等)の原理について説明を行う。	
受講者への連絡方法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部・亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	生態学・環境学(環271)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	辻 瑞樹(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月9日 (木曜日・1時限目)
授 業 時 間	8:30~10:00
開 催 会 場 (教 室)	未定
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 個体群、群集、生物多様性、生態系と物質循環の成り立ちを生態学的視点から概観し、持続可能な環境利用に関する理解を深める。個体群から地球規模までの幅広いスケールの現象を、基礎・応用両面の問題を取りまぜ扱う。	
受講者への連絡方法	緊急時以外はシラバスや掲示板
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	農学部・亜熱帯農林環境科学科
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	進化生態学(環272)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	辻 瑞樹(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月7日 (水曜日・1時限目)
授 業 時 間	8:30~10:00
開 催 会 場 (教 室)	共3-103
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 生物進化の正しい理解は、農林水産業だけでなく保全や観光産業も含め生物資源の有効利用のためにも重要である。本講義では進化生態学(行動生態学・社会生物学)の基本概念を、主に動物の事例を引用しながら、体系的に解説する。	
受講者への連絡方法	緊急時以外はシラバスや掲示板
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	地域企業(自治体)お題解決プログラム 01組 (C31)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛(理学部 教授), 畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 6日 (火 曜日・ 5 時限目)
授 業 時 間	16:20 ~ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義は、県内市町村(自治体)で行われる課題解決プロジェクトにインターンとして参加し、実際に課題解決にむけて活動することで、これからの社会に求められる社会人基礎力やキャリア観の醸成を図る。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム 「初級地域公共政策士」認証科目

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・生涯学習推進部門
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	教育政策史(社31)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	柴田 聡史 (准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 6日(予定) (火曜日・2時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50
開 催 会 場 (教 室)	共通教育棟2-100
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 現在日本で進む様々な教育改革は、米国で先行する教育政策の影響を受けている。そこで、本講義では、日米の教育政策の歴史的な展開を検討し、現代の教育政策上の課題について理解を深めることを目的とする。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	教育の社会史(教社211)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	背戸 博史 (教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 6日(予定) (火曜日・4時限目)
授 業 時 間	14:40 ~ 16:10
開 催 会 場 (教 室)	法文学部202教室
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	5人
授 業 内 容 (冊 子 印 刷 の 関 係 に よ り <u>100文字以内</u> で お 願 い し ま す) 本講義は社会史の成果をもとに、近代以前から営まれてきた次世代育成の多様な展開を確認することで、当然視されている現行の”教育”を相対化するとともに、”日本の教育”に伏在する特異な”日本性”を抽出する。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	地域企業(自治体)お題解決プログラム (C31)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	松本 剛(理学部 教授), 畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 14日 (火 曜日・ 5 時限目)
授 業 時 間	16:20 ~ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義は、県内市町村(自治体)で行われる課題解決プロジェクトにインターンとして参加し、実際に課題解決にむけて活動することで、これからの社会に求められる社会人基礎力やキャリア観の醸成を図る。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム 「初級地域公共政策士」認証科目

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	キャリアデザインとジェンダーⅡ (C14)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	喜納 育江(国際地域創造学部 教授), 畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 1日 (木 曜日・ 5 時限目)
授 業 時 間	16:20 ～ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本科目は、女性研究者、企業や自治体、NGO・NPOなど諸分野で活躍するロールモデルを講師に迎え、自らの研究や仕事、キャリアデザイン、ワーク・ライフ・バランスについて学修する。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	総合特別講義Ⅵ「クラウドファンディング実践講座」 (総96)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授), 宮里 大八(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	未定(前学期) ※下記の曜日・時限で調整中 (土 曜日・ 3～5 時限目)
授 業 時 間	12:50 ～ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 本講座は、地域が抱える課題を解決するため新たな資金調達手法である「クラウドファンディング」という手法で商品開発、サービス提供などの事業プランティングの手法を学修する。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム 「初級地域公共政策士」認証科目

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	総合特別講義Ⅷ「ファシリテーションの技法と地域振興」 (総98)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授), 平井 雅(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	未定(前学期) ※下記の曜日・時限で調整中 (土 曜日・ 3～5 時限目)
授 業 時 間	12:50 ～ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301講義室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 本科目では、地域振興及び地域課題解決に活かせるファシリテーションの考え方と技法について座学とグループワークを通して詳しく学ぶとともに、観光まちづくりの動向についても座学と現場視察を行う。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム 「初級地域公共政策士」認証科目

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	総合特別講義Ⅸ「地域円卓会議マネジメントの技法と実践」 (総99)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授), 平良 斗星(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	未定(前学期) ※下記の曜日・時限で調整中 (土 曜日・ 3～5 時限目)
授 業 時 間	12:50 ～ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301講義室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本科目では、地域社会の課題の解決をめざす対話の場である「沖縄式地域円卓会議」のマネジメントを行える人材を育成するため、ケーススタディを中心に課題解決の手法を学修する総論的な内容を扱います。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム 「初級地域公共政策士」認証科目

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	総合特別講義Ⅴ「ソーシャルキャピタル構築講座(島マス記念塾 in 琉大)」 (総95)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授), 宮里 大八(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	未定(後学期) ※下記の曜日・時限で調整中 (土 曜日・ 3～5 時限目)
授 業 時 間	12:50 ～ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講座は、沖縄の最重要課題として子どもの孤立や貧困等の地域が抱える課題について、地域とのつながりや異業種の連携、教育及び社会福祉等の地域事例となるケーススタディを中心に課題解決の手法を学修する。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	琉大特色・地域創生特別講義Ⅴ 「政策立案能力強化プログラム」 (琉95)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	島袋 純(教育学部教授), 畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授), 宮里 大八(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	11月 21日 (土・日・祝 曜日・ 1～5 時限目)
授 業 時 間	8:30 ～ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301講義室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 本科目は、地域活性化及び地域経営の具体的な課題を発見し、現実に応じた政策立案を実際に取り組む。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム 「初級地域公共政策士」認証科目

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	実践経済学Ⅴ「社会的インパクト投資基礎概論」 (経済424)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	高畑 明尚(国際地域創造学部 教授), 畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	未定(後学期) ※下記の曜日・時限で調整中 (土・日集中講義・3～5時限目)
授 業 時 間	12:50 ～ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義では、社会的インパクト投資の概論を踏まえた上でその方法の一つであるソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)について講義とグループワークにより具体的な進め方を実践的に学習する。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム 「初級地域公共政策士」認証科目

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	経済学プログラム専門科目(応用科目) 「コミュニティ・プロデューサー養成講座」 (未 定)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	高畑 明尚(国際地域創造学部 教授), 畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	未定(前学期) ※下記の曜日・時限で調整中 (土 曜日・ 3～5 時限目)
授 業 時 間	12:50 ～ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本講義では、マルチステークホルダーをつなぎ、地域を元気に盛り上げる能力「プロデュース能力」を高めるための実践的な内容を学習する機会を提供する。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム 「初級地域公共政策士」認証科目

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	地域連携推進機構・地域連携企画室
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	経済学プログラム専門科目(応用科目) 「ICTの活用による地域課題解決」 (未 定)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	高畑 明尚(国際地域創造学部 教授), 畑中 寛(地域連携推進機構 特命准教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	未定(後学期) ※下記の曜日・時限で調整中 (土 曜日・ 3～5 時限目)
授 業 時 間	12:50 ～ 17:50
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター301
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 本科目は、地域社会が抱える様々な課題(地域経済の活性化、大規模災害対策、急速な高齢化、等)の解決に不可欠なICTの活用を担う、地域公共人材養成を目的とする。	
受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備 考	「アクティブシンクタンク」社会人向け目的別人材育成プログラム 「初級地域公共政策士」認証科目

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	グローバル教育支援機構・キャリア教育支援部門 (キャリア教育センター)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	海外キャリア形成入門 (C22)
単 位 数	2 単位
担 当 教 員 名 (職 名)	本村 真 他 (センター長・教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	調整中 (8月中旬の連続する3日間、各日1～5時限目)
授 業 時 間	08:30～17:50
開 催 会 場 (教 室)	共通2-205
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	10人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 沖縄県内で海外との取引を行う企業の経営者や、アジア各国でビジネスを展開する起業家を招き、講話と討論を通して、海外就職も視野に入れた進路決定のヒントを得る。夏期集中講義として、3日間に亘って行う。	
受講者への連絡方法	受講登録者各位の指定メールアドレス宛連絡を行う。
備 考	日程・講師については現在調整中であり、6月頃公表する。 那覇・久米島・宮古・石垣・国頭・大宜味サテライトキャンパスへの配信も行う。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際教育センター 留学生ユニット
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	国際共修で学ぶ日本史 I ()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	赤嶺 ゆかり(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 5日(月) (月曜日 3限)
授 業 時 間	12:50～14:10
開 催 会 場 (教 室)	国際教育センター 203
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	若干名(空きがある場合のみ受入可)
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 複言語・複文化主義の下に、外国人留学生と日本人学生による国際共修環境で、日本の歴史について、ディスカッションをとおして、理解を深めます。CEFR A2レベル程度の英語力が必要です。	
受講者への連絡方法	LINEグループ、FACEBOOKメッセージ、email 等
備 考	コーディネート担当: 山元淑乃(国際教育センター) ysn@lab.u-ryukyu.ac.jp 外国人および、日本語教育に興味をお持ちの日本人も受講可能です 後期開講

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際教育センター 留学生ユニット
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	国際共修で学ぶ日本史Ⅱ ()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	赤嶺 ゆかり(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 13日 (月) (月曜日 3限)
授 業 時 間	12:50～14:10
開 催 会 場 (教 室)	国際教育センター 203
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	若干名(空きがある場合のみ受入可)
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 複言語・複文化主義の下に、外国人留学生と日本人学生による国際共修環境で、日本の歴史について、ディスカッションをとおして、理解を深めます。CEFR A2レベル程度の英語力が必要です。	
受講者への連絡方法	LINEグループ、FACEBOOKメッセージ、email 等
備 考	コーディネート担当: 山元淑乃(国際教育センター) ysn@lab.u-ryukyu.ac.jp 外国人および、日本語教育に興味をお持ちの日本人も受講可能です 前期開講

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際教育センター 留学生ユニット
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	国際共修で学ぶ日本文化 I ()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	Christopher Melley(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 7日(水) (金曜日 3限)
授 業 時 間	12:50~14:10
開 催 会 場 (教 室)	国際教育センター 203
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	若干名(空きがある場合のみ受入可)
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 複言語・複文化主義の下に、外国人留学生と日本人学生による国際共修環境で、日本文化について、ディスカッションをとおして、理解を深めます。CEFR A2レベル程度の英語力が必要です。	
受講者への連絡方法	LINEグループ、FACEBOOKメッセージ、email 等
備 考	コーディネート担当: 山元淑乃(国際教育センター) ysn@lab.u-ryukyu.ac.jp 外国人および、日本語教育に興味をお持ちの日本人も受講可能です 後期開講

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際教育センター 留学生ユニット
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	国際共修で学ぶ日本文化Ⅱ ()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	Christopher Melley(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 15日(水) (金曜日 3限)
授 業 時 間	12:50～14:10
開 催 会 場 (教 室)	国際教育センター 203
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	若干名(空きがある場合のみ受入可)
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 複言語・複文化主義の下に、外国人留学生と日本人学生による国際共修環境で、日本文化について、ディスカッションをとおして、理解を深めます。CEFR A2レベル程度の英語力が必要です。	
受講者への連絡方法	LINEグループ、FACEBOOKメッセージ、email 等
備 考	コーディネート担当: 山元淑乃(国際教育センター) ysn@lab.u-ryukyu.ac.jp 外国人および、日本語教育に興味をお持ちの日本人も受講可能です 前期開講

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際教育センター 留学生ユニット
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	日本語A2 ()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	ケリ綾子・真島知秀・元山由美子(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 9日(木) (月曜日1時限目、火曜日3限、木曜日3限、金曜日2限)
授 業 時 間	8:30～10:00(月)、10:20～11:50(金) 14:40～16:10(火・木)
開 催 会 場 (教 室)	国際教育センター 110(月)・101(火)・301(木)・107(金)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	若干名(空きがある場合のみ受入可)
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 複言語・複文化主義の下に、グローバルリーダー育成を目指した、外国人対象日本語コース。CEFR A1レベルからスタートし、A2レベルのコミュニケーション実践力と読解・作文力を養い、異文化理解を深めます。	
受講者への連絡方法	LINEグループ、FACEBOOKメッセージ、email 等
備 考	コーディネート担当: 山元淑乃(国際教育センター) ysn@lab.u-ryukyu.ac.jp 授業では英語も適宜使用し、日本語の初級文法について、小グループで教え合います。外国人および、日本語教育に興味をお持ちの日本人も受講可能です

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際教育センター 留学生ユニット
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	文法A2 ()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	山元淑乃(講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 9日(木) 第1・第3クウォーター開講 (火曜日 2時限目、木曜日 4時限目)
授 業 時 間	10:20～11:50、14:40～16:10
開 催 会 場 (教 室)	国際教育センター 203(火)・206(木)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	若干名(空きがある場合のみ受入可)
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 協働学習により、CEFR A2レベルまでの初級日本語文法を体系的かつ網羅的に復習し、中級以降の文法学習にむけた自律学習能力を養います。適宜英語を使用します。	
受講者への連絡方法	LINEグループ、FACEBOOKメッセージ、email 等
備 考	授業では英語も適宜使用し、日本語の初級文法について、小グループで教え合います。外国人および、日本語教育に興味をお持ちの日本人も受講可能です

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際教育センター 留学生ユニット
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	文法A ()
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	山元淑乃(講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 6日(後期のみ公開) (火曜日 3 時限目)
授 業 時 間	12:50~14:10
開 催 会 場 (教 室)	国際教育センター 203
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	若干名(空きがある場合のみ受入可)
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 複言語・複文化主義の下に、グローバルリーダー育成を目指した、外国人対象の日本語クラス。ゼロからスタートし、CEFR A2レベルまでの日本語文法の基礎を体系的に学びます。適宜英語を使用します。	
受講者への連絡方法	LINEグループ、FACEBOOKメッセージ、email 等
備 考	日本語Aを履修する外国人は、文法Aも履修することを推奨します。 授業では英語も適宜使用して文法の説明をします。 外国人および、日本語教育に興味をお持ちの日本人も受講可能です

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際教育センター 留学生ユニット
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	日本語A ()
単 位 数	8単位
担 当 教 員 名 (職 名)	真島知秀・中川麻美・ケリ綾子(非常勤講師), 加藤登美子(特任講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 1日(後期のみ公開) (月・火・木・金 曜日 1・2 時 限 目)
授 業 時 間	8:30~10:00, 10:20~11:50
開 催 会 場 (教 室)	国際教育センター 101
受 講 人 員 (5 ~ 1 0 名 以 内)	若干名(空きがある場合のみ受入可)
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 複言語・複文化主義の下に、グローバルリーダー育成を目指した、外国人対象の日本語集中コース。ゼロからスタートし、CEFR A2レベルのコミュニケーション実践力と読み書きの力を養い、異文化理解を深めます。	
受講者への連絡方法	LINEグループ、FACEBOOKメッセージ、email 等
備 考	コーディネート担当: 山元淑乃(国際教育センター) ysn@lab.u-ryukyu.ac.jp 外国人および、日本語教育に興味をお持ちの日本人も受講可能です

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	国際教育センター 留学生ユニット
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	日本語A1 ()
単 位 数	8単位
担 当 教 員 名 (職 名)	ケリ綾子・元山由美子・中川麻美・真島知秀(非常勤講師)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 1日 (後期のみ開講) (月・火・水・木 曜日 ・ 2 時 限 目)
授 業 時 間	10:20～11:50 (90分)
開 催 会 場 (教 室)	国際教育センター 206(月・水・木) 107(火)
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	若干名(空きがある場合のみ受入可)
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 複言語・複文化主義の下に、グローバルリーダー育成を目指した、外国人対象の日本語入門クラス。ゼロからスタートし、CEFR A1レベルのコミュニケーション実践力と読み書きの力を養い、異文化理解を深めます。	
受講者への連絡方法	LINEグループ、FACEBOOKメッセージ、email 等
備 考	コーディネート担当: 山元淑乃(国際教育センター) ysn@lab.u-ryukyu.ac.jp 外国人および、日本語教育に興味をお持ちの日本人も受講可能です

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	共通教育(日本語教育副専攻)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	日本語教材研究 I (総109)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	名嶋義直(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 7日 (火 曜 日 ・ 1 時 限 目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター203教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 日本語文法について自分で考え自分で規則を見出していく能力を高める授業です。日本語教育副専攻の必修科目であり、また留学生との共修授業にもなっています。以上の理由から日本語教育に興味のある方に限定します。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡は授業時に行います。欠席時は自分からEメールで問い合わせてください。
備 考	グループワークを行いますので積極的な授業参加が求められます。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	共通教育(日本語教育副専攻)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	日本語教材研究Ⅱ (総110)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	名嶋義直(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月6日 (火 曜 日 ・ 1 時 限 目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	地域国際学習センター203教室
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により<u>100文字以内</u>でお願いします) 前期開講「日本語教材研究Ⅰ」の続きです。文法分析能力を高める授業です。日本語教育副専攻の必修科目であり、留学生との共修授業にもなっています。以上の理由から日本語教育に興味のある方に限定します。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡は授業時に行います。欠席時は自分からEメールで問い合わせてください。
備 考	グループワークを行いますので積極的な授業参加が求められます。

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	共通教育(日本語教育副専攻)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	日本語教育各論 I (総107)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	名嶋義直(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	4月 9日 (木 曜日・ 1 時 限 目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	図書館内 グローバルコモンズ・津梁
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 会話分析の観点から人間の会話行動について学ぶ授業です。日本語教育副専攻の選択必修科目であり、留学生との共修授業にもなっています。以上の理由から日本語教育に興味のある方に限定します。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡は授業時に行います。欠席時は自分からEメールで問い合わせてください。
備 考	グループワークを行いますので積極的な授業参加が求めら

令和2年度 琉球大学公開授業計画書

学 部 ・ 学 科	共通教育(日本語教育副専攻)
授 業 科 目 名 (科 目 番 号)	日本語教育各論Ⅱ (総108)
単 位 数	2単位
担 当 教 員 名 (職 名)	名嶋義直(教授)
初 回 開 講 日 (曜 日 ・ 時 限)	10月 8日 (木 曜日・ 1 時 限 目)
授 業 時 間	8:30～10:00
開 催 会 場 (教 室)	図書館内 グローバルコモンズ・津梁
受 講 人 員 (5 ～ 1 0 名 以 内)	5人
授業内容(冊子印刷の関係により100文字以内でお願いします) 新聞などを読む実践を通して批判的リテラシーを高める授業です。日本語教育副専攻の選択必修科目であり、留学生との共修授業にもなっています。以上の理由から日本語教育に興味のある方に限定します。	
受 講 者 へ の 連 絡 方 法	休講時や課題等の連絡は授業時に行います。欠席時は自分からEメールで問い合わせてください。
備 考	グループワークを行いますので積極的な授業参加が求められます。

2020年度公開講座一覧

連番	種類	新規・継続	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料① ※料金規程によらない金額は赤字(無料は除く)	受講料② ※料金規程によらない金額は赤字(無料は除く)	サテライト連携	修了証発行の有無	対象者	開催期間	会場	備考	必要経費 ※黄色いセルは10万円以上	査定額	査定概要
1	一般	新規	人文社会学部	寺石 悦章(人文社会学部 教授)	心と身体にやさしい講座－出産・育児・教育－	30	¥3,180		否	無	市民一般	5月10日(日)・5月31日(日)	文系講義棟111教室		¥24,921		
2	一般	新規	人文社会学部	寺石 悦章(人文社会学部 教授)	秋の教養講座	30	¥3,180		否	無	市民一般	11月14日(土)・11月28日(土)	文系講義棟111教室		¥24,921		
3	一般	継続	人文社会学部	寺石 悦章(人文社会学部 教授)	シュタイナー教育入門	40	¥3,180		否	無	市民一般	8月27日(木)～9月10日(木)	文系講義棟111教室		¥0		
4	専門	新規	国際地域創造学部	福村 務(国際地域創造学部 教授)	社会人類学 I	20	¥4,730		否	無	市民一般(高校生以上)	4月18日(土)～5月23日(土)	文系講義棟201教室		¥0		
5	一般	新規	国際地域創造学部	西 圭介(国際地域創造学部 講師)	宮古島におけるサイクルツーリズムの未来	50	¥0		可	無	市民・ホテル関係者	調整中	宮古島サテライトキャンパス		¥63,200		
6	一般	継続	国際地域創造学部	大島 順子(国際地域創造学部 准教授)	やんばるで学ぶ世界自然遺産学習	20	3,180円		否	有	教育関係者及び観光関連事業者	6月28日(日)	琉球大学「与那フィールド」及び国頭村内の森林エリア		¥9,345		
7	一般	継続	国際地域創造学部	大島 順子(国際地域創造学部 准教授)	やんばるの山学校(仮)	20	3,180円		否	有	市民一般(中学生以上)	調整中	琉球大学「与那フィールド」及び国頭村内の森林やダム周辺、海岸エリア	申込者僅少のため不開講	¥30,615		
8	一般	継続	国際地域創造学部	大島 順子(国際地域創造学部 准教授)	地域の資源を磨く観光の担い手づくり講座	20	3,180円		可	有	市民一般、教員	調整中	地域国際学習センター301講義室	申込者僅少のため不開講	¥33,000		
9	子ども	継続	教育学部	濱田 栄作(教育学部 准教授)	クリスマスサイエンスレクチャー	16	¥0		否	有	小学4～6年生および中学生	12月19日(土)	琉球大学教育学部棟4階422教室		¥15,000		
10	子ども	継続	教育学部	岡本 牧子(教育学部 准教授)	新聞記者体験 -エネルギーってなんだろう？-	20	¥0		否	有	小学4～6年生とその保護者	7月18日(土)	琉球大学教育学部本館101教室		¥20,256		
11	一般	継続	教育学部	下地 敏洋(大学院教育学研究科 教授)	老年学への招待－老年学を日常生活へ－	25	¥0		否	無	市民一般	6月13日(土)・6月20日(土)	教育学部棟103教室		¥0		
12	子ども	継続	教育学部	笹澤 吉明(教育学部 准教授)	琉大生がサッカーと勉強を教えます！	100	¥0		否	無	小学生	5月開始	琉球大学サッカー場(雨天時第一体育館)及び講義室		¥720,830		
13	一般	継続	教育学部	松本 由香(教育学部 教授)	オリジナル模様ワンピースづくりにトライ！	6	¥3,700	材料費 ¥2,000	否	有	市民一般・学生	8月8日(土)、9日(日)	教育学部棟333教室		¥12,000		
14	一般	継続	教育学部	松本 由香(教育学部 教授)	染め織りから学び自然素材の小物づくりを体験しましょう	12	¥3,180		否	有	市民一般・学生	7月18日(土)、19日(日)	教育学部棟333教室		¥26,000		
15	子ども	新規	教育学部	杉尾 幸司(大学院教育学研究科 教授)	昆虫の行動をコントロールしてみよう -昆虫行動学入門-	16	¥0		否	有	中・高校生	4月18日(土)	教育学部本館 422教室		¥16,900		
16	子ども	継続	教育学部	三輪 一義(教育学部 教授)	児童・生徒・指導者のためのハンドボール教室	200	¥0		否	無	ハンドボール愛好者	4月11日(土)～3月7日(日)	琉球大学第一体育館		¥33,200		
17	一般	継続	理学部	前野 昌弘(理学部 准教授)ほか	～物理の魅力を教えます2020～	50	¥0		否	無	小中高校生・一般	8月9日(日)	理系複合棟		¥183,600		
18	子ども	継続	理学部	前野 昌弘(理学部 准教授)	琉大生による理科実験教室	100	¥0		否	無	小中高校生・一般	12月26日(土)	琉球大学理系複合棟		¥56,000		
19	一般	継続	理学部	漢那 洋子(理学部 准教授)	理系女子・理系男子の世界－進路選択とキャリア形成、生活と文化－	20	¥0		否	有	一般(高校・大学生、指導者・保護者も可)	未定	理系複合棟207講義室(仮)		¥2,000		
20	一般	継続	理学部	中川 鉄水(理学部 助教)	水素のチカラ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～	30	¥0		否	無	市民一般・学生	未定	地域国際学習センター301講義室／サテライトキャンパスのうち1～3か所を予定		¥87,900		
21	子ども	継続	理学部	中川 鉄水(理学部 助教)	身近な化学 Part①	30	¥0		否	無	高校生以下	未定(6月予定)	琉球大学 地域国際学習センター301講義室		¥49,500		
22	子ども	継続	理学部	中川 鉄水(理学部 助教)	身近な化学 Part②	30	¥0		否	無	高校生以下	未定(2月予定)	琉球大学 地域国際学習センター301講義室		¥49,500		
23	一般	継続	理学部	中村 崇(理学部 准教授)	身近な海を楽しもう～サンゴ礁の生物塾～	10	¥2,670	(※小中高生は無料)	否	有	移動手段(自家用車)があり、終日参加が可能な方。未成年の場合は小学生以上とし原則保護者同伴での参加が可能な方		8月2日(日)	理学部528教室と野外(大渡海岸もしくは裏真栄田海岸を予定)	¥8,000		
24	一般	継続	医学部	大湾 知子(医学部 准教授)	生活文化のなかにおける沖縄伝統空手と健康～尿失禁予防～	100	¥0		否	有	一般市民	4月28日(火)	沖縄県立博物館(調整中)		¥30,660		
25	一般	新規	医学部	大湾 知子(医学部 准教授)	在宅・訪問における歯科診療と看護・リハビリ	70	¥0		否	有	一般市民	7月19日(日)	三原公民館		¥16,060		
26	一般	継続	医学部	大湾 知子(医学部 准教授)	コンチネンス月間・コンチネンスデイ！ 気持ちよく排泄(尿・便)ができるために	70	¥0		否	有	一般市民	10月31日(土)	放送大学沖縄学習センター5階大講義室		¥3,115		
27	一般	継続	医学部	照屋 典子(医学部 助教)	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際	50	¥0		否	無	一般市民	9月12日(土)	国立病院機構 沖縄病院 会議室		¥40,624		
28	一般	継続	医学部	尾尻 義彦(医学部 助教)	音楽ランニングで目指せ！NAHAMARASON完走！！	40	¥0		否	無	一般市民	7月11日(土)～12月12日(土)	琉球大学医学部保健学科講義室、琉球大学陸上競技場、大学構内及び周辺道路		¥104,000		
29	専門	継続	医学部	遠藤 由美子(医学部 准教授)	看護職の研究力アップ講座	30	¥2,670		否	無	臨床看護研究を実施予定または実施中の看護職	6月20日(土)～1月23日(土)	琉球大学医学部保健学科棟213室(2階)		¥41,970		
30	一般	継続	工学部	渡嘉敷 健(工学部 准教授)	音の体験教室	10	¥2,670		否	有	市民一般	8月8日(土)	工学部2号館2階残管室・無管室		¥20,000		
31	子ども	継続	工学部	金城 光永(工学部 准教授)	電子工作教室(ミニ四駆とLEDを題材に)	10	¥0	材料費 ¥1,000	否	有	小学5・6年生(保護者同伴のこと)	8月9日(日)	琉球大学工学部2号館226教室(電気基礎実験室)・217-2(ものラボ)		¥78,900		
32	子ども	継続	工学部	比嘉 広樹(工学部 教授)	ロボットをつくらう	10	¥0		否	有	中学生	8月16日(日)	琉球大学工学部3号館305コンピュータ実習室		¥104,400		
33	子ども	継続	工学部	仲宗根 宏貴(工学部技術部 技術職員)	夏休み工作教室 - ミラクル万華鏡	10	¥0	材料費 ¥374	否	有	小学校1～3年生(保護者同伴のこと)	8月1日(土)	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)		¥3,000		
34	子ども	継続	工学部	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)	夏休み工作教室 - 電気工事を体験しよう(小学生対象コース)	10	¥0	材料費 ¥1,100	否	有	小学校4～6年生(保護者同伴のこと)	8月1日(土)	琉球大学工学部2号館118室(電力実験室)		¥10,000		
35	子ども	継続	工学部	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)	夏休み工作教室 - 電気工事を体験しよう(中学生対象コース)	10	¥0	材料費 ¥1,400	否	有	中学生	8月1日(土)	琉球大学工学部2号館118室(電力実験室)		¥15,000		
36	子ども	継続	工学部	與那覇 敏明(工学部技術部 技術専門職員)	夏休み工作教室 - 合金を溶かして風鈴づくり	8	¥0	材料費 ¥1,000	否	有	小学5・6年生(保護者同伴のこと)	8月1日(土)	琉球大学工学部附属工作工場内		¥5,000		
37	子ども	継続	工学部	勢理客 勝則(工学部技術部 技術専門職員)	夏休み工作教室 - まわりつづけるコマ	8	¥0	材料費 ¥700	否	有	小学校4～6年生(保護者同伴のこと)	8月1日(土)	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)	工学部技術部が提供する夏休み工作教室全11テーマ共通の消耗品費:18,000円	¥23,000		
38	子ども	継続	工学部	大城 諒士(工学部技術部・技術職員)	夏休み工作教室 - ホバークラフト	10	¥0	材料費 ¥600	否	有	小学校1～3年生(保護者同伴のこと)	8月8日(土)	琉球大学工学部2号館226教室(電気基礎実験室)		¥10,000		

2020年度公開講座一覧

連番	種類	新規・継続	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料① ※料金規程によらない金額は赤字(無料は除く)	受講料② ※料金規程によらない金額は赤字(無料は除く)	サテライト連携	修了証 発行の有無	対象者	開催期間	会場	備考	必要経費 ※黄色いセルは10万円以上	査定額	査定概要
39	子ども	継続	工学部	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)	夏休み工作教室 ― 電子回路の製作	12	¥0	材料費 ¥1,000	否	有	小学校4～6年生(保護者同伴のこと)	8月8日(土)	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)		¥0		
40	子ども	継続	工学部	鈴木 竜盛(工学部技術部 技術職員)	夏休み工作教室 ― デスクトップPC組み立て・LANケーブル作製体験	8	¥0	¥0	否	有	中学生	8月8日(土)	琉球大学工学部2号館217・2号室(ものラボ)		¥4,200		
41	子ども	新規	工学部	山里 将史(工学部技術部 技術職員)	夏休み体験教室 ― エンジンの中をのぞいてみよう！	4	¥0	材料費 ¥500	否	有	中学生	8月8日(土)	工学部附属工作工場		¥20,500		
42	子ども	継続	工学部	酒脇 秀晃(工学部技術部 技術専門職員)	夏休み工作教室 ― 折り紙建築	8	¥0	材料費 ¥300	否	有	小学5・6年生(保護者同伴のこと)	8月8日(土)	琉球大学工学部2号館2階技術部室		¥0		
43	子ども	継続	工学部	宮城 紀良(工学部技術部 技術専門職員)	夏休み工作教室 ― 固形燃料で走る船	14	¥0	材料費 ¥500	否	有	小学5・6年生(保護者同伴のこと)	8月8日(土)	琉球大学工学部1号館1-122室(学生学習室)		¥5,000		
44	一般	継続	工学部	姜 東植(工学部 准教授)	シニアのための健康サッカー講座	30	¥0		否	無	40歳以上でサッカーにサ興味がある方	8月1日(土)～3月31日(火)	サッカーグラウンド		¥1,000		
45	専門	継続	工学部	渡嘉敷 健(工学部 准教授)	沖縄の公害問題で考える平和学習	20	¥3,180		可	有	市民一般	未定	地域国際学習センター301講義室		¥40,540		
46	専門	継続	工学部	渡嘉敷 健(工学部 准教授)	ホールマネージメント	10	¥3,180		否	有	ホール技術者及び一般市民	10月4日(日)～10月25日(日)	琉球大学工学部2号館2F残管室・無管室・小会議室		¥94,920		
47	専門	継続	工学部	比嘉 晃(工学部 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(筆記・上期)	40	¥3,700	(大学生は¥1,850)	否	無	市民一般並びに工学系大学生	4月18日(土)～5月23日(土)	琉球大学工学部2号館313室		¥10,000		
48	専門	継続	工学部	比嘉 晃(工学部 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(筆記・下期)	20	¥3,700	(大学生は¥1,850)	否	無	市民一般並びに工学系大学生	8月29日(土)～9月26日(土)	琉球大学工学部2号館313室		¥10,000		
49	専門	継続	工学部	比嘉 晃(工学部 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(技能・上期)	20	¥4,730	(大学生は¥2,365) 材料費 ¥5,000	否	無	市民一般並びに工学系大学生	6月6日(土)～7月18日(土)	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)		¥45,000		
50	専門	継続	工学部	比嘉 晃(工学部 教授)	第二種電気工事士試験対策講習(技能・下期)	20	¥4,730	(大学生は¥2,365) 材料費 ¥5,000	否	無	市民一般並びに工学系大学生	10月17日(土)～12月5日(土)	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)		¥45,000		
51	子ども	継続	農学部	森山 克子(農学部 准教授)	3歳児のための子どもシェフクラブ	6	¥3,180	材料費 ¥2,000	否	有	申込時3歳児	6月6日(土)、7月4日(土)	教育学部本館308教室		¥25,960		
52	専門	継続	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション・ボランティア養成講座	50	¥0		可	無	教育・福祉・医療従事者、障がい児(者)の家族、学生等	4月25日(土)	琉球大学大学会館3階特別会議室	宮古島サテライトキャンパス:13名 石垣島サテライトキャンパス:17名	¥1,000		
53	専門	継続	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)Ⅰ	(有料)5人 (無料)10人	¥5,240	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	否	有	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	5月11日(月)～7月6日(月)	琉球大学保健管理センター		¥1,000		
54	専門	継続	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)Ⅱ	(有料)5人 (無料)10人	¥4,730	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	否	有	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	10月5日(月)～12月14日(月)	琉球大学保健管理センター		¥1,000		
55	専門	継続	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 石垣島	(有料)10人 (無料)20人	¥3,700	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	否	無	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	7月11日(土)・7月12日(日)	NPO法人ちゅらハウス		¥70,000		
56	専門	継続	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 宮古島	(有料)12人 (無料)30人	¥3,700	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	否	無	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	7月27日(月)～29日(水)	沖縄県立宮古特別支援学校		¥74,000		
57	専門	継続	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法)出前講座 in 那覇特別支援学校	未定	¥0		否	無	特別支援学校教員、児童生徒	5月・9月・9月(調整中)	沖縄県立那覇特別支援学校		¥1,000		
58	専門	継続	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法)出前講座 in 泡瀬特別支援学校	未定	¥0		否	無	特別支援学校教員、児童生徒	8月・9月(調整中)	沖縄県立泡瀬特別支援学校		¥1,000		
59	専門	継続	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	自立活動に生かす心理リハビリテーション(動作法)出前講座 in 鏡が丘特別支援学校	未定	¥0		否	無	特別支援学校教員、児童生徒	10月・10月・1月(調整中)	沖縄県立鏡が丘特別支援学校		¥1,000		
60	専門	継続	保健管理センター	古川 卓(グローバル教育支援機構 保健管理部門教授)	心理リハビリテーション(動作法)キャンプ in 名護	(有料)5人 (無料)10人	¥3,700	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	否	有	(有料)教育・福祉・医療従事者 (無料)障がい者とその家族	10月・10月(調整中)	沖縄県立名護青少年の家(申請予定)		¥4,000		
61	子ども	新規	国際教育センター	名嶋義直(グローバル教育支援機構 国際教育センター、教授)	ドイツの学校で行われている「民主的シティズンシップ教育」	20～40人	¥0		否	無	中・高校生	調整中	学内／学外(依頼先の中学校・高校等)・希望により出前講義の調整が可能		¥5,000		
															¥2,433,537	¥0	

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 人文社会学部

① 講座名	心と身体にやさしい講座－出産・育児・教育－						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	市民一般	④ 募集人数	30人	⑤ 修了証の発行	要・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	文系講義棟111教室					⑧ サテライト配信	可・ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
	3,180円						
⑩ 材料費等の有無	有・ 無	⑪ 材料費等の金額		円	⑫ 材料費等の内訳		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	子どもたちの健やかな成長を、ささやかながらお手伝いしようという講座です。 出産、育児、教育に関する情報が手軽に、驚くほどたくさん手に入る時代です。しかし情報が多すぎて、あるいは矛盾する情報が多くて、情報に振り回されてしまうこともしばしば。そんな中、「ほんとうに大切なことは何だろう?」と考えたことはありませんか。そんな皆さんのお手伝いができたらいいなと考えています。 専門的な知識はまったく必要ありません。どなたにも学んでいただける、やさしい内容の講座です。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 寺石 悦章(人文社会学部人間社会学科教授)						
	高山 智美(助産院Sora院長)						
	金城 美和(大地こども園園長)						
	佐渡山 要(琉球のタネ代表取締役)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
5月10日(日)	13:30～14:50	赤ちゃんとお母さんに優しいお産				高山 智美	
	14:50～16:10	赤ちゃんが覚えていること、感じていること				寺石 悦章	
5月31日(日)	13:30～14:50	肯定的な言葉掛けと対応				金城 美和	
	14:50～16:10	子どもの学ぶ心を育てる環境づくり				佐渡山 要	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	講師謝金3人×1時間20分×6,230(時間単価・仮)＝24,921						
	合 計				24921		円
⑰ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 人文社会学部

① 講座名	秋の教養講座						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	市民一般	④ 募集人数	30人	⑤ 修了証の発行	要・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	文系講義棟111教室					⑧ サテライト配信	可・ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
	3,180円						
⑩ 材料費等の有無	有・ 無	⑪ 材料費等の金額		円 ⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	一つのことに集中するのはもちろんいいことです。でも、「いろいろなことを学びたい」「何でも学びたい」「学ぶことが大好き」……といった人もいます。この講座は、そんな方たちのための講座です。今回は沖縄に関連するテーマを4つ集めました。アートクラスを主催した体験から考える「芸術、または美術を通した子ども達の育ち」、首里城の知られざる謎に迫る「誰も知らない首里城の水の道」、アートイベントの仕掛け人が語る「“発見しました”からはじまるアート」、お墓を大切にする沖縄文化の謎を解く「お墓は大切！でもどうして？」話すこと、教えることが大好きな、明るく楽しい講師が集まりました。一緒に楽しく学んでいきましょう。専門的な知識はまったく必要ありません。どなたにも学んでいただける、やさしい内容の講座です。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 寺石 悦章(人文社会学部人間社会学科教授)						
	三島 友希(彫刻家)						
	上里 直司(歴史研究家)						
又吉 美輪(アーティスト)							
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
11月14日(土)	10:00～11:20	芸術、または美術を通した子どもたちの育ち				三島 友希	
	11:20～12:40	誰も知らない首里城の水の道				上里 直司	
11月28日(土)	10:00～11:20	“発見しました”からはじまるアート				又吉 美輪	
	11:20～12:40	お墓は大切！でもどうして？				寺石 悦章	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	講師謝金3人×1時間20分×6,230(時間単価・仮)＝24,921						
	合 計				24921		円
⑰ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 人文社会学部

① 講座名	シュタイナー教育入門						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	市民一般	④ 募集人数	40 人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	文系講義棟111教室					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
	3,180円						
⑩ 材料費等の有無	有・無	⑪ 材料費等の金額		円	⑫ 材料費等の内訳		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	シュタイナーの幼児教育はモンテッソーリ教育と共に「二大ブランド」とまで言われ、育児雑誌などで特集が組まれる他、各地の幼稚園・保育園などでも取り入れられています。またドイツ生まれのシュタイナー学校は世界中に広まり(すでに1000校を突破!）、現在も急速な勢いで増加しています。この講座ではシュタイナー教育はもちろんのこと、その根底にある理論や教育の周辺にまで視野を広げ、できるだけ総合的に理解することを目指します。 専門的な知識はまったく必要ありません。どなたにも学んでいただける、やさしい内容の講座です。映像などもご覧いただきながら、楽しく学んでいきます。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 寺石 悦章(人文社会学部人間社会学科教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月27日(木)	10:00～12:00	シュタイナーってどんな人？ シュタイナー教育ってどんなもの？					寺石 悦章
9月3日(木)	10:00～12:00	子どもの本性を見つめる(子どもの発達段階を考える)					寺石 悦章
9月10日(木)	10:00～12:00	シュタイナーの幼児教育(0歳～7歳の子どものために)					寺石 悦章
9月17日(木)	10:00～12:00	シュタイナー教育と学力(7歳以降の子どものために)					寺石 悦章
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳							
	合 計						円
⑰ 備 考	各回の内容や順序が変更になる可能性があります。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 国際地域創造学部

① 講座名	社会人類学Ⅰ(国際地域創造学部)						
② 講座の種類	一般・ 専門	③ 受講対象者	市民一般(高校生以上)	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	要 不要
⑥ 共催など	法文学部人間科学科地理歴史人類学専攻(社会人類学概論Ⅰ)						
⑦ 会場	琉球大学文講201教室					⑧ サテライト配信	可・ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)				
	4730 円	全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	有・ 無	⑪ 材料費等の金額		円	⑫ 材料費等の内訳		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	社会人類学は19世紀に西洋に始まった学問で、文化人類学ともいう。戦前は民族学というのが一般的であったが、文化人類学という名称で日本では戦後に日本中の大学に設置されており,世界中の文化や社会を射程にいった学問分野としてよく知られている。「民俗学」という世界中で消滅している資料学の創始者として知られる柳田国男は実は文化人類学をよく勉強した人であり、日本文化を対象とした文化人類学を興すつもりであったのが日本特有の時代の制約のために「民俗学」をリードすることになった。彼は、晩年にはそれを悔やみさえもしたし、「民俗学」はその使命を終えようとしている。本講義では柳田國男を文化人類学史に位置づけ直すことによってその人類学としての可能性を講義する。文化人類学の得意な、フィールドワーク、文化概念、民族概念を中心に、アジアや沖縄の事例を中心にしながら社会人類学・文化人類学の過去と将来を教科書からはわからない最新の研究成果から分かりやすく概観する。文化人類学のフィールドは国家ではなく、むしろ、地域社会、島嶼社会、ネット空間、科学技術、エスニック集団などあらゆる範囲に広がっている。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	稲村務(国際地域創造学部 地域文化科学プログラム教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
4月18日	16:20-17:50	人類学のパラダイム転換					稲村務
4月25日	16:20-17:50	文化人類学者柳田國男					稲村務
5月9日	16:20-17:50	文化概念の使い方					稲村務
5月16日	16:20-17:50	民族概念の使い方					稲村務
5月23日	16:20-17:50	グローバル化のなかの民俗と民間伝承―沖縄の文化の存続ために―					稲村務
⑯ 必要経費希望額の積算内訳							
	合 計						円
⑰ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 国際地域創造学部

① 講座名	宮古島におけるサイクルツーリズムの未来						
② 講座の種類	一般	③ 受講対象者	市民、ホテル関係者	④ 募集人数	50人	⑤ 修了証の発行	不要
⑥ 共催など	自転車活用推進研究会						
⑦ 会場	宮古島サテライトキャンパス					⑧ サテライト配信	可
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	エ) サテライトキャンパスを活用した講座			
	円						
⑩ 材料費等の有無	有・無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	現在の先進国の大規模都市を中心に個人移動手段としての自転車は再評価されている。脱化石燃料という環境保全意識の高まりとともに、大規模都市における高額な地価は自転車に乗る利便性をいよいよ高めている。大規模都市に居住する人々にとって自転車は非常に日常的な移動手段となっている。宮古島の平坦な地形は自転車移動にとって理想的なものと言える。観光業の振興は宮古島の課題とされるが、同時に観光資源の過剰使用(京都)は現在急速に問題化している。自転車は宮古島の伝統的景観を保全しながら、観光業を振興するものではなかろうか？						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	西圭介(国創講師 代表)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
いつでも可	いつでも可	⑬参照					西
⑯ 必要経費希望額の積算内訳							
	合 計						円
⑰ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 国際地域創造学部

① 講座名	やんばるで学ぶ世界自然遺産学習						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	学校教育関係者及び観光関連事業者	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ・ 不要
⑥ 共催など	【開催協力】琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター与那フィールド、(社)やんばるビジョン						
⑦ 会場	琉球大学「与那フィールド」及び国頭村内の森林エリア					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	3,180 円	全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	有 ・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	世界遺産は、自然科学や人文科学、そして社会科学など多角的な学問、学習分野を包含しているため、生涯にわたって学習できる機会を与えてくれる興味深いテーマです。しかしながら、現在では世界遺産登録後の活用ばかりに関心が注がれ、肝心な世界遺産への正しい理解や適正な活用のあり方を学ぶ機会が少ないのが現状です。世界遺産をいかに保護、保全し、未来へと継承していくのか、世界遺産地域への訪問客のみならず地域住民に対しても、あらゆる機会を活用した学びの場づくりが必要となります。本講座では、世界自然遺産候補に挙げられているやんばるで、学校教育や社会教育、観光の現場で実践できる世界自然遺産学習をテーマに、その意義や内容、教材開発について実践的に学ぶ、沖縄で初めての世界自然遺産学習の講座です。今後沖縄に必要となる世界遺産学習を担う教育者・実践者の育成につなげていきたいと思います。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	☐ 大島 順子 (国際地域創造学部准教授)						
	☐ 蔵満 逸司 (琉球大学教職大学院准教授)						
	☐ 久高 将和 (一般社団法人やんばるビジョン代表理事)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
6月28日(日)	9:30～16:00	現地集合(与那フィールド)～オリエンテーション～講義～現場実習(フィールドワーク)～教材やプログラムの開発～まとめ・ふりかえり～解散				大島・蔵満・久高	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	①講師謝金 久高将和氏に現場実習(フィールドワーク:1時間30分)で自然観察指導の担当をして頂きます。(規程によりご準備頂きますようお願いいたします)						
	合 計						円
⑰ 備 考	当日は現地集合・解散とします。万一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に参加して下さい(必須)。雨天決行ですが、天候の状況をみて、内容を変更する場合があります。※申込者には、別途詳細の案内をお送りします。						

平成31年度公開講座実施計画書

部局名 国際地域創造学部

① 講座名	やんばる山学校(仮)						
② 講座の種類	一般 ・専門	③ 受講対象者	市民一般(中学生以上)	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	要 ・不要
⑥ 共催など	【開催協力】琉球大学農学部付属亜熱帯フィールド科学教育研究センター与那フィールド(宿泊及び講義室提供)、国頭村森林組合(視察及び会場提供、話題提供)、(社)やんばるビジョン(講師担当、現地案内)						
⑦ 会場	琉球大学「与那フィールド」及び国頭村内の森林やダム周辺、海岸エリア					⑧ サテライト配信	可・ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由→ 又は	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	3,180 円	全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	沖縄島北部やんばるの山は、琉球弧の地史を背景に独自の進化をとげた多種多様な野生動植物が生息・生育し、国や沖縄県が目指す世界自然遺産登録(推薦地)の中核をなす地域です。今年度のやんばる山学校では、世界自然遺産へ登録するほどの価値を持つ森林(⇔自然遺産が、人の暮らしにどれほどの利益をもたらすものなのか?)と人の命の源である水資源のつながりを自らの目で確認することから始め、二つのテーマでやんばるを探究します。一つ目は、やんばるで行われている林業の現場視察を通して、森林の多面的機能を考え、人の暮らしの根源をもとに今後のやんばるの森のより有効な森林の利活用のあり方を考えます。二つ目は、県民の水がめとしてのダムはもとより水源涵養林の役割を果たすやんばるの森から、短い河川を通り、海岸線までの流域や河口までを辿り、河川環境下で起きている問題にせまります。 体験やワークショップなど能動的な学習方法を取り入れながら進める本講座では、主体的で深い対話的な学びを実感できます。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	☐ 大島 順子 (国際地域創造学部准教授)						
	☐ 高嶋 敦史 (農学部附属 亜熱帯フィールド科学教育研究センター与那フィールド助教)						
	☐ 久高 将和 (一般社団法人やんばるビジョン代表理事)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
調整中	10:00～20:30	現地集合～やんばるの森とダムから海岸線までの見学～やんばるの森を多面的に学ぶワークショップ～夜のやんばるの森の体験					大島・高嶋・久高
調整中	9:00～15:30	移動～森林組合工場見学～やんばるの森を支える体験プログラム～ふりかえり・まとめ～現地解散					大島・高嶋・久高
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	①学生アルバイト(1名):単価760円(1時間)×6時間×2日間＝9,120円、旅費 ※受付、与那フィールドでの調理(夕食・朝食等)および現場視察や体験プログラムの運営補助を行う。 ②講師謝金 1日目の現地視察(2時間)の案内及び夜の自然観察指導(1時間30分)の担当、2日目まとめのセッション(1時間)で総括に繋がるコメンテーターをして頂きます。(規程によりご準備頂きますようお願いします)						
	合 計						円
⑭ 備 考	中学生以上を対象。当日は現地集合・解散。万一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に参加して下さい(必須)。雨天決行ですが、天候の状況を見て、内容を変更する場合があります。※申込者には、別途詳細の案内をお送りします。						

平成31年度公開講座実施計画書

部局名 国際地域創造学部

① 講座名	(講座名)地域の資源を磨く観光の担い手づくり講座						
② 講座の種類	一般 ・専門	③ 受講対象者	市民一般※	④ 募集人数	30 人	⑤ 修了証の発行	要 ・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学					⑧ サテライト配信	可・ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由→ 又は	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)				
	3,180 円	全学免除(無料)を希 望 する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希 望する場合、理由を選 択)				
⑩ 講座の開設趣旨・ 内容等	観光を基幹産業とする沖縄において、インバウンド(訪日客)やイントラバウンド(国内からの客)の急増に対応した宿泊施設や交通機関に勤務する人材育成は急務となっています。従来、様々な場において実務的な対応力研修は実施されてきましたが、本講座は実務家研修というよりも、一般市民も獲得しておくべき観光基礎人材としての資質・能力に関わる内容を軸としています。広く観光現象や地域の価値を理解し、その対応力やマインドを育成するためのプログラムを体験的に受けて頂くものです。小中高等学校段階における観光の学びを推進するためのスキルも磨きます。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 大島 順子 (国際地域創造学部准教授)						
	寺本 潔 (玉川大学教育学部 教授)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
日程調整中	9:30～16:30	講義および演習					大島・寺本
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	・講師謝金:寺本先生には、講座全体6時間(昼食の1時間を除く)間のうち、5時間をご担当して頂きます。(規程により謝金をご準備頂きますようお願い申し上げます。)						
	合 計						円
⑭ 備 考	※対象とする主な受講者は、観光基礎人材育成のための教育に関心を持つ市民、または観光を題材とした学びや指導法を獲得したい教員とします。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名

① 講座名	クリスマス サイエンス レクチャー						
② 講座の種類	一般	③ 受講対象者	小学4～6年生および中学生	④ 募集人数	16 人	⑤ 修了証の発行	要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	教育学部棟 4階 422室					⑧ サテライト配信	否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	科学のクリスマスプレゼントを皆さんに贈ります。 大学生のお兄さんやお姉さんと一緒に、ワクワクするような実験や観察を体験して、今まで見過ごしていた、いろいろな不思議にせまります。きっと、もっと、科学が好きになりますよ!						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○濱田 栄作(琉球大学教育学部 准教授)						
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
12月19日	13:00～17:00	実験や観察を通して自然や科学を楽しみながら学びます。					濱田 栄作
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	実験用消耗品15,000円						
	合 計				15,000		円
⑰ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 教育学部

① 講座名	新聞記者体験 -エネルギーってなんだろう？-						
② 講座の種類	一般	③ 受講対象者	小学4～6年生とその保	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	教育学部 本館 101					⑧ サテライト配信	否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	無	⑪ 材料費等の金額	0 円	⑫ 材料費等の内訳	特になし		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	「エネルギーを大切に!」「省エネ!」など、エネルギーという言葉をよく耳にしますが、そもそもエネルギーとは何なのでしょう?この講座では、県内のエネルギー関連施設を自分で取材し、新聞作りにチャレンジします。身近なエネルギーについて、自分で集めたインタビュー記事や写真を使ってエネルギー新聞を作ってみよう!作成した新聞は、かべ新聞コンテスト(全国版)に応募できます(フォームを用意しています)。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 岡本牧子(教育学部技術教育専修 准教授)						
	濱田栄作(教育学部理科教育専修 准教授)						
	清水洋一(教育学部技術教育専修 教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
7月19日(土)	9:00～12:00	近隣のエネルギー施設へ取材体験(バス移動)				岡本牧子・清水洋一	
	13:00～16:00	資料・記事整理と新聞制作				濱田栄作・岡本牧子	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	学生アルバイト(3名):単価792(1時間) x 6時間 x 3名分 = ¥14,256 消耗品¥6,000程度:(A3用紙(ケント紙、生協にて販売)40枚: 2枚 x 20名分、写真用紙(L版120枚):コクヨKJ-D12L-120、プリンターインク(HP135))						
	合 計				20,256		円
⑰ 備 考	教室が変更になる場合があります。 万一の事故に備えて、各自で任意の保険に加入してください。 対象学年以外のご兄弟の同伴も可能ですが、バスの座席確保のため、お申し込みの際は参加される方すべて(保護者等も含む)のご記入をお願い致します。 取材では写真撮影をしますので、可能な方はデジタルカメラをお持ちください。プリントは講座中に行います。 取材はバスで移動しますので、お弁当(昼食)と飲み物を持参してください。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名

教育学研究科

① 講座名	老年学への招待ー老年学を日常生活へー						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	一般市民	④ 募集人数	25人	⑤ 修了証の発行	要 ・ ☒ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学教育学部棟103号室					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ア)福祉・健康に関する講座			
⑩ 材料費等の有無	有 ・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	超高齢社会が進展する中で、高齢者の現状と正しい老化のプロセスを理解することは、人生の質を高める上で重要である。 本講座では、老年学の研究成果を通して社会的、生物学的、及び心理学的な領域から正しい老化のプロセスを学ぶ機会を通して、加齢に伴う心身の変化や健康長寿の影響要因について理解を深めることを目的としている。 講義の主な内容は、「生涯発達」を共通のコンセプトに、講義とお互いの議論を通して、長寿で健康な人々のライフスタイル等について理解を深めることである。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	下地敏洋(琉球大学大学院教育学研究科教授)						
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
2020年6月13日	10:00－12:00	主観的幸福感の影響要因				琉大 下地	
2020年6月20日	10:00－12:00	生きがいと健康長寿について				琉大 下地	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳							
	合 計						円
⑰ 備 考	教室が変更になることがあります。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 教育学部

① 講座名	琉大生がサッカーと勉強を教えます！																																																																							
② 講座の種類	(一般) ・ 専門	③ 受講対象者	小学生	④ 募集人数	100 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ (可)																																																																	
⑥ 共催など																																																																								
⑦ 会場	琉球大学サッカー場(雨天時第一体育館)及び講義室(夏季は西原さらさらビーチの時もある)					⑧ サテライト配信	(可) ・ 否																																																																	
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ) 児童・生徒を対象とする講座																																																																				
⑩ 材料費等の有無	有 ・ (無)	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳																																																																				
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	本講座は、昨今課題である児童・生徒の学力や体力の低下の問題に立ち向かうものである。対象は小学生男女であり、低～高学年まで全てである。琉球大学サッカー部を中心とする学生が、サッカー教室を通じて体を動かす楽しさを伝えた後、宿題の援助や苦手科目の克服などを目指した学習教室を展開し、「文武両道」の精神を身につけさせる。本講座は学生の若いエネルギーを子ども達にぶつけ、体当たり指導することによって、子ども達の「やる気」を育てる一助となることも目指し、若い先生が少なくなった学校現場の補足的な役割も期待できる。さらに学生諸君は教えることを通じて自らを成長させる良い機会となる。また、講座終盤では親子による親睦試合を行い、カレーパーティーを開き親子の絆を図る。さらに、夏期はビーチサッカー(親子大会、スイカ割り含)も経験し、サッカーの楽しさを広げる。日曜の朝から活動することによって生活習慣を整え、月曜からの学校の学習活動にスムーズに入れるようにする。昨年120名の参加者がある人気講座であり、NHKの「あさイチ」でも取材され全国から注目されている。																																																																							
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名) ○琉球大学教育学部 准教授 笹澤 吉明 琉球大学工学部 准教授 姜 東植 琉球大学サッカー部学生																																																																							
⑮ プ ロ グ ラ ム																																																																								
実施日	時間	講座内容					担当講師																																																																	
調整中 5月開始予定 基本的に毎週日曜日	8:30～10:00	サッカー教室					笹澤(姜)学生																																																																	
	10:00～11:00	学習教室					笹澤(姜)学生																																																																	
	11:00～14:00	試合応援(自由参加)																																																																						
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th>メーカー</th> <th>品名</th> <th>品番</th> <th>値段</th> <th>個数</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 molten</td> <td>ベレーダ274</td> <td>PF274Y</td> <td>3360</td> <td>30</td> <td>100800</td> </tr> <tr> <td>2 molten</td> <td>ゲームベスト</td> <td>GB101-Y</td> <td>17850</td> <td>1</td> <td>17850</td> </tr> <tr> <td>3 molten</td> <td>ゲームベスト</td> <td>GB101-B</td> <td>17850</td> <td>1</td> <td>17850</td> </tr> <tr> <td>4 molten</td> <td>ゲームベストジュニア</td> <td>GBJ101-Y</td> <td>16800</td> <td>1</td> <td>16800</td> </tr> <tr> <td>5 molten</td> <td>ゲームベストジュニア</td> <td>GBJ102-B</td> <td>16800</td> <td>1</td> <td>16800</td> </tr> <tr> <td>6 molten</td> <td>片面ネームプリント</td> <td>(ベスト用)</td> <td>347</td> <td>40</td> <td>13880</td> </tr> <tr> <td>7 molten</td> <td>ネームプリント製版</td> <td>(ベスト用)</td> <td>12600</td> <td>1</td> <td>12600</td> </tr> <tr> <td>8 molten</td> <td>ボールカゴ</td> <td>BK500T</td> <td>54600</td> <td>1</td> <td>54600</td> </tr> <tr> <td>9 molten</td> <td>ボールカゴフタ</td> <td>BK50LD</td> <td>13650</td> <td>1</td> <td>13650</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>264830</td> </tr> </tbody> </table>					メーカー	品名	品番	値段	個数	計	1 molten	ベレーダ274	PF274Y	3360	30	100800	2 molten	ゲームベスト	GB101-Y	17850	1	17850	3 molten	ゲームベスト	GB101-B	17850	1	17850	4 molten	ゲームベストジュニア	GBJ101-Y	16800	1	16800	5 molten	ゲームベストジュニア	GBJ102-B	16800	1	16800	6 molten	片面ネームプリント	(ベスト用)	347	40	13880	7 molten	ネームプリント製版	(ベスト用)	12600	1	12600	8 molten	ボールカゴ	BK500T	54600	1	54600	9 molten	ボールカゴフタ	BK50LD	13650	1	13650	合計					264830	学生謝金 20回×2.5時間×760円×12名＝456000円 【実質】 (40回×2.5時間×760円×20名＝1520000円) 現在の備品は劣化が激しく、新たに購入する必要がある。
メーカー	品名	品番	値段	個数	計																																																																			
1 molten	ベレーダ274	PF274Y	3360	30	100800																																																																			
2 molten	ゲームベスト	GB101-Y	17850	1	17850																																																																			
3 molten	ゲームベスト	GB101-B	17850	1	17850																																																																			
4 molten	ゲームベストジュニア	GBJ101-Y	16800	1	16800																																																																			
5 molten	ゲームベストジュニア	GBJ102-B	16800	1	16800																																																																			
6 molten	片面ネームプリント	(ベスト用)	347	40	13880																																																																			
7 molten	ネームプリント製版	(ベスト用)	12600	1	12600																																																																			
8 molten	ボールカゴ	BK500T	54600	1	54600																																																																			
9 molten	ボールカゴフタ	BK50LD	13650	1	13650																																																																			
合計					264830																																																																			
合 計			720830			円																																																																		
⑰ 備 考	学生の遠征や大会等で都合がつかない場合は休講となることもあります。将来プロを目指す子から女子や初心者まで大歓迎です。子ども達の生活習慣を整えることを目的の一つとするため、運動、栄養、休養などのアドバイスを御父兄に行うこともあります。期間は5月から翌年3月までので30回開講しています。スクールお揃いの琉大ユニフォームTシャツを安価で販売しています。希望される方はスクールが始まってから担当学生に申し出てください。雨天時は、体育館にて行うことや、スケジュールの都合から土曜開校になることもあります。土曜日開校は8：00から始まりますのでご注意ください。変更のある場合は、琉大サッカー部のHPや事務からのメール連絡によって連絡します。なおこの取り組みは、平成14年3月にNHKの番組「あさイチ」にて報道され、全国に紹介され注目されています。																																																																							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 教育学部

① 講座名	オリジナル模様かりゆしワンピースづくりにトライ！						
② 講座の種類	☒ 一般・ ☐ 専門	③ 受講対象者	一般・学生	④ 募集人数	6 人	⑤ 修了証の発行	☒ 要・ ☐ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学教育学部棟3階333教室					⑧ サテライト配信	可・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)				
	3,700円	全学免除(無料)を希 望 する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希 望する場合、理由を選 択)				
⑩ 材料費等の有無	☒ 有・ ☐ 無	⑪ 材料費等の金額	2,000円	⑫ 材料費等の内訳	布代		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	紅型風型染でワンポイントの模様をほどこしたフリーサイズのかりゆしワンピースをつくります。布をパターンにしたがって裁断・しるしつ けした後、自分で柄を出入し、型紙をつくって色を摺り込み、隈取りして染めてから仕立てます。既製品を買って着ることにいいはない、 つくる楽しさを感じ、衣生活の原点を考えましょう。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつけ る)	氏名(所属・職名)						
	○松本 由香(教育学部・教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月8日	9:30～17:00	ワンピースのパターンづくり、布の裁断、しるしつけ、模様デザイン、型紙づくり、型染め					松本
8月9日	9:30～17:00	ミシン縫い、完成					松本
⑯ 必要経費希望額 の積算内訳	サンプル用綿麻布地:1体×2メートル×1000円＝2,000円 製図用紙・ミシン糸・ボビン:各7個＝2,000円 ST用紙・顔料・サンカラー・バインダー・スプレー糊＝8,000円						
	合 計			12,000			円
⑰ 備 考	裁縫道具(縫い針、まち針、糸切はさみ、しつけ糸、チャコ、両面チャコペーパー)、エプロンは、各自持参ください。染 色材料はこちらで用意します。布地は実費で購入していただきます。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 教育学部

① 講座名	染め織りから学び自然素材の小物づくりを体験しましょう						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	一般・学生	④ 募集人数	12 人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学教育学部棟3階333教室					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)				
	3,180円		理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	有 ・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額		⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	沖縄では、多様な染め織りが各地でおこなわれてきていますが、一般にはなかなか身近ではなく、知られていないのではないのでしょうか。また日々の暮らしのなかでは、ものを購入することが一般的で、つくる機会がなくなってきたのではないのでしょうか。本講座では、沖縄でかつてから盛んであった染め織りをとりあげ、染め織りから沖縄の歴史を考え、また各産地で作る人びとの営みの意味を考えます。さらに実際に、苧麻という沖縄に古くからありながら日常にふれる機会がなくなってしまった繊維素材をつかって、かぎ針で編んで小物をつくる体験をします。そうして身近なものをつくる楽しさを体験します。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	○松本 由香(教育学部・教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
7月18日	10:00～16:00	午前、参考書から沖縄の染め織りと暮らしについて考えます。午後、苧麻から糸をつくります。				松本	
7月19日	10:00～16:00	苧麻からつくった糸をつかって、かぎ針による手編みでポーチ(小物入れ)をつくります。				松本	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	苧麻原糸(宮古島市伝統工芸品センターで購入): サンプル1を含め、13人分: 原糸1人2玉=13×2=26玉 1玉1000円×26玉=26,000円						
	合 計			26,000円		円	
⑰ 備 考	参考書(松本由香・佐野敏行 2020年 「沖縄の染め織りと人びとの暮らし—家族と地域文化、経済とツーリズムから考える—」 琉球新報社) を興味ある方はご用意ください。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 教育学研究科

① 講座名	昆虫の行動をコントロールしてみよう ―昆虫行動学入門―						
② 講座の種類	☒ 一般 ☐ 専門	③ 受講対象者	中・高校生	④ 募集人数	16人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ☐ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	教育学部本館 422教室					⑧ サテライト配信	可 ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	有 ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	趣旨：昆虫の不思議な行動を通して、自然科学への興味・関心を高めてもらう事を目的に実施します。 内容：身近な昆虫の不思議な性質を利用した実験を通して、昆虫行動の興味深い仕組みについて学びます。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	☐ 杉尾幸司(大学院教育学研究科 教授) ☒ 宮國泰史(グローバル教育支援機構 特命助教)						
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
4月18日(土)	10:00～12:00	昆虫行動に関する講義と実験				杉尾幸司 宮國泰史	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	工作用文具等(ハサミ 400円×17、カッターナイフ 300円×17、カッターマット 800円×5、工作用紙 1000円):16,900円						
	合 計			16900		円	
⑰ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名

① 講座名	児童・生徒・指導者のためのハンドボール教室						
② 講座の種類	☒ 一般・ ☐ 専門	③ 受講対象者	ハンドボール愛好者	④ 募集人数	200 人	⑤ 修了証の発行	要・ ☒ 不要
⑥ 共催など	琉球大学男女ハンドボール部・教育学部保健体育専修・沖縄県ハンドボール協会						
⑦ 会場	琉球大学第一体育館					⑧ サテライト配信	可・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)	ウ) 児童・生徒を対象とする講座			
	無料		理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	有・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	沖縄県内の小学生・中学生・高校生およびその指導者に対し、ハンドボール競技の技術・戦術・指導法を伝えることを基本とします。 対象のレベルに応じた技術・戦術・指導法について、よりの確に対象者が身につけることを目的とします。 原則として、受講生を限定せず、学校の部活動単位での集合型公開講座を主たる形態とします。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	三輪一義(琉球大学教育学部生涯健康教育コース 教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
4月11日(土)	土曜日:						
～	13:00～17:00	ハンドボールの技術・戦術・指導法とその理論					
3月7日(日)	日曜日:						
	10:00～16:00						
<別紙参照>	(休憩を除く)						
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	ハンドボール3号球 2個 (モルテン 品名:ヌエバX5000 品番:H3X5001-BW 単価:¥8,400) ハンドボール2号球 2個 (モルテン 品名:ヌエバX5000 品番:H2X5001-BW 単価:¥8,200) (主に児童生徒を対象とした講座のため、ガイダンスに従い受講料を無料にしておりますので、 必要経費の要求は気が引けますが、希望額を提示します。 配分可能な範囲で購入して頂けると助かります。)						
	合 計			33,200			円
⑰ 備 考	集合型公開講座のスタイルは実質的に6年前より実施しており、 令和年度実績において、参加者は延べ人数で、児童生徒856人、指導者59人(令和元年12月末時点) に及びます。 実技指導の補助員に、琉球大学男女ハンドボール部員および教育学部保健体育科有志学生を充てて、これまで5年間の指導 経験を踏まえて、指導内容を充実させる予定です。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 理学部

① 講座名	～物理の魅力を教えます2020～						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	小中高校生・一般	④ 募集人数	50人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など	なし						
⑦ 会場	琉球大学理系複合棟					⑧ サテライト配信	可・否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ) 児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	有・無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	琉球大学理学部物理系では毎年夏に、中高生以上を中心とした理科好きの一般の皆様に、様々な物理の魅力を伝える講座を開いています。講座の前半は最新の物理関係のトピックスや琉球大学で研究されている最先端の物理についての講演を行います。後半は物理の魅力の詰まった各種実験実演など自由に参加できるプログラムになっています(参加申込不要、途中入退場自由です)。生き生きとした最先端物理学の世界に触れる機会を提供したいと思いますので、物理が好きな人も得意でない人も、是非不思議体験をしにきてください。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	前野昌弘(理学部物質地球科学科准教授)○			瓜生康史(理学部物質地球科学科教授)			
	眞榮平孝裕(理学部物質地球科学科教授)			與儀護(理学部物質地球科学科准教授)			
	辺土正人(理学部物質地球科学科教授)			田原周太(理学部物質地球科学科准教授)			
	阿曾尚文(理学部物質地球科学科教授)			小林理気(理学部物質地球科学科助教)			
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
8月9日	13:00～17:00	講演＆実験体験				全員	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	ポスター印刷(300枚:8千円) パンフレット印刷(3000枚:1万円) 以上の発送費(県内の中学・高校)2万円 受講者に体験してもらう実験の消耗品(10万円) 学生アルバイト20名(単価760円×3時間×20=45600円)						
	合 計			183600		円	
⑰ 備 考	講座内容などは、ホームページ “ http://www.phys.u-ryukyu.ac.jp/koza2020/ ” にて情報発信します。 事前申込不要で当日参加可能です。途中入場・途中退場も可能です。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 理学部

① 講座名	琉大生による理科実験教室						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	小中高校生・一般	④ 募集人数	100人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など	なし						
⑦ 会場	琉球大学理系複合棟					⑧ サテライト配信	可・否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	有・無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	琉球大学理学部物質地球科学科の教員を志望している大学4年生が中心となって、小中高校生向けの実験教室を開催します。物質地球科学科は物理と地学を勉強する学科です。この教室では物理・地学に関する楽しい実験などを見たり体験したりできるほか、工作なども楽しめるようになっています。 小中高校生向けですが、理科に興味の全ての方が参加可能です。 理科の不思議を見て聞いて、触りにそして作りに来てください。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名) 前野昌弘(理学部物質地球科学科准教授)○						
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
12月26日	13:00～17:00	実験体験				前野昌弘	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	ポスター印刷(300枚8000円)。 パンフレット印刷(3000部8000円)。 県内小学校に発送(2万円)その他はイベントなどで配布。 受講者に体験してもらう実験・工作の消耗品(2万円)						
	合 計			56000		円	
⑰ 備 考	講座内容などは、ホームページ “http://www.phys.u-ryukyu.ac.jp/jikken2020/” にて情報発信します。 事前申込不要で当日参加可能です。途中入場・途中退場も可能です。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 理学部

① 講座名	理系女子・理系男子の世界—進路選択とキャリア形成、生活と文化—						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	一般(高校・大学生、指導者・保護者も可)	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学理系複合棟207講義室(仮)					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	オ)その他(備考に理由を記述)			
⑩ 材料費等の有無	有 ・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	自然科学分野の研究や教育を職業とする理系女子・理系男子の実際の姿については、世間一般には案外、あまり知られていないのかもしれませんが。本講座においては、理系の進路選択やキャリア形成の道筋に関する内容と共に、その職業生活、日常、文化などについてもお話しします。また、若い人たちに対する理系進路選択支援やキャリア形成支援の有り様、特に女子学生・女子生徒に対する支援の現状、更には女性研究者や技術者、教育者の様々な状況も含めて紹介します。自然科学分野の実態を知ること、興味の幅を広げ、人生の選択肢や喜びを増やしてもらえることを期待しており、受講者の皆さんと情報や意見の交換も行いながら話を進めていきたいと思いますので、進路選択を控えた学生や生徒さん、および、その指導者や保護者の方々も歓迎します。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 漢那 洋子(理学部 海洋自然科学科 化学系 准教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
検討中	13:30 - 16:30	自然科学の世界および理系の進路選択とキャリア形成およびその生活や文化に関連した講義					漢那 洋子
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	消耗品(印刷用紙代等):2,000円						
	合 計			2,000			円
⑰ 備 考	高校生も対象としていることと、配布資料の用紙代以上の特別な材料費等が必要な講座ではないので無料としたいと考えています。 実施日については、検討中です(2021年2月下旬~3月上旬)。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 理学部

① 講座名	水素のチカラ ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～□						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	市民一般・学生	④ 募集人数	30 人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学内およびサテライトキャンパスのうち1～3か所を予定					⑧ サテライト配信	可・否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	有・無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	水素エネルギー社会到来が間近に迫っているが、沖縄では未だ水素ステーションや水素燃料電池自動車などの導入例がほとんどなく、沖縄県民にはなじみの薄いものとなっている。しかしながら水素エネルギーは地産地消可能なエネルギー資源であるため、沖縄のような島嶼地域こそ国内に先駆けて水素社会になるべきだと考えている。本講座は、こういった状況を踏まえ、沖縄県民に水素を認知し、正しい知識を持ってもらい、水素エネルギー社会へスムーズに移行するための草の根活動として、子供から大人まで幅広い年齢層に「水素教育」なるものを提供することを趣旨とする。具体的な内容としては、来るべき水素社会の形、基本的な水素の性質、水素製造、貯蔵、利用の講義を行いつつ、関連した実験(電気分解による水素発生、水素貯蔵材料アンモニアボランを用いた水素放出反応、水素燃料電池ラジコン)を体験してもらう。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名) ○ 中川 鉄水(理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)						
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
未定	2時間	水素のチカラ@北部または南部地域(未定)				中川 鉄水	
未定	2時間	水素のチカラ@離島(未定)				中川 鉄水	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	学生アルバイト:790円×10時間(準備・片付け含む)×1人×1回=7,900円 離島への旅費(交通費・宿泊費のみ):30,000円×1人×1回=30,000円 実験器具:アンモニアボラン水素発生装置制作費1,000円×5台=5,000円 アンモニアボラン(1回1g×2回=3 g):15,000円 燃料電池自動車修理・改造費(2台):30,000円						
	合 計				87,900		円
⑰ 備 考	本講座は一般だけでなく高校生以下も対象としている。実際、参加者の内訳も高校生以下が多いため、無料としたい。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 理学部

① 講座名	身近な化学 Part①						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	高校生以下	④ 募集人数	30 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ ☒ 不要
⑥ 共催など	一般社団法人教育振興会						
⑦ 会場	生涯学習教育センター301講義室					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	有 ・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	現代では多くの科学技術を用いた製品が日常にあふれている。しかしながら現代はその構造が複雑化・高度化しているため、学校で習ったことと関連性を見出すことができない。さらに近年、初等教育・中等教育において実験授業が減少しつつあるため、子供たちから一層理科の有益性と興味を感じづらくなりつつある。本授業は、化学を中心として、身の回りにある自然・製品のしくみの中にどのように化学が使われているかを、年2回テーマを変えて高校生以下の学生に向けて、現役大学生が中心となって実験講座を行う。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 中川 鉄水 (理学部 海洋自然科学科 化学系 助教)						
	福本 晃造 (教育学部 理科教育専修 准教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
未定(6月予定)	13:00 - 15:00	内容未定				中川・福本	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	学生アルバイト:790円×10時間(準備・片付け含む)×5人=39,500円 実験器具10,000円						
	合 計			49,500		円	
⑰ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 理学部

① 講座名	身近な化学 Part②						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	高校生以下	④ 募集人数	30 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ ☒ 不要
⑥ 共催など	一般社団法人教育振興会						
⑦ 会場	生涯学習教育センター301講義室					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	有 ・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	現代では多くの科学技術を用いた製品が日常にあふれている。しかしながら現代はその構造が複雑化・高度化しているため、学校で習ったことと関連性を見出すことができない。さらに近年、初等教育・中等教育において実験授業が減少しつつあるため、子供たちから一層理科の有益性と興味を感じづらくなりつつある。本授業は、化学を中心として、身の回りにある自然・製品のしくみの中にどのように化学が使われているかを、年2回テーマを変えて高校生以下の学生に向けて、現役大学生が中心となって実験講座を行う。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名) ○ 中川 鉄水 (理学部 海洋自然科学科 化学系 助教) 福本 晃造 (教育学部 理科教育専修 准教授)						
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
未定(2月予定)	13:00 - 15:00	内容未定				中川・福本	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	学生アルバイト:790円×10時間(準備・片付け含む)×5人=39,500円 実験器具10,000円						
	合 計			49,500		円	
⑰ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名: 理学部

① 講座名	身近な海を楽しもう～サンゴ礁の生物塾						
② 講座の種類	一般	③ 受講対象者	移動手段(自家用車)があり、終日参加が可能な方、未成年者の場合	④ 募集人数	10 人	⑤ 修了証の発行	要
⑥ 共催など	無し						
⑦ 会場	理学部 528教室 と 野外(大渡海岸もしくは裏真栄田海岸を予定)					⑧ サテライト配信	否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	無し	⑪ 材料費等の金額		⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	理学部生物系教員によるサンゴ礁の海の生物やサンゴ礁環境にまつわる座学形式の講義と実地での磯歩き観察を組み合わせた講座を通して、沖縄の身近なサンゴ礁について、より深く、より楽しく学ぶ機会を提供します。午前中は主に教室でのガイダンスと講義をおこない、観察現場に移動後、潮の引いたサンゴ礁のイノー(浅瀬)にて、実地での観察形式の講義をおこないます。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○中村 崇 理学部 海洋自然科学科 准教授						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
R2年8月2日(日)	10:00～15:00	午前中:サンゴ礁についての座学					上記のとおり
		移動(昼食含む)後に野外観察(12:36干潮 27cm)、現地解散					上記のとおり
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	ラミネートシート(配布資料加工用:2,000円)、観察用消耗品(ピンセット、ルーペ、虫籠、軍手など:6,000円)						
	合 計			8,000		円	
⑰ 備 考	各自、任意の傷害保険に加入をしておくこと。当日は濡れても大丈夫な服装と靴をご準備ください。万が一悪天候の場合には、午後の活動を屋内(教室での実験や観察)に切り替えて実施する場合があります。野外観察後は現地で解散となります。						

令和2年度公開講座実施計画書

部局名 医学部

① 講座名	生活文化のなかにおける沖縄伝統空手と健康 ～尿失禁予防～						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	一般市民	④ 募集人数	100人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ・ 不要
⑥ 共催など	NPO法人日本コンチネンス協会沖縄県支部、一般社団法人 沖縄伝統空手国指定無形文化財・ユネスコ登録推進協会						
⑦ 会場	沖縄県立博物館					⑧ サテライト配信	可 ・ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由→ 又は	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)				
	0円	全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希 望する場合、理由を選 択)				
⑩ 講座の開設趣旨・ 内容等	沖縄伝統空手国指定無形文化財にむけて、空手の発祥の地である沖縄県から空手の重要性を発信して地域社会へ貢献したいと願う空手家とコンチネンスリーダー看護師との連携による健康技をご紹介します。今回は、空手型の理論と上地流・剛柔流・少林流・小林流の空手家から型の実践について学べます。空手の基本技である型、その重要性を「なるほど!」と実感できます。さらに泌尿器科分野で健康を守るコンチネンスリーダー看護師により泌尿器科受診への勧め、尿失禁と頻尿の対策、排尿自立にむけた対応と骨盤底筋訓練の実演について学べます。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	佐喜眞 要(医療法人おもと会 大浜第二病院 作業療法士・コンチネンスリーダー)						
	當山 悦子(琉球大学医学部附属病院 副看護師長・コンチネンスリーダー)						
	(沖縄小林流空手道究道館連合会)						
	(沖縄空手道協会上地流)						
	(国際沖縄少林流聖武館空手道協会)						
	(一般社団法人 国際沖縄剛柔流空手道連盟総本部 東恩納空手道場 指導員)						
	(一般社団法人 国際沖縄剛柔流空手道連盟総本部 東恩納空手道場 指導員)						
	砂川 惠伸(元琉球大学学長・国際明武館剛柔流空手道連盟総本部顧問)						
	牛窪 潔(琉球大学理事・副学長 地域社会連携担当)						
	○大湾 知子(琉球大学医学部保健学科成人・がん看護学 准教授・コンチネンスリーダー)						
	⑫ プ ロ グ ラ ム						
実施日	時間	講座内容				担当講師	
	13:55-14:00	一般社団法人 沖縄伝統空手国指定無形文化財・ユネスコ登録推進協会について				1名	
2019年4月28日(日)	14:00-14:15	排尿のことで悩んでいませんか?				佐喜眞 要	
	14:15-14:30	排尿自立				當山 悦子	
	14:30-14:55	小林流による伝統空手の型				1名	
	14:55-15:20	健康に良い! 上地流空手道の鍛錬型三戦				1名	
	15:20-15:45	心身に役立つ沖縄伝統空手剛柔流の基本型三戦				2名指導員	
	15:55-16:20	少林流による伝統空手の型				1名	
	16:20-16:40	空手と私				砂川 惠伸	
	16:20-16:40	空手の型と実践哲学(仮題)				牛窪 潔	
	16:40-17:00	尿失禁と頻尿に効果のある骨盤底筋訓練やってみましょう!				大湾 知子	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	沖縄県立博物館予定です、講師と日程調整中						
	合 計					円	
⑭ 備 考							

令和2年度公開講座実施計画書

部局名 医学部

① 講座名	在宅・訪問における歯科診療と看護・リハビリ						
② 講座の種類	一般 ・専門	③ 受講対象者	一般市民	④ 募集人数	70人	⑤ 修了証の発行	要 ・不要
⑥ 共催など	NPO法人日本コンチネンス協会沖縄県支部						
⑦ 会場	三原公民館					⑧ サテライト配信	可・否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由→ 又は	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)				
	0円	全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
⑩ 講座の開設趣旨・ 内容等	在宅・訪問における歯科診療と看護、さらにリハビリと泌尿器科で健康を守るコンチネンスリーダー看護師により泌尿器科受診への勧め、排尿自立にむけた対応と骨盤底筋訓練の理論と実演をとおして尿失禁と頻尿の対策について学べます。特別講義として地震のあった熊本県における在宅歯科医療と訪問歯科診療の分野で活躍している医師の講座から多くのことが学べます。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	島袋 浩明(那覇市三原区自治会 会長)						
	大湾 朝夫(那覇市三原共心会 会長)						
	新垣 薫(社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院 看護師・排尿機能検査士・リンパ浮腫複合的治療技術者・コンチネンスリーダー)						
	○大湾 知子(琉球大学医学部保健学科成人・がん看護学 准教授・コンチネンスリーダー)						
	山下 明美(医療法人 和の会 与那原中央病院 看護師長・コンチネンスリーダー)						
	大湾 朝成(セントラル病院 理学療法士)						
	我那覇 生純(阿蘇さずな歯科医院 院長)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
2019年7月19日(日)	14:00-14:05	那覇市三原区自治会 会長 挨拶				島袋 浩明	
	14:05-14:10	那覇市三原共心会 会長 挨拶				大湾 朝夫	
	14:10-14:30	排尿困難に対応する自己導尿				新垣 薫	
	14:30-14:55	尿失禁と頻尿に効果のある骨盤底筋訓練やってみましょう！				大湾 知子	
	14:55-15:20	排尿のことで悩んでいませんか？ 泌尿器科へ受診しましょう！				山下 明美	
	14:55-15:20	在宅における訪問看護リハビリ				大湾 朝成	
	15:20-15:45	阿蘇における在宅歯科医療・訪問歯科診療について				我那覇 生純	
⑬ 必要経費希望額の 積算内訳	三原区公民館1階会場使用料:2時間1,000円×6時間＝3,000円 クーラー使用料1時間100円×6時間＝600円 講師謝金:						
	合 計						円
⑭ 備 考	駐車場が少ないので公共交通機関（バス・モノレール・タクシー）をご利用ください。 〒902-0063 沖縄県那覇市三原2丁目17-18 098-832-1402 最寄り駅：安里駅、最寄りバス停：三原十字路 約149m 徒歩で約2分、 最寄り駐車場：リパーク那覇市松川2丁目 約287m 徒歩で約3分、タイムズ三原1丁目 約322m 徒歩で約4分						

令和2年度公開講座実施計画書

部局名 医学部

① 講座名	コンチネンス月間・コンチネンスデイ！ 気持ちよく排泄（尿・便）ができるために						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	一般市民	④ 募集人数	70人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ・ 不要
⑥ 共催など	NPO法人日本コンチネンス協会沖縄県支部						
⑦ 会場	放送大学沖縄学習センター5階 大講義室					⑧ サテライト配信	可 ・ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入）	単価表によらない場合 （増額、減額）の理由→ 又は	理由 （単価表によらない場合 のみ記入）				
	0円	全学免除（無料）を希望 する場合の理由→	理由 （全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）				
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	すべての人が気持ちの良い排泄ができるように、排泄障がいの予防や治療、支援、開発、教育などを行い予防に努めています。コンチネンスメイト・コンチネンスリーダー・コンチネンスアドバイザーである専門の看護師から食と排泄の重要性について学べます。コンチネンスとは、排尿や排便が正常の状態や、障がいがあっても排泄がコントロールできている状態を表す言葉です。この講座を受けることにより、尿失禁や便失禁がなく気持ちよく排泄ができている状態の正しい知識の習得、専門病院への受診を選択するチャンスに恵まれます。さらに排尿自立にむけた対応と骨盤底筋訓練の理論と実演を体感することによってコンチネンスケアへの理解が深められます。						
⑪ 担当講師 （代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）						
	石川 侑人（琉球大学医学部附属病院 看護師・コンチネンスリーダー）						
	城間 麻美（沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院・コンチネンスリーダー）						
	吉村 美由紀（医療法人真徳会 沖縄メディカル病院）						
	○大湾 知子（琉球大学医学部保健学科成人・がん看護学 准教授・コンチネンスリーダー）						
	西村 かおる（日本コンチネンス協会会長・コンチネンスアドバイザー）						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
2020年10月31日（土）	14:00-14:15	急性期病棟における排尿自立					石川 侑人
	14:15-14:30	生活リハビリに役立つ排尿自立					城間 麻美
	14:30-14:45	回復期病棟における排尿ケアの取り組み					吉村 美由紀
	14:45-15:00	尿失禁と頻尿に効果のある骨盤底筋訓練					大湾 知子
	15:00-15:30	腸内環境のしくみ～食と排泄～					西村 かおる
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	会場費は日本コンチネンス協会沖縄県支部が捻出します。西村かおる講師のみ謝金お願いいたします。						
	合 計						円
⑭ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 保健学科 成人・がん看護学

① 講座名	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	一般市民	④ 募集人数	50 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ ☒ 不要
⑥ 共催など	国立病院機構 沖縄病院						
⑦ 会場	国立病院機構 沖縄病院 会議室					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)	ア)福祉・健康に関する講座			
	無料	全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	有 ・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	沖縄県におけるがんによる死亡数は毎年約2700人で、全死亡の1/3を占めています。 がんと診断され、治療やケアを受けるプロセスにおいて、患者および家族が抱える身体的・心理社会的苦痛について理解し、患者本人をサポートする上でご家族や重要他者の果たす役割は大きいと考えます。 このような視点より、本公開講座では、がん患者のQOL(Quality of Life: 生命の質／生活の質)向上に寄与する緩和ケアについて、広くご理解いただくことを目的にプログラムを構成しました。一般市民の皆様とともにがん患者の緩和ケアについての知識を共有できる場として、本公開講座を提供したいと思います。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○照屋 典子 (琉球大学医学部成人・がん看護学・教授)						
	久志 一郎 (国立病院機構 沖縄病院 医師)						
	築田 晃直 (国立病院機構 沖縄病院 緩和薬物療法認定薬剤師)						
	奥間かおり (国立病院機構 沖縄病院 緩和ケア認定看護師)						
	赤坂さつき (国立病院機構 沖縄病院 管理栄養士)						
	大湾 勤子 (国立病院機構 沖縄病院 医師)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
	13:00～13:30(30分)	緩和ケア概論					照屋 典子
	13:30～14:20(50分)	がんの痛みを癒す疼痛コントロールの実際					久志 一郎
9月12日(土)	14:30～15:00(30分)	がんの痛みを和らげる薬剤について					築田 晃直
	15:00～15:20(20分)	沖縄病院緩和ケア病棟／緩和ケアチーム活動の紹介					奥間かおり
	15:20～15:40(20分)	がん治療中の食事と栄養について					赤坂 さつき
	15:40～16:00(20分)	総合討論／質疑応答					大湾・照屋
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	・講師謝金: @6,230円×50分×1名=5,191円(久志) ・講師謝金: @6,230円×30分×1名=3,115円(築田) ・講師謝金: @6,230円×20分×3名=6,230円(奥間・赤坂・大湾) ・学生雇上げ(3名)・・・単価 762円×8時間(冊子資料作成3時間+当日運営5時間)×3名(小計 18288円) ・A4コピー用紙(1箱5㍻入り)単価1800円×1箱・・・(小計 1800円) ・製本ファイル(5冊入り／袋 単価500円)×10袋・・・(小計5000円) ・フラットファイル(A4タテ単価50円)×20冊・・・(小計1000円)						
	合 計			40,624			円
⑰ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 医学部

① 講座名	楽楽ランニングで目指せ！ NAHAマラソン完走！！						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	一般市民	④ 募集人数	40 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ ☒ 不要
⑥ 共催など	なし						
⑦ 会場	琉球大学医学部保健学科講義室、琉球大学陸上競技場、大学構内及び周辺道路					⑧ サテライト配信	可 ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)	ア)福祉・健康に関する講座			
	無料 円	全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	有 ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	0 円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	「NAHAマラソン」は、3万人がエントリーする国内を代表する一大スポーツイベントとして、今年36回の大会を迎える。また、おきなわマラソンも、嘉手納基地内を走る人気の大会です。しかしながら、アップダウンのあるコースで、完走率は70%ほどで、多くのランナーが悔しい思いをしています。 本講座は、ランニング科学に基づいた適切な理論と実技指導により、NAHAマラソンやおきなわマラソンの完全走破を目指すあなたをサポートします。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○尾尻義彦(医学部保健学科・助教、博士(医学)、ランニング学会認定指導者)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容		集合場所		担当講師	
7月11日(土)	09:00～12:00	講義:楽楽ランニングとマラソントレーニング、体脂肪検査 実技:楽楽ランニング		琉球大学医学部保健学科講義室		尾尻義彦	
8月1日(土)	09:00～12:00	講義:NAHAマラソンに向けてのトレーニング 実技:楽楽ランニング		琉球大学医学部保健学科講義室		尾尻義彦	
8月22日(土)	09:00～12:00	講義:乳酸を活かしたランニング 実技:楽楽ランニング		琉球大学医学部保健学科講義室		尾尻義彦	
9月12日(土)	09:00～12:00	講義:ランニングと脂肪代謝、体脂肪検査 実技:ガチ・ユル走		琉球大学医学部保健学科講義室		尾尻義彦	
10月10日(土)	09:00～12:00	実技:峠走で心肺機能と脚力アップ※ (会場:本部町八重岳)		本部町八重岳桜の森公園駐車場		尾尻義彦	
11月7日(土)	09:00～14:00	講義:NAHAマラソンの走り方 実技:12分間走		琉球大学医学部保健学科講義室		尾尻義彦	
11月14日(土)	09:00～14:00	実技:チャレンジ3時間走(沖縄県総合運動公園、泡瀬)※		総合運動公園キャンプ場		尾尻義彦	
12月12日(土)	09:00～12:00	講義:NAHAマラソンを走り終えて、体脂肪検査 実技:楽楽ランニング		琉球大学医学部保健学科講義室		尾尻義彦	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	バス移動(大学と本部町八重岳往復):8,000円 ※学生アルバイト(ランニング実技サポート、のべ8名):24,000円						
	合 計			104,000			円
⑰ 備 考	実施日と時間、順序に関しては変更になる場合があります。 開催会場については、決まりしだいお知らせします。 受講者は個人でスポーツ安全保険等に参加することが望ましい。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 医学部保健学科

① 講座名	看護職の研究力アップ講座						
② 講座の種類	一般 ・ ☒ 専門	③ 受講対象者	臨床看護研究を実施予定または実施中の看護職	④ 募集人数	30 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ ☒ 不要
⑥ 共催など	なし						
⑦ 会場	琉球大学医学部保健学科棟2階 213室					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 不可
⑨ 受講料	①. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	2,670円	全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	有 ・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	現在、看護研究は多くの医療機関で行われています。でも、実際に研究をするとすると、研究テーマはこれでいいのだろうか？結果をどうまとめて発表したたらいいかわからない・・・、研究の相談にのってくれる人がいたら・・・。いろいろな悩みがあると思います。 本講座では、看護研究に役立つ基礎知識が学べる講座です。 日頃の業務で感じている看護の疑問や課題を解決するために、研究をしてみませんか？						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○遠藤由美子(医学部保健学科准教授) 眞榮城千夏子(医学部保健学科講師)						
	高原美鈴(医学部保健学科助教) 平安名由美子(医学部保健学科助教)						
	玉城陽子(医学部保健学科助教) 豊里竹彦(医学部保健学科教授)						
	與古田孝夫(医学部保健学科教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
6月20日(土)	14:00～16:00	①現場の課題をどう研究につなげる？ (看護研究概論、研究計画書作成についての講義、グループワーク、個別相談)				全講師	
9月05日(土)	14:00～16:00	②現場の課題をどう研究につなげる？ (看護研究概論、研究計画書作成についての講義、グループワーク、個別相談)				全講師	
11月14日(土)	14:00～16:00	③効果的な発表のために(パワーポイントを使った発表原稿の作り方:講義と演習、個別相談)				全講師	
1月23日(土)	14:00～16:00	④効果的な発表のために(パワーポイントを使った発表原稿の作り方:講義と演習、個別相談)				全講師	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	印刷用紙(A4 500枚入@400×15)=6,000円 フラットファイル(@530×30)、クリップファイル(@760×7)=21,220円 プリンター(①2,000×1)=12,000円 ボールペン(@170×15)、ホワイトボードマーカー(@100×2)=2,750円						
	合 計				41,970		円
⑰ 備 考	本講座は1回完結型の講座です。同じ内容を2回ずつ開講しますので、ご都合がつく回を受講ください。 研究概論(①、②)は6/20(土)か9/5(土)のいずれか、 効果的な研究発表(③、④)は、11/14(土)か2021年1/23(土)のいずれか一方の日を選んで受講ください。 申込時に受講予定日をご連絡ください。受講予定者少数の回は、開講しないことがあります。 研究の個別相談の時間がありますので、相談を希望の方は研究計画書等資料をご持参下さい。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部

① 講座名	音の体験教室						
② 講座の種類	一般	③ 受講対象者	一般市民	④ 募集人数	10人程度	⑤ 修了証の発行	要 ・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館2F残響室・無響室					⑧ サテライト配信	否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
	2670円						
⑩ 材料費等の有無	有	⑪ 材料費等の金額	2万円	⑫ 材料費等の内訳	ICレコーダ1台		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	音響学の体験教室:非日常の音空間の体験・無響室残教室						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○渡嘉敷健(工学部工学科建築学コース)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月8日	13時から15時	音響学の体験教室:非日常の音空間の体験・無響室残教室					代表:渡嘉敷健
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	ICレコーダ 2万円						
	合 計			2万		円	
⑰ 備 考	台風及び自然災害での日程変更						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部

① 講座名	電子工作教室(ミニ四駆とLEDを題材に)					
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	小学5・6年生	④ 募集人数	10 人	⑤ 修了証の発行 ☒ 要 ・ 不要
⑥ 共催など						
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館2階226教室(電気基礎実験室)・同館2階217-2教室(ものラボ)				⑧ サテライト配信	☒ 可 ・ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)			
	0 円			ウ)児童・生徒を対象とする講座		
⑩ 材料費等の有無	☒ 有 ・ 無	⑪ 材料費等の金額	1,000 円	⑫ 材料費等の内訳	乾電池2本+ミニ四駆1台 55円+1,100円=1,155円	
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	本講座は、子供たち(主に小学生高学年)を対象に、模型工作および電子工作を通して、ものづくりの楽しさを体感していただくことを目的としています。特に、半田ごて等の電子工作用道具を実際に利用していただきながら、その使用法と、簡単な電子回路について学ぶことができます。また、工作後、実際にミニ四駆サーキットにて試走させることができます。					
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)					
	☐ 金城 光永(工学部電気電子工学科准教授)					
	☐ 勢理客 勝則(工学部技術部技術職員)					
	☐ 山下 大輔(工学部技術部技術職員)					
	☐ 渡慶次 高也(工学部技術部技術職員)					
	☐ 大城 諒士(工学部技術部技術職員)					
	☐ 仲宗根 宏貴(工学部技術部技術職員)					
⑮ プ ロ グ ラ ム						
実施日	時間	講座内容				担当講師
8月8日(土)	17:00~19:00	事前準備				上記6名全員
8月9日(日)	09:30~11:00	直前準備				//
//	12:00~	受付開始				//
//	12:30~17:00	LED電子工作・ミニ四駆工作(電気基礎実験室), 試走(ものラボ)				//
//	~17:30	片付け				//
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	・学生アルバイト(10名): 時給760円×(7(当日)+2(事前準備))時間×10名分=68,400円 ・アルバイト事前トレーニング用基板材料・加工費: 1,300円×5セット=6,500円 ・受講生用基板加工費: 300円×10セット=3,000円(材料費1,000円は受講生より徴収のため, 1セット300円) ・その他消耗品費(受講生への配布資料(工作完了証)用紙及びラミネート加工費): 1,000円					
	合 計			78,900		円
⑰ 備 考	当日に材料費として1,000円を徴収いたします(製作した電子工作部品とミニ四駆はお持ち帰り下さい)。作業に必要な工具はこちらで用意いたしますので、当日ご持参いただく道具等はございません。なお、万一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に参加して下さい(必須)。また、可能な限り保護者同伴をお願いいたします。 ※内容の詳細等に関するご質問は金城光永(E-Mail: mitsul8@tec.u-ryukyu.ac.jp)までお問い合わせ下さい。					

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部

① 講座名	ロボットをつくろう!						
② 講座の種類	一般 ・専門	③ 受講対象者	中学生	④ 募集人数	10人	⑤ 修了証の発行	要 ・不要
⑥ 共催など	なし						
⑦ 会場	工学部3号館305コンピュータ実習室					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
	0円						
⑩ 材料費等の有無	有 無	⑪ 材料費等の金額	0円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	本講座では、モーターで動くロボットを製作し、ゲームをします。基本プログラムの変更により、ロボットの動き方を変えることができ、プログラミングが体験できます。どのような「ロボット」を作るかはあなた次第です！夏休みの自由研究としていかがでしょうか。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 比嘉 広樹(工学部工学科電気システム工学コース・教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月16日(日)	9:00～16:30	ロボット製作、プログラミング、ゲーム					比嘉広樹
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	学生アルバイト(5名):単価760円/時間×13時間×5名分=49,400円 電子回路部品:5,500円×10名分=55,000円 ※文科省が2020年度から小学校プログラミング教育の実施を推進しているが、現中学生はこの教育を受けられない。本講座に参加することでプログラミング体験の提供につながる。						
	合 計			104,400			円
⑰ 備 考	万一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に参加してください(必須)。活動記録のための写真撮影を行います。撮影した写真は電気電子系活動報告書等に掲載される場合があります。あらかじめご了承ください。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	夏休み工作教室(ミラクル万華鏡)						
② 講座の種類	一般 ・専門	③ 受講対象者	小学1～3年生 ※保護者同伴のこと	④ 募集人数	10 人	⑤ 修了証の発行	要 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
	無料						
⑩ 材料費等の有無	有 無	⑪ 材料費等の金額	374円	⑫ 材料費等の内訳	偏光フィルム: 3,520円 紙コップ : 110円 テープ : 110円 計3,740円÷10人=374円/1人		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	【趣旨】ものづくりの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 【内容】偏光板を用いて万華鏡を作ります。「ひかり(光)はなみ(波)である」ことを遊びながら勉強しましょう。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○仲宗根宏貴(工学部技術部・技術職員)						
	山下大輔(工学部技術部・技術職員)						
	廣瀬幸三郎(工学部技術部・技術職員)						
	宮里信寿(工学部技術部・技術職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8/1(土)	9:00～11:00	ミラクル万華鏡の作成					仲宗根宏貴 山下大輔 廣瀬孝三郎 宮里信寿
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品類3,000円						
	合 計			3,000		円	
⑰ 備 考	・ 万一の事故に備え、各自で任意の保険に加入して下さい。 ・ 熱中症対策として、各自で飲み物をお持ちください。 ・ 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申込みください。 ・ 当日は必ず保護者同伴でお願いいたします。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	夏休み工作教室「電気工事を体験しよう(小学生対象コース)」					
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	小学生4-6年	④ 募集人数	10 人	⑤ 修了証の発行 ☒ 要 不要
⑥ 共催など						
⑦ 会場	工学部2号館118室(電力実験室)				⑧ サテライト配信	可 ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座		
	0 円					
⑩ 材料費等の有無	☒ 有 ・ 無	⑪ 材料費等の金額	1,100円	⑫ 材料費等の内訳	スイッチ、照明器具、LED、抵抗、単3乾電池他 計11,150円÷10人=1,115円	
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:電気工事用工具を使用して、7色に光るLEDを点灯させる回路を作ります。電気工事の体験を通して電気の流れる仕組みを学びます。					
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)					
	○渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)					
	勢理客 勝則(工学部技術部 技術専門職員)					
	大城 諒士(工学部技術部 技術職員)					
⑮ プ ロ グ ラ ム						
実施日	時間	講座内容				担当講師
8月1日(土)	9:00-12:00	電気工事作業を体験するとともに、LEDを点滅させる回路を製作する。				全講師
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材-主にケーブルなど):10,000円					
	合 計			10,000		円
⑰ 備 考	万が一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に参加してください(必須)。 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申し込みください。また、当日は必ず保護者同伴でお願いします。					

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	夏休み工作教室「電気工事を体験しよう(中学生対象コース)」					
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	中学生	④ 募集人数	10 人	⑤ 修了証の発行 ☒ 要 不要
⑥ 共催など						
⑦ 会場	工学部2号館118室(電力実験室)				⑧ サテライト配信	可 ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)			
	0 円			ウ)児童・生徒を対象とする講座		
⑩ 材料費等の有無	☒ 有 ・ 無	⑪ 材料費等の金額	1400円	⑫ 材料費等の内訳	スイッチ、照明器具、LED、抵抗、単3乾電池他 計13,640円÷10人=1,364円	
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:電気工事用工具を使用して、7色に光るLEDを点灯させる回路を作ります。電気工事の体験を通して電気の流れる仕組みを学びます。					
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)					
	○渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)					
	玉那覇 厚雄(工学部技術部 技術専門職員)					
	仲宗根 宏貴(工学部技術部 技術職員)					
⑮ プ ロ グ ラ ム						
実施日	時間	講座内容				担当講師
8月1日(土)	13:00-17:00	電気工事作業を体験するとともに、LEDを点滅させる回路を製作する。				全講師
⑯ 必要経費希望額 の積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材-主にケーブルなど):15,000円					
	合 計			15,000	円	
⑰ 備 考	万が一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に参加してください(必須)。 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申し込みください。また、当日は保護者同伴可能です。					

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	夏休み工作教室 ― 合金を溶かして風鈴づくり						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	小学校5・6年生	④ 募集人数	8 人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部 付属工作工場 鋳物室					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
	無料 円						
⑩ 材料費等の有無	☒ 有 ・ 無	⑪ 材料費等の金額	1, 000 円	⑫ 材料費等の内訳	・ホワイトメタル 8, 000円÷8人=1, 000		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	趣旨 : もの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている。 内容 : 鋳物砂で作った型の中に、溶けた合金(比較的低融点の金属)を流し込み風鈴を作る。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○與那覇 敏明(工学部技術部 技術専門職員) 、 大城 成栄(工学部技術部 技術専門職員)						
	宮城 紀良(工学部技術部 技術専門職員) 、山里 將史(工学部技術部 技術職員)						
	我如古 将斗(工学部技術部 技術職員) 、 安江 洋人(工学部技術部 技術職員)						
	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月1日(土)	13:00~17:00	合金を溶かして風鈴づくり					與那覇敏明 大城成栄 宮城紀良 山里將史 我如古将斗 安江洋人 山下大輔
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材) : 5, 000円						
	合 計			5,000			円
⑰ 備 考	万が一の事故に備えて、各自で任意の障害保険等に参加して下さい。 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてWeb等に公開する場合があります。予めご了承の上 お申し込み下さい。また、当日は保護者の皆様は作業場外の窓からの見学となります。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	夏休み工作教室 – まわりつづけるコマ						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	小学校4～6年生	④ 募集人数	8 人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
	無料 円						
⑩ 材料費等の有無	有・無	⑪ 材料費等の金額	700円	⑫ 材料費等の内訳	磁石90円/人, 電子材料等370円/人, 木材, 乾電池等100円/人, 容器代60円/人, ホットボンド等接着類50円/人, ボルト類30円/人		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや, 不思議さ等の体験を通して, 子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている。 内容:エナメル線を巻いた電磁石と磁石のコマを作製します。磁石で「入」, 「切」できるスイッチを使うことで電気が発生し, その電気でまわりつづけるコマを作りましょう。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○勢理客 勝則(工学部技術部 技術専門職員)						
	淵脇 秀晃(工学部技術部 技術専門職員)						
	大城 諒士(工学部技術部 技術職員)						
	長田 克之(工学部技術部 再雇用職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月1日(土)	13:00～17:00	電磁石, 磁石コマの作製					勢理客勝則 淵脇秀晃 大城諒士 長田克之
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材):5, 000円 工学部技術部が提供する夏休み工作教室全11テーマ共通の消耗品費:18,000円 内訳:のぼり旗設置用のくいの材料:ステンレスパイプ(φ34mm, t3.0-3.5, 4m)8, 000円×2, 送料2,000円						
	合 計			23,000			円
⑰ 備 考	万が一の事故に備えて, 各自で任意の傷害保険等に参加してください。 熱中症対策として, 各自飲み物をお持ちください。 講座中に写真撮影を行い, 工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上, お申し込みください。また, 当日は必ず保護者同伴でお願いします。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	夏休み工作教室－ホバークラフト						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	小学1～3年生 (保護者同伴のこと)	④ 募集人数	10人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) ☒ 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
	無料 円			ウ) 児童・生徒を対象とする講座のため			
⑩ 材料費等の有無	☒ 有 ・ 無	⑪ 材料費等の金額	600円	⑫ 材料費等の内訳	容器など本体使用品150円/人、電子部品類200円/人、装飾品費150円/人、ホットボンド等接着剤50円/人、電池50円/人		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや, 不思議さ等の体験を通して, 子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容: モーターを用いてホバークラフトを作ります。「気圧」って何だろう? を遊びながら勉強しましょう。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○大城 諒士(工学部技術部・技術職員)						
	玉那覇 厚雄(工学部技術部・技術専門職員)						
	名嘉 秀和(工学部技術部・技術職員)						
	山下 大輔(工学部技術部・技術職員)						
	渡慶次 高也(工学部技術部・技術職員)						
	東舟道 裕亮(工学部技術部・技術職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月8日(土)	9:00～11:00	ホバークラフトの作製					大城 諒士 玉那覇 厚雄 名嘉 秀和 山下 大輔 渡慶次 高也 東舟道 裕亮
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品費(指導に必要な資材):10,000円						
	合 計			10,000		円	
⑰ 備 考	・ 万一の事故に備えて、各自で任意の保険に加入してください。 ・ 熱中症対策として、各自で飲み物をお持ちください。 ・ 講座中に写真撮影をおこない、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申し込みください。 ・ 当日は必ず保護者同伴でお願いします。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	電子回路の製作						
② 講座の種類	一般 専門	③ 受講対象者	小学4～6年生	④ 募集人数	12 人	⑤ 修了証の発行	要 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
	0 円						
⑩ 材料費等の有無	有 無	⑪ 材料費等の金額	1,000円	⑫ 材料費等の内訳	電子部品, 電池, ケース他 計13.863円÷12人=990.2		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:もの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:ブレッドボードという配線器具もしくは、基板を使って電子回路の実験装置を作ります。 装置はマイクロコンピュータを使用したテレビゲームまたはラジオ等を予定しています。詳しい内容は技術部webページの夏休み工作教室(http://www.tec.u-ryukyu.ac.jp/Engineering-Division/)をご覧ください。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 山下 大輔(工学部技術部技術職員)						
	我如古 将斗(工学部技術部技術職員)						
	大城 諒士(工学部技術部技術職員)						
	仲宗根 宏貴(工学部技術部技術職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月8日	13:00-17:00	電子回路の製作					山下 大輔
							我如古 将斗
							大城 諒士
							仲宗根 宏貴
⑯ 必要経費希望額の積算内訳							
	合 計					0	円
⑰ 備 考	万が一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に参加してください(必須)。講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申し込みください。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	夏休み工作教室 - デスクトップPC組み立て・LANケーブル製作体験 -						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	中学生	④ 募集人数	8 人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 不要
⑥ 共催など	なし						
⑦ 会場	工学部2号館217-2号室「ものラボ」					⑧ サテライト配信	可 ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ) 児童・生徒を対象とする講座			
	0円						
⑩ 材料費等の有無	有 ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	趣旨:既に普及しているPCについて、パーツからの組み立て体験・周辺機器(LANケーブル)の作製・それらの説明を聞いてもらうことで、より身近な技術に興味を持ってもらうことを目的としています。 内容:デスクトップPCのパーツを自分で組み上げる「自作PC」の体験と、フリーOSのインストール体験、LANケーブルの作製体験をしてもらいます。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 翁長 竜盛 (琉球大学工学部技術部 技術職員)						
	名 嘉 秀和 (琉球大学工学部技術部 技術職員)						
	長 田 克之 (琉球大学工学部技術部 再雇用職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8/8(土)	13:00 ~ 17:00	自作PCの組み立て・OSのインストール・LANケーブル自作作業					翁長 竜盛
							名 嘉 秀和
							長 田 克之
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	インストールメディア用DVD+ケース 10枚分 1,200円 インストールメディア書き込み用DVDドライブ 3,000円 LANケーブル等の消耗品はまだ余裕があるが、インストールメディアに関して、昨年まで部署で持っていた在庫のディスク、DVDドライブを使用していたが、在庫がなくなり、ドライブも古くなって破損してしまった為、購入したい。						
	合 計				4,200		円
⑰ 備 考	・ 万一の事故に備え、各自で任意の保険に加入して下さい。 ・ 熱中症対策として、各自で飲み物をお持ちください。 ・ 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申込みください。 ・ 当日は必ず保護者同伴可能です。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	夏休み体験教室－エンジンの中をのぞいてみよう！－						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	中学生	④ 募集人数	4 人	⑤ 修了証の発行	要 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	工学部附属工作工場					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない 場合(増額、減額) の理由→ 又は 全学免除(無料)を 希望する場合の 理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を 希望する場合、理由 を選択)	ウ) 児童・生徒を対象とする講座			
	0円						
⑩ 材料費等の有無	有・無	⑪ 材料費等の金額	500円	⑫ 材料費等の 内訳	エンジンヘッドガスケット一式2,000円		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	(趣旨) 身の回りにあるが、普段は中々触れることの無い自動車のエンジンについて、その仕組みを学ぶ機会を設けることで、子どもたちが機械工学分野に興味を持ってもらうことを目的としています。 (内容) はじめに、エンジンが始動することを確認し、冷却している間に内部の構造や燃焼の仕組みを学びます。その後、実際にエンジンを分解し、各部品の役割等を確認しながら、正確に組立てを行います。最後に、エンジンが始動することを確認し、終了となります。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○山里 将史(工学部技術部・技術職員)						
	大城 成栄(工学部技術部・前任技術専門職員)						
	勢理客 勝則(工学部技術部・技術専門職員)						
	佐久本 華乃(工学部技術部・技術職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
2020/8/8	13:00-17:00	エンジンの仕組み(座学)、分解及び組立て(実技)					山里 将史 大城 成栄 勢理客 勝則 佐久本 華乃
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	初年度なので必要な工具を計上しています。 デジタルトルクレンチ(SK11 SDT3-060) 15,000円 ガソリンサブタンク 2,500円 シックネスゲージ 1,000円 タペットアジャストレンチ 2,000円						
	合 計			20,500		円	
⑰ 備 考	・ 万一の事故に備えて、各自で任意の保険に加入して下さい。 ・ 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申し込みください。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	夏休み工作教室 ― 折り紙建築						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	小学校5, 6年生	④ 募集人数	8 人	⑤ 修了証の発行	要 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	工学部2号館2階 技術部室					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ) 児童・生徒を対象とする講座			
	無料 円						
⑩ 材料費等の有無	有・無	⑪ 材料費等の金額	300 円	⑫ 材料費等の内訳	北雪ケント紙 1㍻(100枚) B4(180k)=2,200円 (10枚×8名+予備20枚=100枚) (¥2,200÷8名=¥275≒¥300)		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	趣旨:もの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている。 内容:ケント紙を使って、飛び出す絵本の様な「折り紙建築」(世界遺産を中心に)を製作する。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○淵脇秀晃(琉球大学工学部技術部 技術専門職員)						
	廣瀬孝三郎(琉球大学工学部技術部 技術職員)						
	東舟道裕亮(琉球大学工学部技術部 技術職員)						
	宮里信寿(琉球大学工学部技術部 技術職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8月8日(土)	13:00～17:00	ケント紙を使った「折り紙建築」					淵脇 秀晃 廣瀬 孝三郎 東舟道 裕亮 宮里 信寿
⑯ 必要経費希望額 の積算内訳							
	合 計						円
⑰ 備 考	1. 万が一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に参加してください(必須)。 2. 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。 3. 熱中症対策で、各自飲み物をご持参ください。 4. 当日は、必ず保護者同伴をお願いします。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部技術部

① 講座名	夏休み工作教室-固形燃料で走る船						
② 講座の種類	一般 ・専門	③ 受講対象者	小学生5,6年	④ 募集人数	14人	⑤ 修了証の発行	要 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	工学部1号館1－122室(学生学習室)					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
	無料円						
⑩ 材料費等の有無	有 ・無	⑪ 材料費等の金額	500円	⑫ 材料費等の内訳	銅パイプ、発泡スチロール、パルサ材等7000円÷14人＝500円		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	趣旨:ものの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている。 内容:熱機関を利用したポンポン船を製作しながら、動作原理や金属加工などを学びます。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○宮城 紀良 (工学部技術部 技術専門職員)			照屋 泰彦 (工学部技術部 技術専門職員)			
	與那覇 敏明 (工学部技術部 技術専門職員)			名嘉 海人 (工学部技術部 技術専門職員)			
	安江 洋人 (工学部技術部 技術職員)			野原 幸則(工学部技術部 再雇用技術職員)			
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
8/8(土)	13:00～1700	固形燃料で走る船(ポンポン船)					上記全員
⑯ 必要経費希望額 の積算内訳	固形燃料、塗装用マーカー、カッターナイフ、ライター、トーチ用燃料等: 5, 000円						
	合 計			5,000			円
⑰ 備 考	万が一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に参加して下さい。 船を走らせる時、足元が滑りやすくなりますのでズボンに靴を履いて下さい。また、熱中症予防の為、各自飲み物を準備して下さい。講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上お申込み下さい。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部

① 講座名	シニアのための健康サッカー講座						
② 講座の種類	一般 ・専門	③ 受講対象者	40歳以上のサッカーに興味がある方	④ 募集人数	30 人	⑤ 修了証の発行	要・ 不要
⑥ 共催など	琉球大学（共催:琉大女子サッカー部、沖縄県シニアサッカー連盟）						
⑦ 会場	学内（琉球大学千原キャンパスのサッカーグラウンド）					⑧ サテライト配信	可・ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入）	単価表によらない場合 （増額、減額）の理由 → 又は 全学免除（無料）を希望 する場合の理由→	理由 （単価表によらない場合のみ記入）	ア) 福祉・健康に関する講座			
		円	理由 （全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）				
⑩ 材料費等の有無	有 ・無	⑪ 材料費等の金額	1,000 円	⑫ 材料費等の内訳	グラウンド設営の道具		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	中高年の健康づくりの一環として40歳以上のサッカー愛好者をつどい、生涯スポーツの習慣化を図る。毎週2回(水、金)グラウンドにてサッカーの仲間とゲームを楽しみ、語り合う機会を提供し健康づくりを第一義とする。交流のためのケーム設営および運営は自主的にを行うこととする。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	姜 東植○						
	笹澤 吉明						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
2020/8/1～9/31 毎週水・金	19:00-21:00	交流試合およびケーム運営					姜 東植 笹澤 吉明
2021/2/1～3/31 毎週水・金	19:00-21:00	交流試合およびケーム運営					姜 東植 笹澤 吉明
<予備日> 2020/12/23,25,29	19:00-21:00	交流試合およびケーム運営					姜 東植 笹澤 吉明
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	特になし						
	合 計				1,000 円		
⑰ 備 考	■備考／上記の実施日以外は、琉大女子サッカー部の部活時間に、共同で活動を行う。 ■注意／万一の事故に備えて各自で任意の傷害保険等に参加してください。（必須）						

令和2年度公開講座実施計画書

部局名工学部

① 講座名	沖縄の公害問題で考える平和学習						
② 講座の種類	一般・ <u>専門</u>	③ 受講対象者	市民一般	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	<u>要</u> ・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館2階小会議室					⑧ サテライト配信	<u>可</u> ・否
⑨ 受講料	<u>1. 単価表の通り</u> (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由→ 又は	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)				
	3,180 円	全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑩ 講座の開設趣旨・内容等	沖縄県内にある米軍専用施設は日本全国の70%が集中しています。米軍基地から派生する公害には、「典型七公害」と呼ばれる大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、地盤沈下の問題が少なからず見られる。本講座では、米軍航空機の騒音問題及び、基地から派生すると思われる有害物質による土壌汚染、水質汚染の現状の問題について調査結果もとに解説します。さらに、70年以上前に行われた沖縄での地上戦争における平和学習を環境面で考える事の重要性を話します。						
⑪ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	☐ 渡嘉敷健(工学部工学科准教授)						
	☐ 田代 豊(名桜大学教授)						
	☐ 河村雅美(沖縄国際大学非常勤講師)						
⑫ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
2019/11/2	13:00-15:00	沖縄の米軍基地から発生する航空機騒音に関する調査研究					渡嘉敷健
2019/11/9	13:00-15:00	沖縄本島中部地域を中心とする環境汚染					田代 豊
2019/11/16	13:00-15:00	基地からの汚染による、わたしたちの水の危機					河村雅美
⑬ 必要経費希望額の積算内訳	外部講師謝金:2h×@6,230×2d=¥24,920 学生アルバイト(3名):単価760円(1時間)×3時間×3名分=6, 840円 USBフラッシュメモリ(3個):2G 1, 260円×3個=3, 780円 その他消耗品(印刷用紙代等):5, 000円						
	合 計					40,540 円	
⑭ 備 考							

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部

① 講座名	ホールマネージメント						
② 講座の種類	一般 ・ 専門	③ 受講対象者	ホール技術者及び一般	④ 募集人数	10人	⑤ 修了証の発行	要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館2F残響室・無響室及び小会議室					⑧ サテライト配信	否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)				
	3180円		理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	有	⑪ 材料費等の金額	5万円	⑫ 材料費等の内訳	ホール使用料		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	ホールマネージメントでは、文化施設や文化芸術振興分野で働く社会人及び興味を抱く人を対象として、芸術・マネジメント・工学を三本の柱に据え、総合的かつ実践的な知識の習得を提供したいと考えています。今回の講座では、音響学、音響設計、音空間の体験・無響室残響室内実験や愛される音楽ホールのつくりかた：沖縄シュガーホールとコミュニティ及びオーケストラ楽団員の練習から演奏会までの体験談について実演を行いながら解説いたします。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○渡嘉敷健(工学部工学科建築学コース)						
	林 峰栄(沖縄交響楽団コンサートマスター)						
	人選中						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
10月4日	13時から15時	音響学、音響設計、音空間の体験・無響室残教室内実験					渡嘉敷健
10月11日	13時から15時	劇場の指定管理制度。県内劇場の自主企画及び貸し館業務について					渡嘉敷健
10月18日	13時から15時	オーケストラ楽団員の練習から演奏会までの体験談					林 峰栄
10月25日	13時から15時	舞台演出について					人選中
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	外部講師謝金:2h×@6,230×2d=¥24,920、ICレコーダ¥2万円、ホール使用料:5万円						
	合 計				94920		円
⑰ 備 考	台風及び自然災害での日程変更						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習(筆記・上期)						
② 講座の種類	一般・ 専門	③ 受講対象者	市民一般並びに大学生	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	要 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館313室					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	大学生の受講料は半額を希望します。			
	3,700円 (大学生は1,850円)						
⑩ 材料費等の有無	有・ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	第二種電気工事士は、一般住宅、小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり、合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では電気工事士施行令第8条にある7つの試験範囲(基礎理論、配電理論など)をわかりやすく解説し、過去問題を盛り込んで計算問題や配線図問題の解き方などが学べます。この講座は初心者の方やしっかり理論を学んで資格を取りたい方にお勧めします。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 比嘉 晃(工学部工学科電子情報通信コース 教授)						
	勢理客 勝則(工学部技術部 技術専門職員)						
	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)						
	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)						
	仲宗根 宏貴(工学部技術部 技術職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
4月18日(土)	9:00～12:00	「基礎理論」				比嘉 晃 勢理客 勝則 渡慶次 高也 山下 大輔 仲宗根 宏貴	
5月25日(土)		「配電理論及び配線設計」,「一般用電気工作物の保安に関する法令」					
5月9日(土)		「電気工事の施工方法」					
5月16日(土)		「電気機器, 配線器具並びに電気工事用の材料及び工具」,「一般用電気工作物の検査方法」					
5月23日(土)		「配線図」					
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	その他消耗品(印刷用紙代等): 10, 000円						
	合 計			10,000		円	
⑰ 備 考	本講座ではオーム社の「第二種電気工事士筆記完全マスター第2版」(ISBN:978-4-274-50716-8)を使用します。各自持参するようにしてください。 *第二種電気工事士試験の詳細は(財)電気技術者試験センターホームページにてご確認ください。 *お問合せは勢理客勝則(E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp, Tel:098-895-8644, Fax:098-895-8708)にお願いします。 WEB予約サイト掲載希望期間: R2.3/20(金)～4/17(金)						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習(筆記・下期)						
② 講座の種類	一般 ☐ 専門 ☒	③ 受講対象者	市民一般並びに大学生	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	要 ☐ 不要 ☒
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館313室					⑧ サテライト配信	可 ☐ 否 ☒
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	大学生の受講料は半額を希望します。			
	3,700円 (大学生は1,850円)						
⑩ 材料費等の有無	有 ☐ 無 ☒	⑪ 材料費等の金額		円	⑫ 材料費等の内訳		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	第二種電気工事士は、一般住宅、小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり、合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では電気工事士施行令第8条にある7つの試験範囲(基礎理論、配電理論など)をわかりやすく解説し、過去問題を盛り込んで計算問題や配線図問題の解き方などが学べます。この講座は初心者の方やしっかり理論を学んで資格を取りたい方にお勧めします。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	☐ 比嘉 晃(工学部工学科電子情報通信コース 教授)						
	☐ 勢理客 勝則(工学部技術部 技術専門職員)						
	☐ 渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)						
	☐ 山下 大輔(工学部技術部 技術職員)						
	☐ 仲宗根 宏貴(工学部技術部 技術職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
8月29日(土)	9:00～12:00	「基礎理論」				比嘉 晃 勢理客 勝則 渡慶次 高也 山下 大輔 仲宗根 宏貴	
9月5日(土)		「配電理論及び配線設計」,「一般用電気工作物の保安に関する法令」					
9月12日(土)		「電気工事の施工方法」					
9月19日(土)		「電気機器, 配線器具並びに電気工事用の材料及び工具」,「一般用電気工作物の検査方法」					
9月26日(土)		「配線図」					
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	その他消耗品(印刷用紙代等): 10, 000円						
	合 計			10,000		円	
⑰ 備 考	本講座ではオーム社の「第二種電気工事士筆記完全マスター第2版」(ISBN:978-4-274-50716-8)を使用します。各自持参するようにしてください。 *第二種電気工事士試験の詳細は(財)電気技術者試験センターホームページにてご確認ください。 *お問合せは勢理客勝則(E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp, Tel:098-895-8644, Fax:098-895-8708)にお願いします。 WEB予約サイト掲載希望期間: R2.7/31(金)～8/21(金)						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習(技能・上期)						
② 講座の種類	一般・ 専門	③ 受講対象者	市民一般並びに大学生	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	要 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	大学生の受講料は半額を希望します。			
	4,730円 (大学生は2,365円)						
⑩ 材料費等の有無	有 ・無	⑪ 材料費等の金額	5,000 円	⑫ 材料費等の内訳	VVVF1.6-2C, IV1.6など各種電線3,700円/人 スイッチ, リングスリーブなど電材1,300円/人 全8回分合計の材料費となります。		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	第二種電気工事士は、一般住宅、小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり、合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では(財)電気技術者試験センターから公表された候補問題13問題を実際に作り、合格するために必要な基礎的技術を学ぶことができます。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 比嘉 晃(工学部工学科電子情報通信コース 教授)						
	勢理客 勝則(工学部技術部 技術専門職員)						
	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)						
	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)						
	仲宗根 宏貴(工学部技術部 技術職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
6月6日(土)	9:00～12:00 *6/20, 27(土)は2 回分の講義を行います 9:00～12:00 13:00～16:00	基本作業, 安全注意並びに候補問題への取り組み					比嘉 晃 勢理客 勝則 渡慶次 高也 山下 大輔 仲宗根 宏貴
～							
7月18日(土)							
7月11日はお休み							
全8回実施							
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	・消耗品費(指導するために必要な資材):40,000円 経年劣化する工具のメンテナンス代(補修, 維持), 代替え品購入代(工具は消耗します)が必要となります。 また, 工具メンテナンスやで不定期に物品を購入する場合があります(除湿剤など)。 ・その他消耗品(印刷用紙代等):5,000円						
	合 計			45,000		円	
⑰ 備 考	作業に必要な工具はこちらで準備いたします(貸出可)。講習は筆記試験合否発表前から行いますので, 筆記試験の自己採点が合格ラインを突破していることをご確認後お申込みください。全8回実施するため2回分を行う日があります。7/11(土)は琉球大学オープンキャンパスのため, お休みとなります。各自で任意の保険にご加入ください(必須)。 *第二種電気工事士の詳細は(財)電気技術者試験センターにお問い合わせください。 *お問い合わせは勢理客勝則(E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp, Tel:098-895-8644, Fax:098-895-8708)にお願いします。 WEB予約サイト掲載希望期間: R2.5/8(金)～6/5(金)						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 工学部

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習(技能・下期)						
② 講座の種類	一般・ 専門	③ 受講対象者	市民一般並びに大学生	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	要 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館226室(電気基礎実験室)					⑧ サテライト配信	可 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	大学生の受講料は半額を希望します。			
	4,730円 (大学生は2,365円)						
⑩ 材料費等の有無	有 ・無	⑪ 材料費等の金額	5,000 円	⑫ 材料費等の内訳	VVVF1.6-2C, IV1.6など各種電線3,700円/人 スイッチ, リングスリーブなど電材1,300円/人 全8回分合計の材料費となります。		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	第二種電気工事士は、一般住宅、小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり、合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では(財)電気技術者試験センターから公表された候補問題13問題を実際に作り、合格するために必要な基礎的技術を学ぶことができます。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 比嘉 晃(工学部工学科電子情報通信コース 教授)						
	勢理客 勝則(工学部技術部 技術専門職員)						
	渡慶次 高也(工学部技術部 技術職員)						
	山下 大輔(工学部技術部 技術職員)						
	仲宗根 宏貴(工学部技術部 技術職員)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
10月17日(土)	9:00～12:00	基本作業, 安全注意並びに候補問題への取り組み					比嘉 晃 勢理客 勝則 渡慶次 高也 山下 大輔 仲宗根 宏貴
～							
12月5日(土)							
毎週土曜日							
全8回実施							
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	・消耗品費(指導するために必要な資材):40,000円 経年劣化する工具のメンテナンス代(補修, 維持), 代替え品購入代(工具は消耗します)が必要となります。 また, 工具メンテナンスやで不定期に物品を購入する場合があります(除湿剤など)。 ・その他消耗品(印刷用紙代等):5,000円						
	合 計			45,000		円	
⑰ 備 考	作業に必要な工具はこちらで準備いたします(貸出可)。講習は筆記試験合否発表前から行いますので, 筆記試験の自己採点が合格ラインを突破していることをご確認後お申込みください。各自で任意の保険にご加入ください(必須)。 *第二種電気工事士の詳細は(財)電気技術者試験センターにお問い合わせください。 *お問い合わせは勢理客勝則(E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp, Tel:098-895-8644, Fax:098-895-8708)にお願いします。 WEB予約サイト掲載希望期間: R2.9/18(金)～10/16(金)						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 農学部

① 講座名	3歳児のための子どもシェフクラブ						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	申込時 3歳児	④ 募集人数	人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ・ 不要
⑥ 共催など	沖縄子ども食育研究会						
⑦ 会場	教育学部本館 306教室					⑧ サテライト配信	可 ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)				
	3, 180円		理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	☒ 有 ・ 無	⑪ 材料費等の金額	2,000円	⑫ 材料費等の内訳	第1回全粉食パン、かまあげシラス、マヨネーズ、チーズ、鰹節、味噌、キュウリ、トマト、砂糖、しょうゆ、油、麦こがし、黒砂糖、第二回は栄養士になる学生献立で残りの金額で献立作成をする		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	3歳児のための子どもシェフクラブの趣旨:この講座は、一人でクッキングすることをおして、人生の選択能力を育成することが目的です。食は、知育・徳育・体育の基礎となるもので、全てのいのちの源です。食育基本法を受けて策定された保育指針では、「調理」という生活体験が出てくるのが3歳児です。3歳児になると自主的にやりたいという気持ちが芽生えます。その自主性の芽生えをサポートするために、保護者は、手伝わず3歳児ひとりでチャレンジしていく講座です。保護者ご自身も子どもの発達段階を理解した上で、失敗を恐れない、子どもの可能性を信じる教育活動ができるようになるでしょう。、100歳人生の今、お1人様の時代です。幼児が自分の人生を選択する自らクッキングするを身につけていくことはとても重要です。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名) ○ 森山 克子(農学部 健康栄養科学コース 准教授) 上原悠 上原あずみ、小橋川 知世、當山 萌成、大屋 リサ、諸見里美咲(農学部亜熱帯生物資源学科健康栄養科学コース4年次)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
6月6日(土)	8:50~13:00	予定献立:パン献立(例:しらすトースト、ふりふりサラダ、かちゅーゆ、ゆーめく)					
7月4日(土)	9:20~13:00	学生作成献立					
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	当日の配布用インク:ブラザー3129MFC-J6995CDW LC3129BKブラック1本1,600円、LC3129Mマゼンダ1本1600円、LC3129Cシアン1本1600円、LC3129イエロー1600円キヤノン、カラー写真印刷用上質白紙100枚600円、 学生アルバイト(4人)単価790円(1時間)×3時間×4名分×1日目=9,480円 学生アルバイト(4人)単価790円(1時間)×3時間×4名分×2日目=9,480円						
	合 計			25,960		円	
⑰ 備 考	アレルギーの有無や年齢、アンケート調査への協力等を確認した上で参加者を決定させて頂き当方から当選者をお知らせします。 ・食育推進の調査研究に協力頂けるご家族とお子様を対象とし、食事調査や行動調査等についての記録、アンケート等研究にご協力いただける方を条件とします。 ・レクレーション保険は各自でご加入をお願いします。 ・初回、材料費、資料のための2,000円を徴収させていただきます。 ・エプロン、三角布(バンダナでも可)上履きのご準備をお願いします。献立は(案)のため、変更する場合もあります。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 グローバル教育支援機構保健管理部門

① 講座名	心理リハビリテーション・ボランティア養成講座						
② 講座の種類	一般・ ☒ 専門	③ 受講対象者	教育・福祉・医療従事者、障がい児(者)の家族、学生等	④ 募集人数	50人	⑤ 修了証の発行	要・ ☒ 不要
⑥ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)						
⑦ 会場	琉球大学大学会館3階特別会議室					⑧ サテライト配信	☒ 可・ ☐ 否
⑨ 受講料	① 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は	理由 (単価表によらない場合のみ記入)	イ) 福祉的配慮が必要な方を対象とする講座			
	0円	全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	☒ 有・ ☐ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳	コピー用紙(A3、A4)		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	心理学で「からだ」というとき、それは肉体ばかりでなく、同時に「わたし(自我)」という「こころ」の存在を意味します。心理リハビリテーションは、障がいのある人の心身の成長・健康を支援する方法として開発されましたが、現在は障がいのある・なしに関わりなく、心身のコンディションを高め・維持する方法として日本全国で活用されています。沖縄県では、心身に障がいのある人とその家族が、心理リハビリテーション(動作法)を学ぶ勉強会を沖縄本島(西原町、名護市)、石垣市、宮古島市などで開催しています。本講座では、このような活動をサポートする専門家の方、当事者のご家族のための入門講座です。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門)、金城昇(琉球大学名誉教授)、金城志麻(琉球大学障がい学生支援室)						
	平山篤史・野村れいか(沖縄国際大学)、与那嶺司(沖縄統合医療学院)、						
	宮城茂(沖縄県立鏡が丘特別支援学校)、鳥養広(沖縄県立大平特別支援学校)、上原均(元八重山特別支援学校)						
	伊志嶺ユカリ(宮古島徳洲会病院)、我喜屋良行・高江洲慶(国立病院機構琉球病院)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容					担当講師
4月25日(土)	9:30~10:15	講義Ⅰ					古川卓
	10:30~11:30	講義Ⅱ					金城昇
	11:30~12:30	ランチョンセミナー(※障がい児者の家族限定です。対象でない方は昼食休憩です。)					金城志麻
	13:00~16:30	バズセッション(実技講習)					全講師
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	印刷用紙A3判ひと〆、A4判ひと〆						
	合 計						円
⑰ 備 考	会場は机椅子を置かず、セラピーマット(弾力性のあるマット)を敷き詰めた状態で行います。午後のバズセッションでは、10名程度で小グループを作り、動作法の実習(ロールプレイ)を行います。仰臥位、側臥位で行う課題もありますので、実習に適した動きやすい服装でご参加ください。なお、当日保険料として500円(予価)を受付で徴収いたします。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 グローバル教育支援機構保健管理部門

① 講座名	心理リハビリテーション(動作法)Ⅰ						
② 講座の種類	一般 ・ ☒ 専門	③ 受講対象者	特別支援教育担当教員、公認心理師、介護施設職員など	④ 募集人数	10人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ☐ 不要
⑥ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)						
⑦ 会場	琉球大学保健管理センター					⑧ サテライト配信	可 ☒ 否
⑨ 受講料	① 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は	理由 (単価表によらない場合 のみ記入)	イ) 福祉的配慮が必要な方を対象とする講座			
	一部無料	全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	☒ 有 ・ ☐ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳	コピー用紙(A3、A4)		
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	障がい者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、特別支援学校教員・特別支援教育担当者、福祉施設や医療機関の専門家(臨床心理士、医師、看護師、介護福祉士、ヘルパーなど)を対象に、理論の講義と実技を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、障がい者とその家族は当事者として動作法を学ぶ。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門・教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
5月11日(月)・18日 (月)・25日(月)	17:30~19:30	講義、実習、討論				古川卓	
6月1日(月)・8日 (月)・15日(月)・22 日(月)・29日(月)	〃	〃				〃	
7月6日(月)	〃	〃				〃	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	印刷用紙A3判ひと〆、A4判ひと〆						
	合 計						円
⑰ 備 考	障がい者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、特別支援学校教員・特別支援教育担当者、福祉施設や医療機関の専門家(臨床心理士、医師、看護師、介護福祉士、ヘルパーなど)を対象に、理論の講義と実技を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、障がい者とその家族は当事者として動作法を学ぶ。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 グローバル教育支援機構保健管理部門

① 講座名	心理リハビリテーション(動作法)Ⅱ						
② 講座の種類	一般 ・ ☒ 専門	③ 受講対象者	特別支援教育担当教員、公認心理師、介護施設職員など	④ 募集人数	10人	⑤ 修了証の発行	☒ 要 ☐ 不要
⑥ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)						
⑦ 会場	琉球大学保健管理センター					⑧ サテライト配信	可 ☒ 否
⑨ 受講料	① 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	イ) 福祉的配慮が必要な方を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	☒ 有 ・ ☐ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳	コピー用紙(A3、A4)		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	障がい者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、特別支援学校教員・特別支援教育担当者、福祉施設や医療機関の専門家(臨床心理士、医師、看護師、介護福祉士、ヘルパーなど)を対象に、理論の講義と実技を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、障がい者とその家族は当事者として動作法を学ぶ。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名) 古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門・教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
10月5日(月)・12日(月)・19日(月)・26日(月)	17:30～19:30	講義、実習、討論				古川卓	
11月2日(月)・9日(月)・16日(月)・30日(月)	〃	〃				〃	
12月14日(月)	〃	〃				〃	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	印刷用紙A3判ひと〆、A4判ひと〆						
	合 計						円
⑰ 備 考	障がい者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、特別支援学校教員・特別支援教育担当者、福祉施設や医療機関の専門家(臨床心理士、医師、看護師、介護福祉士、ヘルパーなど)を対象に、理論の講義と実技を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、障がい者とその家族は当事者として動作法を学ぶ。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 グローバル教育支援機構保健管理部門

① 講座名	心理リハビリテーション(動作法)キャンプin石垣島					
② 講座の種類	一般 ・ ☒ 専門	③ 受講対象者	(有料)教育・福祉・医療従事者(無料)障がい者とその家族	④ 募集人数	(有料)10人 (無料)20人	⑤ 修了証の発行 要 ☒ 不要
⑥ 共催など	NPO法人 ちゅらハウス(共催) / 沖縄県教育委員会(後援名義使用)					
⑦ 会場	NPO法人 ちゅらハウス				⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座		
⑩ 材料費等の有無	☒ 有 ・ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳	コピー用紙(A3、A4)	
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	八重山地区で障がい者の援助を行っている専門家(教育、福祉、医療)に、障がい者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、理論の講義と実技、ならびに臨床実習を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、地域の障がい者とその家族に対し、個別的に指導を行う。					
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名) ○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門・教授) 上原均(元沖縄県立八重山特別支援学校・教諭)					
⑮ プログラム						
実施日	時間	講座内容			担当講師	
7月11日(土)	10:00～16:00	講義、実習、討論			全講師	
7月12日(日)	10:00～16:00	実習、討論			全講師	
					全講師	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	印刷用紙代等1,500円 旅費1人×50,000円(航空運賃)+1人×8,000円(宿泊)×2泊=67,500円 会場使用料(未定)					
	合 計			67,500+会場使用料		円
⑰ 備 考	参加者は期間中、講座に協力する障がい者の担当インストラクターとなります。動作練習を行いますので動きやすい服装で参加してください。なお、保険料として1,500円程度ご負担いただきます。また、補助テキストは2,200円です(希望者のみ)。					

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 グローバル教育支援機構保健管理部門

① 講座名	心理リハビリテーション(動作法)キャンプin宮古島						
② 講座の種類	一般 ・ ☒ 専門	③ 受講対象者	(有料)教育・福祉・医療従事者(無料)障がい者とその家族	④ 募集人数	(有料)10人 (無料)20人	⑤ 修了証の発行	要 ☒ 不要
⑥ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)						
⑦ 会場	沖縄県立宮古特別支援学校(交渉中)					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	☒ 有 ・ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳	コピー用紙(A3、A4)		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	宮古島地区で障がい児・者の援助を行っている専門家(教育、福祉、医療)に、障碍児・者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、理論の講義と実技、ならびに臨床実習を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、地域の障がい児とその家族に対し、個別的に指導を行う。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名) ○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門・教授) 伊志嶺ユカリ(宮古島徳洲会病院・理学療法士・公認心理師)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
7月27日(月)	10:00～16:00	講義、実習、討論				全講師	
7月28日(火)	10:00～16:00	実習、討論				全講師	
7月29日(水)	10:00～12:00	実習、討論				全講師	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳		印刷用紙代等1,500円 旅費1人×46,000円(航空運賃)+1人×8,000円(宿泊)×3泊=70,000円 会場使用料(未定)					
		合 計				71,500+会場使用料 円	
⑰ 備 考	参加者は期間中、講座に協力する障がい者の担当インストラクターとなります。動作練習を行いますので動きやすい服装で参加してください。なお、保険料として1,500円程度ご負担いただきます。また、補助テキストは2,200円です(希望者のみ)。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 グローバル教育支援機構保健管理部門

① 講座名	自立活動に活かす動作法出前講座in那覇特別支援学校						
② 講座の種類	一般 ・ ☒ 専門	③ 受講対象者	特別支援学校児童生徒とその家族および教職員	④ 募集人数	未定	⑤ 修了証の発行	要 ・ ☒ 不要
⑥ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)						
⑦ 会場	沖縄県立那覇特別支援学校					⑧ サテライト配信	可 ・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ) 児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	有 ・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳	コピー用紙(A3、A4)		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	心理リハビリテーション(動作法)は、特別支援学校の教科の一つである「自立活動」に取り入れられている方法のひとつである。本講座では、動作法の実践を行っている沖縄県立那覇特別支援学校に講師が訪問し、「自立活動」の時間に希望する児童生徒とその保護者、教員に向けて動作法の実践を指導する出前講座である。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門・教授)						
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
5月(調整中)	9:30～15:00	動作法の指導方法に関する助言				古川卓	
9月(調整中)	9:30～15:00	動作法の指導方法に関する助言				古川卓	
9月(調整中)	9:30～15:00	動作法の指導方法に関する助言				古川卓	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳							
	合 計						円
⑰ 備 考	沖縄県立那覇特別支援学校の児童生徒と保護者、教員を対象とした講座ですので、原則は本校関係者とします。他の学校から参加を希望なさる場合は、事前に沖縄県立那覇特別支援学校にお問い合わせください。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 グローバル教育支援機構保健管理部門

① 講座名	自立活動に活かす動作法出前講座in泡瀬特別支援学校						
② 講座の種類	一般・ ☒ 専門	③ 受講対象者	特別支援学校児童生徒とその家族および教職員	④ 募集人数	未定	⑤ 修了証の発行	要・ ☒ 不要
⑥ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)						
⑦ 会場	沖縄県立泡瀬特別支援学校					⑧ サテライト配信	可・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ) 児童・生徒を対象とする講座			
	0円						
⑩ 材料費等の有無	有・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳	コピー用紙(A3、A4)		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	心理リハビリテーション(動作法)は、特別支援学校の教科の一つである「自立活動」に取り入れられている方法のひとつである。本講座では、動作法の実践を行っている沖縄県立泡瀬特別支援学校に講師が訪問し、「自立活動」の時間に希望する児童生徒とその保護者、教員に向けて動作法の実践を指導する出前講座である。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門・教授)						
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
8月(調整中)	9:30~15:00	動作法の指導方法に関する助言				古川卓	
9月(調整中)	9:30~15:00	動作法の指導方法に関する助言				古川卓	
						古川卓	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳							
	合 計					円	
⑰ 備 考	沖縄県立泡瀬特別支援学校の児童生徒と保護者、教員を対象とした講座ですので、原則は本校関係者とします。他の学校から参加を希望なされる場合は、事前に沖縄県立泡瀬特別支援学校にお問い合わせください。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 グローバル教育支援機構保健管理部門

① 講座名	自立活動に活かす動作法出前講座in鏡が丘特別支援学校						
② 講座の種類	一般・ ☒ 専門	③ 受講対象者	特別支援学校児童生徒とその家族および教職員	④ 募集人数	未定	⑤ 修了証の発行	要・ ☒ 不要
⑥ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)						
⑦ 会場	沖縄県立鏡が丘特別支援学校					⑧ サテライト配信	可・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
	0円						
⑩ 材料費等の有無	有・ ☒ 無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳	コピー用紙(A3、A4)		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	心理リハビリテーション(動作法)は、特別支援学校の教科の一つである「自立活動」に取り入れられている方法のひとつである。本講座では、動作法の実践を行っている沖縄県立鏡が丘特別支援学校に講師が訪問し、「自立活動」の時間に希望する児童生徒とその保護者、教員に向けて動作法の実践を指導する出前講座である。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門・教授)						
⑮ プ ロ グ ラ ム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
10月(調整中)	9:30~12:00	動作法の指導方法に関する助言				古川卓	
10月(調整中)	9:30~12:00	動作法の指導方法に関する助言				古川卓	
1月(調整中)	9:30~12:00	動作法の指導方法に関する助言				古川卓	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳							
	合 計						円
⑰ 備 考	鏡が丘特別支援学校の児童生徒とその保護者、特別支援学校教職員を対象とした出前講座です。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名 グローバル教育支援機構保健管理部門

① 講座名	心理リハビリテーション(動作法)キャンプin名護						
② 講座の種類	一般・ ☒ 専門	③ 受講対象者	(有料)教育・福祉・医療従事者(無料)障がい者とその家族	④ 募集人数	(有料)5人(無料)10人	⑤ 修了証の発行	☒ 要・不要
⑥ 共催など	沖縄県教育委員会(後援名義使用)						
⑦ 会場	沖縄県立名護青少年の家(申請予定)					⑧ サテライト配信	可・ ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り(下記に金額記入) 2. 表によらない(金額及び理由を記入)	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は	理由(単価表によらない場合のみ記入)	イ) 福祉的配慮が必要な方を対象とする講座			
	0円	全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由(全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑩ 材料費等の有無	☒ 有・無	⑪ 材料費等の金額	円	⑫ 材料費等の内訳	コピー用紙(A3、A4)		
⑬ 講座の開設趣旨・内容等	沖縄本島中北部で障碍児・者の援助を行っている専門家(教育、福祉、医療)に、障碍児・者の心身のコントロールを促す方法である「動作法」を、理論の講義と実技、ならびに臨床実習を通して実践的に学ぶ機会を提供する。また、地域の障碍児とその家族に対し、個別的に指導を行う。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門・教授)						
	我喜屋良行(国立病院機構琉球病院・公認心理士)						
	鳥養広(沖縄県立大平特別支援学校)						
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
10月(調整中)	13:00～17:00	講義、実習、討論				全講師	
10月(調整中)	10:00～13:00	実習、討論				全講師	
⑯ 必要経費希望額の積算内訳	印刷用紙代等1,500円 会場使用料(未定)						
	合 計			1,500+会場使用料			円
⑰ 備 考	参加者は期間中、講座に協力する障がい者の担当インストラクターとなります。動作練習を行いますので動きやすい服装で参加してください。なお、保険料として1,500円程度ご負担いただきます。また、補助テキストは2,200円です(希望者のみ)。						

令和二年度公開講座実施計画書

部局名:グローバル教育支援機構 国際教育センター

① 講座名	ドイツの学校で行われている「民主的シティズンシップ教育」						
② 講座の種類	☒ 一般 ・ 専門	③ 受講対象者	中学生～高校生	④ 募集人数	20～40 人	⑤ 修了証の発行	不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	学内／学外(依頼先の中学校・高校等)，希望により出前講義の調整が可能					⑧ サテライト配信	可 ☒ 否
⑨ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由 → 又は 全学免除(無料)を希望 する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合 のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望 する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑩ 材料費等の有無	無	⑪ 材料費等の金額	0円	⑫ 材料費等の内訳			
⑬ 講座の開設趣旨・ 内容等	趣旨:これからのグローバル社会を主体的に生きるためにはどんな能力が必要でしょうか。一緒に考えてみましょう。 内容:ドイツの学校教育で行われている「民主的シティズンシップ教育」の紹介を行います。皆さんと同じくらいの学年の人がどんな様子かみて自分たちと比べてみましょう。						
⑭ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 名嶋義直(グローバル教育支援機構 国際教育センター・教授)						
⑮ プログラム							
実施日	時間	講座内容				担当講師	
調整可能	調整可能	ドイツの学校教育で行われている「民主的シティズンシップ教育」の紹介				名嶋義直	
⑯ 必要経費希望額の 積算内訳	その他消耗品(印刷用紙代等):5,000円						
	合 計			5,000			円
⑰ 備 考	複数の学校等からご依頼があれば調整の上、1校ごとに個別で開催いたします。学外の中学校・高校を会場にした開催をご希望の場合、遠方ですと交通費のみご負担をお願いすることがあります。						



地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学

第3回 琉大未来共創フォーラム

Island wisdom, for the world, for the future.

【テーマ】

高等教育における 女性のリーダーシップ ～津田梅子の後継者育成に学ぶ～



講演者

たかはし ゆうこ
高橋 裕子

(津田塾大学 学長
同大学芸学部英語英文学科 教授)

(略歴)

1980年津田塾大学英文学科卒業。84年筑波大学大学院修士課程修了。米・カンザス大学大学院にて83年M.A., 89年Ph. D.取得。97年津田塾大学助教授、04年同教授、16年より学長。専門はアメリカ社会史(家族・女性・教育)、ジェンダー論。著書に『津田梅子の社会史』(玉川大学出版部、2002年、アメリカ学会清水博賞)、『女性と高等教育—機会拡張と社会的相克』(昭和堂、2008年)(分担執筆)、『家族と教育』(明石書店、2011年)(共編著)、三成美保編著『教育とLGBTIをつなぐ—学校・大学の現場から考える』(青弓社、2017年)(分担執筆)等。アメリカ学会会長、ジェンダー史学会常任理事、日本学術会議連携会員、日本私立大学連盟常務理事。

日時

令和2年2月10日(月)13:30～15:00

(13:15 開場)

会場

琉球大学共通教育棟 1号館 118

概要

女性の高等教育をめざす私塾「女子英学塾」として、津田梅子により設立された津田塾大学の高橋学長をお招きし、高等教育における女性のリーダーシップ、津田梅子がどのようにして後継者を育成していたかをご講演いただきます。

本フォーラムは、令和元年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」の一環として開催します。

「琉大21世紀フォーラム」は第100回の開催をもちまして、名称を「琉大未来共創フォーラム」に変更しました

お申込・お問い合わせ : 琉球大学 総合企画戦略部 地域連携推進課 企画係

【事前申込 2/7(金)まで】 TEL:098-895-8997・8998 FAX:098-895-8185 Email: chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

入場
無料

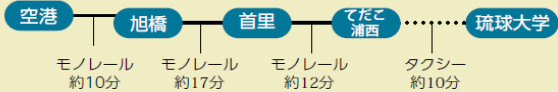
下記QRコードからでも
お申込いただけます。



那覇バスターミナルから琉球大学



モノレール&タクシー



空港から琉球大学



高速バス

111 117 番線

●琉球バス・沖縄バス・那覇バス・東陽バスの4社が交互運行
※各20～40分に1本程度／所要時間：40～50分

113 123 152 番線

●琉球バス 経路 空港→沖縄自動車道→琉大入口下車
(琉大入口にて下車、琉大北口まで徒歩約4分)
※1時間に1本程度／所要時間：45分

首里駅琉大快速線

94 番線→琉大南口／北口方面

●那覇バス モノレール首里駅から琉大北口まで(平日のみ運行)
経路 首里駅前→汀良三丁目→城東小学校前→石嶺二丁目→
棚原→キリスト教短大入口→琉大附属病院前→
琉大附属小学校→琉大法文学部前(琉大北口行きのみ)→
琉大北口(終点)

那覇バスターミナルから琉球大学



路線バス

97 番線「琉大東口／北口方面」

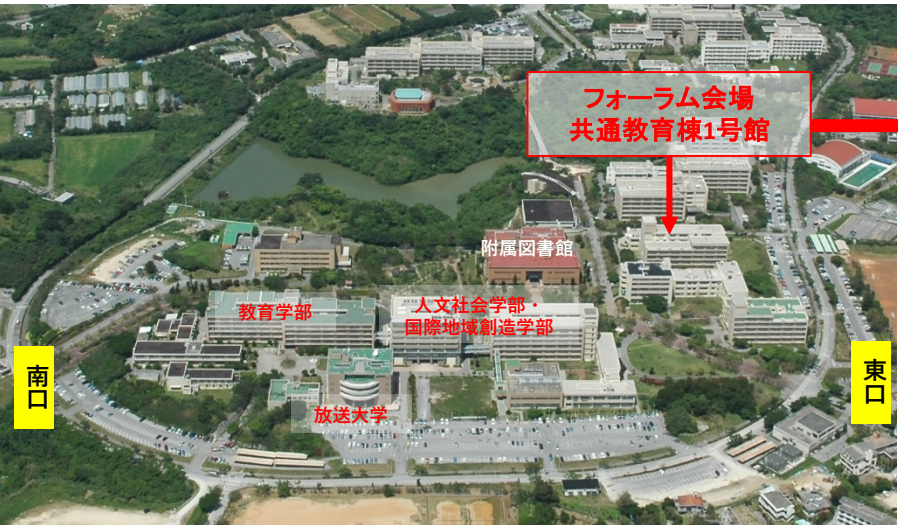
●那覇バス 経路 バスターミナル→国際通り(牧志)→儀保(首里)→
琉大附属病院→琉大東口→琉大北口(終点)

98 番線「琉大北口方面」

●琉球バス 経路 バスターミナル→国際通り(牧志)→パイパス→
真栄原→冲国大前→琉大北口(終点)
※各20～40分に1本程度／所要時間：40～50分



↑アクセスマ
ップ、キャンパス
マップはこちら
からもご確認
いただけます



第3回 琉大未来共創フォーラム 参加申込書

	氏名	ご職業・所属先
1		
2		
3		
4		
5		
6		

当日受付にて混雑を避けるため、事前申込みにご協力ください。

ご参加予定の企業・団体名、参加者氏名をご記載の上、2月7日(金)までに申込フォーム(表面 QR コード)、
FAXもしくはメール(chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp あて)にてお申込みください。

【個人情報について】

本フォーラム申込み等で取得した個人情報については、本学の個人情報管理規則に基づき適切に管理し、本フォーラムの参加者への案内・運営以外の目的には使用いたしません。



地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学

第3回 琉大未来共創フォーラム

Island wisdom, for the world, for the future.

【テーマ】

高等教育における 女性のリーダーシップ ～津田梅子の後継者育成に学ぶ～

琉球大学での講演の様子
をサテライト教育システム
により配信します

講演者

高橋 裕子

(津田塾大学 学長

同大学芸学部英語英文学科 教授)

(略歴)

1980年津田塾大学英文学科卒業。84年筑波大学大学院修士課程修了。米・カンザス大学大学院にて83年M.A.、89年Ph. D.取得。97年津田塾大学助教授、04年同教授、16年より学長。専門はアメリカ社会史(家族・女性・教育)、ジェンダー論。著書に『津田梅子の社会史』(玉川大学出版部、2002年、アメリカ学会清水博賞)、『女性と高等教育—機会拡張と社会的相克』(昭和堂、2008年)(分担執筆)、『家族と教育』(明石書店、2011年)(共編著)、三成美保編著『教育とLGBTIをつなぐ—学校・大学の現場から考える』(青弓社、2017年)(分担執筆)等。アメリカ学会会長、ジェンダー史学会常任理事、日本学術会議連携会員、日本私立大学連盟常務理事。

日時 令和2年2月10日(月)13:30～15:00

会場 琉球大学共通教育棟1号館118

映像配信
会場

琉球大学での講演の様子をサテライト教育システムにより、3会場に配信します。

- ①国頭キャンパス【国頭村民ふれあいセンター】
- ②大宜味キャンパス【大宜味村農村活性化センター】
- ③名桜大学【北部生涯学習推進センター】

概要

入場
無料

女性の高等教育をめざす私塾「女子英学塾」として、津田梅子により設立された津田塾大学の高橋学長をお招きし、高等教育における女性のリーダーシップ、津田梅子がどのようにして後継者を育成していたかをご講演いただく同講演の様子をサテライト教育システムにより配信します。

本フォーラムは、令和元年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」の一環として開催します。

「琉大21世紀フォーラム」は第100回の開催をもちまして、名称を「琉大未来共創フォーラム」に変更しました

お申込・お問い合わせ : 琉球大学 総合企画戦略部 地域連携推進課 企画係

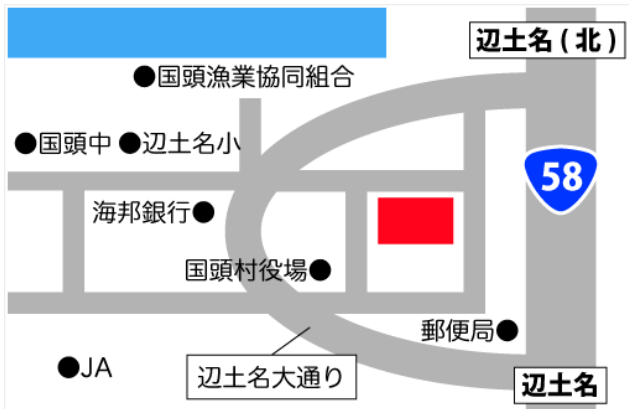
【事前申込 2/6(木)まで】 TEL:098-895-8997・8998 FAX:098-895-8185 Email: chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

下記QRコードからでも
お申込いただけます。

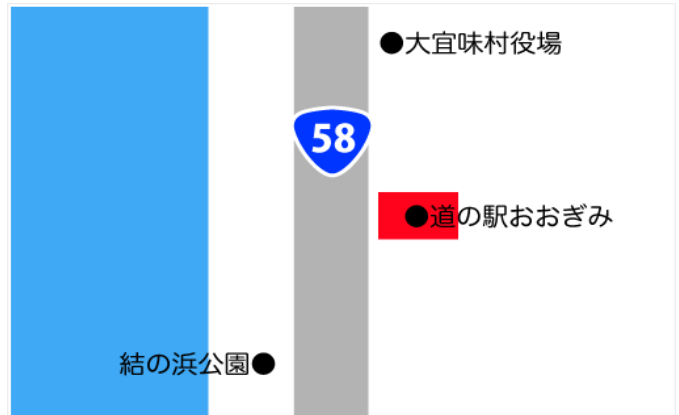


映像配信会場案内

①国頭キャンパス
【国頭村民ふれあいセンター】



②大宜味キャンパス
【大宜味村農村活性化センター】



③名桜大学【名桜大学キャンパス内北部生涯学習推進センター】



第3回 琉大未来共創フォーラム参加申込書

	氏名	ご職業・所属先	配信先での視聴をご希望の場合は、希望する会場いずれかを○で囲んでください
1			①国頭 ②大宜見 ③名桜大学
2			①国頭 ②大宜見 ③名桜大学
3			①国頭 ②大宜見 ③名桜大学
4			①国頭 ②大宜見 ③名桜大学
5			①国頭 ②大宜見 ③名桜大学

事前申込みにご協力ください。

ご参加予定の企業・団体名、参加者氏名、希望するサテライト会場をご記載の上、**2月6日(木)まで**に申込フォーム(表面 QR コード)、FAXもしくはメール(chikikaku@acs.u-ryukyuu.ac.jp あて)にてお申込みください。

【個人情報について】

本フォーラム申込み等で取得した個人情報については、本学の個人情報管理規則に基づき適切に管理し、本フォーラムの参加者への案内・運営以外の目的には使用いたしません。

「琉球大学地域連携F D・S D研修会」について

地域連携企画室

70周年事業の地域連携企画展実施に向け、本学教職員の地域連携活動の必要性を再認識してもらうため、以下の講師による研修会を開催する。

1. 開催の目的

教職員が研究成果を地域社会に展開する思考法や手法・成功例などを学ぶことで、本学の地域連携・地域貢献活動の活性化と併せ、70周年事業の地域連携企画展実施の一助とする。

2. 開催日時

令和2年3月6日（金曜日）

14:00～16:00（挨拶15分、講演90分、質疑応答15分）

3. 開催会場

候補1：共通教育棟3-104（96名収容）

候補2：共通教育棟2-100（81名収容）

4. 対象者

- ・ 学内の教員・研究者、技術職員、事務職員
- ・ 沖縄県内大学の教職員 等

5. 講師

東京都市大学人間科学部教授 早坂 信哉氏【温泉博士、お風呂博士】

1968年、宮城県生まれ。自治医科大学医学部卒業後、地域医療に従事。2002年自治医科大学大学院医学研究科修了。浜松医科大学医学部講師、同准教授、大東文化大学教授を経て現職。

6. 演題

「論文発表の先にあるもの ―研究成果の地域展開―」

毎年多数の研究成果が学会や学術論文で発表されているが、研究成果は研究者の世界だけで共有されるだけではなく、広く地域社会に発信されることが求められている。

学内戦略第135号
令和2年1月8日

理事（研究・企画担当） 殿
理事（地域・社会連携担当） 殿

学 長
（公印省略）

琉大イノベーションイニシアティブ（仮称）の設置について（依頼）

本学は国立大学として、「産業界及び自治体との連携を強化し、地域との教育研究両面における本格的な協働による社会のイノベーションを先導すること」が求められており、従来の地域連携推進機構及び研究推進機構の枠組みを超えて取り組んでいく必要が生じている。

ついては、先の企画経営戦略会議において、「イノベーションの先導に向けた体制の見直しについて」として提案した、琉大イノベーションイニシアティブ（仮称）に係る検討を下記のとおり依頼するものである。

記

1. 検討すべき事項

琉大イノベーションイニシアティブ（仮称）に関する具体的検討

- ・イノベーションに関するプラットフォームの構築について
- ・プラットフォームにおける取組について

2. 回答期限

令和2年3月末日

令和元年12月9日以降 各室・部門の当面の活動予定（主要事項）について

※前回からの追記事項は赤字入力

組織名	主要事項
地域連携企画室	○目的別人材育成プログラムの開発・実施 ・地域企業（自治体）お題解決プログラム（後学期火5限） ・IoTシステムセキュリティ実践講座（7/20（土）～2/15（土）全4回） ・地域円卓マネジメント会議（10/26～2/2 全5回） ・ファシリテーションの技法と地域振興（11/9～1/18 全5回） ・キャリアデザインとジェンダーⅡ（10/3～1/30 全15回） ・ソーシャルキャピタル構築講座（島マス記念塾 in 琉大）（11/30～2/8 全15回）
	○2019年度学長特別政策経費重点施策推進枠事業の遂行
	○琉球大学地域連携FD・SD 研修会の開催
	○地域協働プロジェクト推進事業の遂行
	○与那国町及び伊江村とのICT実証実験の実施（2/6, 2/7）
	○地域連携推進機構の機能強化に向けた体制整備についての検討（地域連携に関するワンストップ窓口機能の整理含む）
	○交流人材バンク設置に向けた検討（機能、体制、規則等）
	○包括連携協定締結に向けた検討・調整 ・大阪市港区 ※調整中 ・沖縄県中小企業家同友会 ※調整中
	○宜野湾市議会とのパートナーシップ協定の検討・調整
産学官連携部門	○沖縄県「イノベーション創出人材育成事業」の遂行 DIVE INTO2020開催（OKINAWA Startup Festatなどとの同時開催） 日時：2月6日（木）13：00～ 場所：沖縄コンベンションセンター会議棟
	○沖縄県「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」の遂行
	○産学官金スタートアップ支援事業の遂行
	○琉球大学ブランド商品開発支援事業の遂行
	○九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金の支援
	○2019年度学長特別政策経費重点施策推進枠事業の遂行
生涯学習推進部門	○地域創生副専攻の運営
	○地域共創型学生プロジェクト「ちゅらプロ」（学内公募）の実施
	○正課外地域実践プロジェクト（学内公募）の実施
	○地域共創による地域志向実習（久米島、宮古島、石垣、うるま、南城、宜野湾、西原）
	○「知のふるさと納税」（八重山9/17～9/18、久米島9/24～9/25）の報告書作成
	○地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）フォローアップに係る現地視察（12/13 13：00～）

地域連携推進機構運営会議 委員名簿

(令和元年 1 1 月 1 1 日時点)

	所属・職名	氏名	区分	備考
1	機構長 (理事・副学長(地域・社会連携担当))	うしくぼ きよし 牛窪 潔	1 号委員	議長
2	副機構長 兼 産学官連携部門長 (副学長・副理事(産学官連携担当))	たけむら あきひろ 竹村 明洋	2 号委員	議長代行
3	地域連携企画室長 (生涯学習推進部門 教授)	せ と ひろふみ 背戸 博史	3 号委員	
4	生涯学習推進部門長 (生涯学習推進部門 教授)	せ と ひろふみ 背戸 博史	4 号委員	
5	生涯学習推進部門 准教授	しばた さとし 柴田 聡史	5 号委員	専任教員
6	地域連携企画室 特命准教授	こじま はじめ 小島 肇	6 号委員	特任教員
7	地域連携企画室 特命准教授	しまぶくろ あきみち 島袋 亮道	6 号委員	特任教員
8	地域連携企画室 特命准教授	はたなか ひろし 畑中 寛	6 号委員	特任教員
9	産学官連携部門 教授 (工学部 教授)	せ な は いずる 瀬名波 出	7 号委員	併任教員 (任期:2019年4月1日～)
10	産学官連携部門 教授 (理学部 教授)	まえひら たかひろ 眞榮平 孝裕	7 号委員	併任教員 (任期:2019年4月1日～)
11	総合企画戦略部長	につた さなえ 新田 早苗	9 号委員	
12	総合企画戦略部 地域連携推進課長	きんじょう とおる 金城 徹	1 0 号委員	
13				
14				

国立大学法人琉球大学地域連携推進機構規則

平成 28 年 2 月 23 日
制 定

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人琉球大学組織規則第 16 条第 2 項の規定に基づき、国立大学法人琉球大学地域連携推進機構(以下「機構」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 機構は、国立大学法人琉球大学(以下「本法人」という。)における地域連携、産学官連携及び生涯学習推進に関わる戦略を全学的かつ一体的な観点から確立し、地域社会における人材の育成、産業振興に貢献するとともに地域連携の諸活動を通して本法人における教育研究活動の活性化を図ることを目的とする。

(部門等)

第 3 条 前条の目的を達成するため、機構に次の室、部門、系及びセンターを置く。

- (1) 地域連携企画室
- (2) 産学官連携部門
 - ア 研究開発支援系
 - イ 知的財産系
 - ウ 起業支援系
- (3) 生涯学習推進部門
 - ア 社会教育系
 - イ 地域志向教育系
- 2 前項 1 号の地域連携企画室に交流人材センターを置く。
- 3 交流人材センターに関し必要な事項は、別に定める。

(業務)

第 4 条 機構においては、次に掲げる業務を行う。

- (1) 地域連携企画室
 - ア 機構全体の統括、方向性に関すること。
 - イ 機構内の組織間の協働体制の構築に関すること。
 - ウ 機構とグローバル教育支援機構、研究推進機構及び学部・研究科等との協働体制の構築に関すること。
 - エ 機構と産学官をはじめとする多様な組織との協働体制の構築に関すること。
 - オ 学内外への地域連携に係る広報戦略策定と実施に関すること。
 - カ 産学官民からの協力要請及び要望等に関する総合窓口に関すること。
- (2) 産学官連携部門
 - ア 民間機関等との共同研究、受託研究その他研究開発の支援に関すること。
 - イ 民間機関等の技術者及び学生等への技術教育の実施及び援助に関すること。
 - ウ 知的財産の創生、内容評価、特許出願、管理及び活用に関すること。
 - エ 知的財産の契約及び係争に関すること。
 - オ 知的財産の補償、表彰及び啓発普及に関すること。
 - カ 知的財産の技術移転に関すること。
 - キ 知的財産及びノウハウを活用した大学発ベンチャーの起業支援に関すること。
 - ク その他産学官連携の推進に関すること。

(3) 生涯学習推進部門

- ア 生涯学習体系に資する教育・研究に関すること。
- イ 公開講座及び公開授業の計画・実施の支援に関すること。
- ウ 本法人が有する生涯学習に資する機能の開放に関すること。
- エ 地域志向教育の推進に関すること。
- オ 地域人材の育成に関すること。
- カ 他の教育機関及び地域の生涯学習機関等との連携・協力に関すること。
- キ その他生涯学習に関すること。

(組織)

第5条 機構に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 室長
- (4) 部門長
- (5) 専任教員
- (6) 特任教員
- (7) 併任教員
- (8) コーディネーター
- (9) その他の職員

(機構長)

第6条 機構に、機構長を置き、地域連携を担当する理事をもって充てる。

2 機構長は、機構の業務を掌理し、統括する。

(副機構長)

第7条 副機構長は、機構長の職を補佐するとともに、機構長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 副機構長は、本法人の副理事又は教員の中から機構長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(室長)

第8条 室長は、当該室の業務を掌理するとともに、機構長の職務を補佐する。

- 2 室長は、本法人の教員の中から機構長の推薦に基づき学長が任命する。
- 3 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門長)

第9条 部門長は、当該部門の業務を掌理するとともに、機構長の職務を補佐する。

- 2 部門長は、本法人の教員の中から機構長の推薦に基づき学長が任命する。
- 3 部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、部門長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(地域連携推進会議)

第10条 機構の運営並びに全学の地域貢献及び地域連携等に関する事項を審議するため、地域連携推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

2 推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

(地域連携推進協議会)

第11条 機構に対する評価・助言等を行うため、地域連携推進協議会を置く。

2 地域連携推進協議会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営会議)

第12条 機構の運営に関わる基本方針の策定を行うため、地域連携推進機構運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

(審議事項)

第13条 運営会議は、次に掲げる事項の基本方針の策定について審議する。

- (1) 機構の管理運営に関すること。
- (2) 機構の教員人事（教員選考に係る部分を除く。）に関すること。
- (3) 機構の事業計画に関すること。
- (4) その他機構に関すること。

(運営会議の組織)

第14条 運営会議は、次に掲げる委員で構成する。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 室長
- (4) 部門長
- (5) 専任教員
- (6) 特任教員
- (7) 機構長が指名する併任教員 若干人
- (8) コーディネーター
- (9) 総合企画戦略部長
- (10) 地域連携推進課長
- (11) その他機構長が必要と認めた者

2 前項第7号及び第11号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第15条 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

2 議長は運営会議を招集し、主宰する。

3 議長に事故があるとき又は欠けたときは、副機構長がその職務を代行する。

(議事)

第16条 運営会議は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

2 議決を要する事項については、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を運営会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第17条 機構に専門的事項を審議するため、専門委員会を置くことができる。

(事務)

第18条 機構に関する事務は、総合企画戦略部地域連携推進課において処理する。

(雑則)

第19条 この規則に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、推進会議の承認を得て機構長が別に定める。

(改廃)

第20条 この規則の改廃は、推進会議の議を経て学長が行う。

附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 琉球大学産学官連携推進規則（平成20年4月22日制定）は、廃止する。
- 3 琉球大学生涯学習教育研究センター規則（平成9年3月25日制定）は、廃止する。
- 4 琉球大学地域貢献推進委員会規程（平成14年6月25日制定）は、廃止する。

附 則（平成30年3月30日）

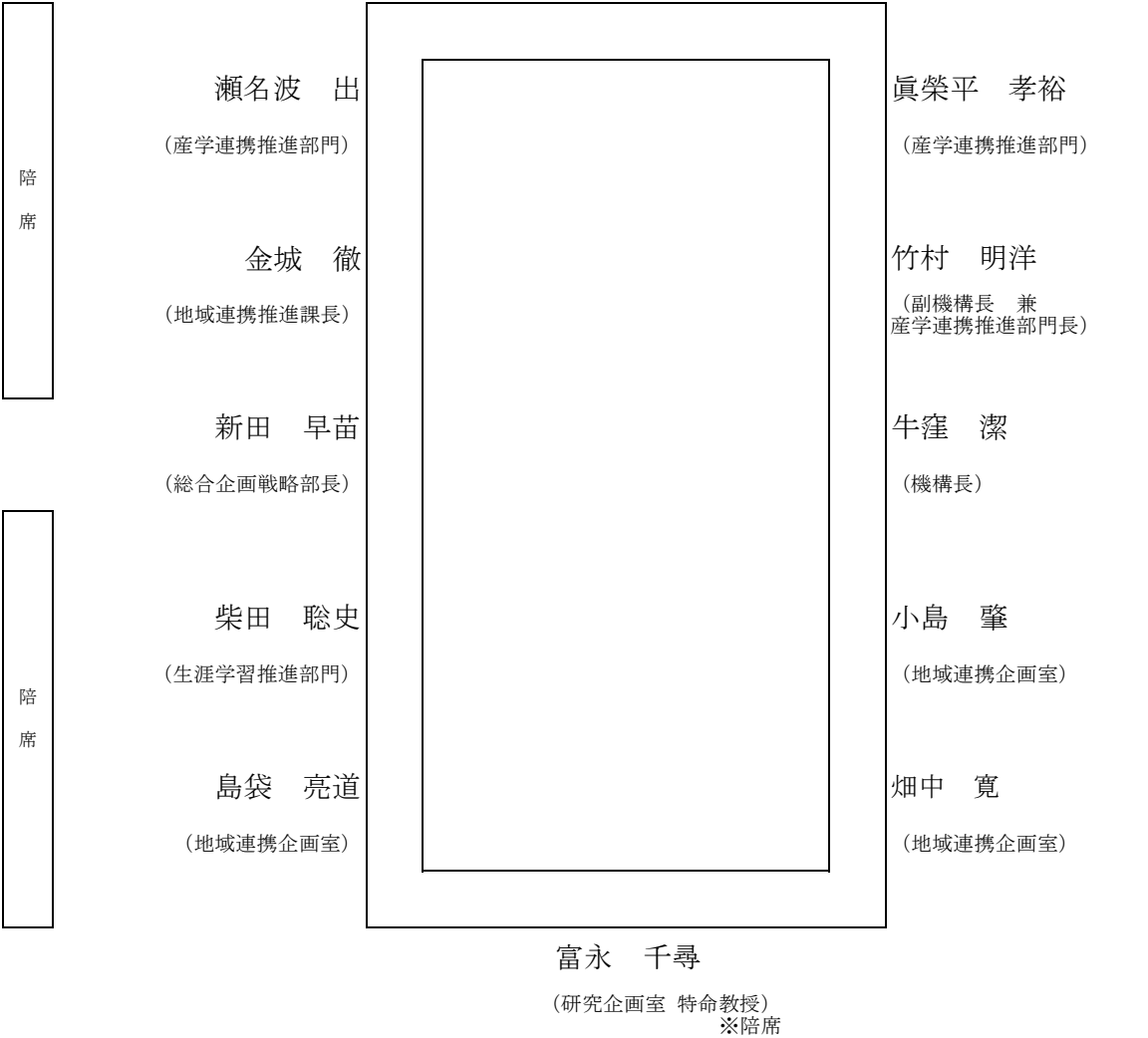
この規則は、平成30年4月1日から施行する。

令和元年度第 1 8 回 地域連携推進機構運営会議 座席表

令和 2 年 1 月 2 0 日（月） 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0
（本部管理棟 2 階 第二会議室）

（監事 ※陪席）

嘉目 克彦



入 口

（欠席）

背戸 博史
（地域連携企画室長 兼 生涯
学習推進部門長）